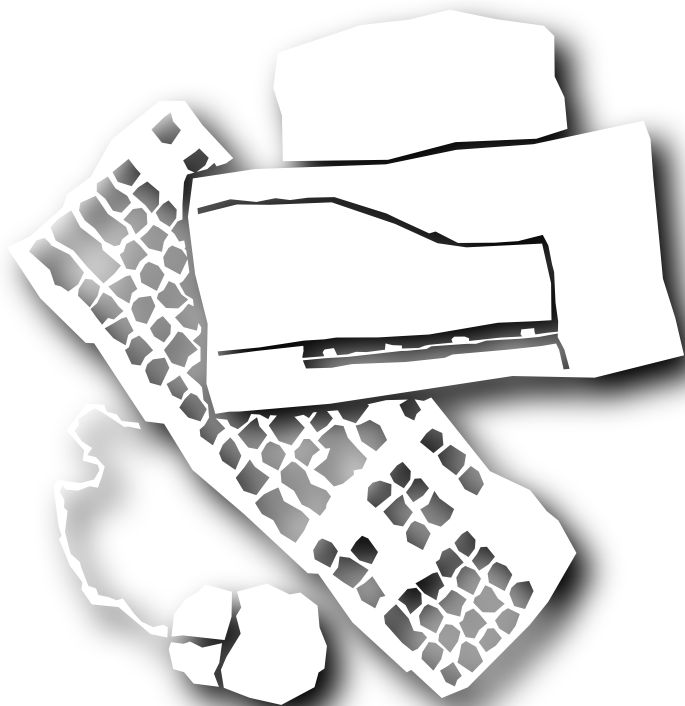


FMV SERIES

FMV-DESKPOWER CIX40L/CIX40Lc/CIX407c/
CIX35L/CIX357/CIX355



FMV 本体 & オプションガイド

パソコン本体の取り扱い方法や
オプション機器の接続方法を説明しています。
プリンタやメモリを接続するときなど、
必要なときにお読みください。

B3FH-4931-01

- ▶ 本パソコンの取り扱い
- ▶ オプション機器を使うには
- ▶ BIOSセットアップ
- ▶ 仕様一覧
- ▶ 付録
- ▶ 索引

5

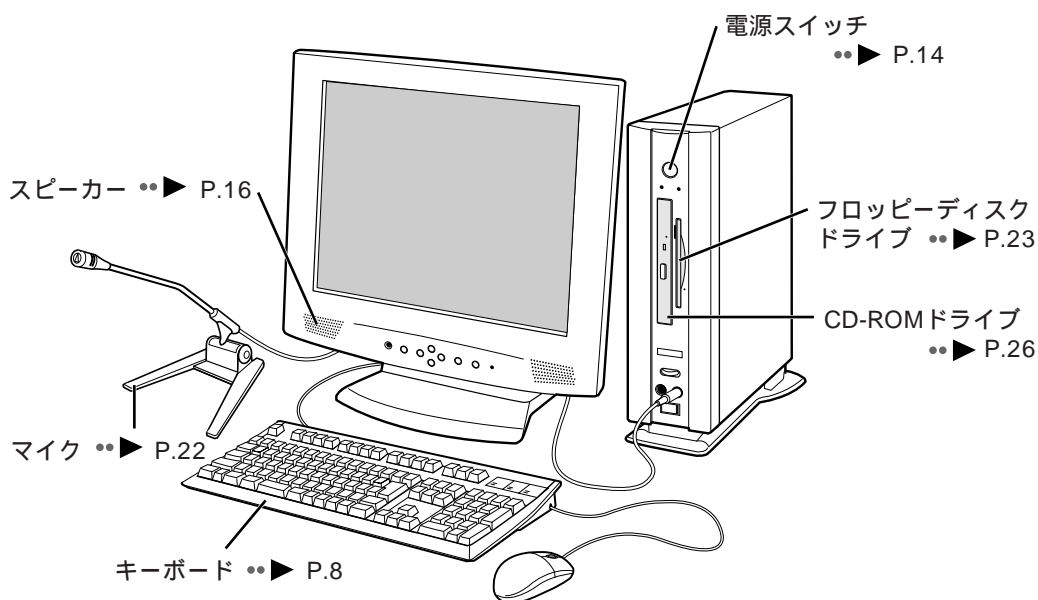
FUJITSU

『FMV 本体&オプションガイド』は、本パソコンの取り扱い方法や、別売りのオプション機器の取り付け方法について説明しています。

ここでは、本書の各章の内容を説明します。

第1章 本パソコンの取り扱い

本パソコンの各部の名称と働きや、取り扱い方法について説明しています。●▶P.1

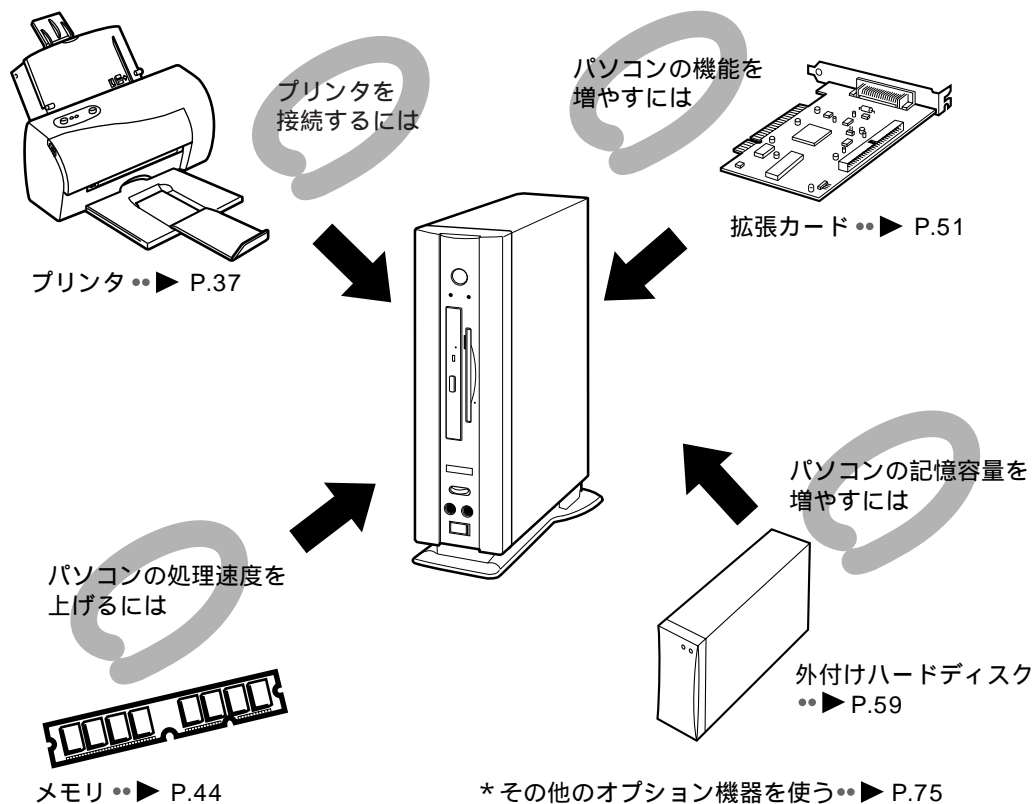


*お手入れのしかた ●▶P.29

(イラストはCⅩ40Lです)

第2章 オプション機器を使うには

別売りのオプション機器の取り付け方法や設定方法について説明しています。▶▶ P.33



第3章 BIOS セットアップ

BIOS セットアップの設定方法や設定をご購入時の状態に戻す方法、パスワードの設定方法などについて説明しています。▶▶ P.81

日常にお使いになる範囲では、BIOS セットアップを操作する必要はありません。

仕様一覧

本パソコンの仕様や、リソースについて説明しています。▶▶ P.125

付録



その他の注意事項などについて説明しています。▶▶ P.135

本書の表記について




安全にお使いいただくための絵記号について

本パソコンおよびその他のオプション機器を安全にお使いいただくために、以降の記述内容を必ずお守りください。


本書では、いろいろな絵表示をしています。これは装置を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、本文をお読みください。

 警告	 注意
この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。


また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使っています。

記号の例とその意味	
	で示した記号は、警告・注意をうながす内容であることを告げるものです。記号の中には、具体的な警告内容（左図の場合は感電注意）が示されています。
	⓪で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中には、具体的な禁止内容（左図の場合は接触禁止）が示されています。
	で示した記号は、必ずしたがっていただく内容であることを告げるものです。記号の中には、具体的な指示内容（左図の場合は一般的な強制事項）が示されています。

画面例および入力例について

- 表記されている画面は一例です。お使いの機種やモデルによって、画面が若干異なる場合があります。
- お客様に入力していただく文字列（コマンドライン）などは、入力例の文字上にアミ  をかけて表しています。
- 特に指定がない場合、英数字、記号は半角で入力します。また、大文字と小文字の区別はありません。
- 入力時に空白を入れる必要がある場合は、以下のように表しています。

dir c:



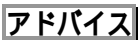








この場合は、「dir」と入力したあと、（空白キー）を1回押し、続けて「c:」と入力してください。

イラストについて

- FMV-DESKPOWER C^{IX}40Lを縦置きしている場合を例にしています。他の機種では若干異なる場合があります。
- 本来接続されている縦置き用フットやケーブル等を省略している場合があります。

本文中の記号について

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

	お使いになるときに注意していただきたいことや、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
	操作する前に確認していただきたいことを記述しています。必ずお読みください。
	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
	知っていると便利なことを記述しています。必要に応じてお読みください。
	手順が分かれる場合などに、次に進む箇所を示しています。
	参照先を記述しています。
	ご覧になっていただきたいマニュアルを記述しています。  の中に番号がある場合は、マニュアルの表紙の番号を示しています。
	CD-ROM を表しています。
	フロッピーディスクを表しています。
	覚えていただきたい用語を解説しています。パソコンを初めてお使いになる方はぜひお読みください。

製品の呼びかたについて

製品名称を、次のように略して表記しています。

製品名称	本書での表記
Microsoft® Windows® 98 operating system	Windows98
Microsoft® Windows NT® Workstation operating system Version4.0	WindowsNT4.0
VirusScan for Windows 95/98	VirusScan
情報処理機器の省エネルギー化推進に関する法律	省エネ法

機種名の表記について

次のように略して表記しています。

製品名称	本書での表記
FMV-DESKPOWER C X 40L/C X 40Lc/C X 407c/C X 35L/C X 357/C X 355	本パソコン
FMV-DESKPOWER C X 40L	C X 40L
FMV-DESKPOWER C X 40Lc	C X 40Lc
FMV-DESKPOWER C X 407c	C X 407c
FMV-DESKPOWER C X 35L	C X 35L
FMV-DESKPOWER C X 357	C X 357
FMV-DESKPOWER C X 355	C X 355

目次

本書のご案内

本書の表記について

第 1 章 本パソコンの取り扱い

1. 各部の名称と働き	2
● パソコン本体前面	2
● パソコン本体背面	4
● パソコン本体内部	6
● キーボード	8
2. 電源を入れる / 電源を切る	10
● 電源を入れる	10
● 電源を切る	12
● 電源スイッチについて	14
3. スピーカー / ヘッドホンを使う	16
● スピーカーの各部の名称と働き	16
● スピーカー取り扱い上の注意 (CXX407c/CXX357/CXX355 をお使いの方)	17
● スピーカーの音量を調節する	17
● ヘッドホンを使う	20
4. マイクを使う	22
● マイク取り扱い上の注意	22
5. フロッピーディスクを使う	23
● お使いになれるフロッピーディスク	23
● フロッピーディスク取り扱い上の注意	24
● フロッピーディスクをセットする / 取り出す	25
● フロッピーディスクのデータを守るには	25
6. CD-ROM を使う	26
● お使いになれる CD-ROM や音楽 CD	26
● CD-ROM や音楽 CD 取り扱い上の注意	26
● CD-ROM や音楽 CD をセットする / 取り出す	27
7. お手入れのしかた	29
● パソコン本体 / ディスプレイ / キーボード / スピーカーのお手入れ	29
● マウスのお手入れ	30
● フロッピーディスクドライブのお手入れ	31
● CD-ROM ドライブのお手入れ	32

第2章 オプション機器を使うには

1. オプション機器を増設する前に	34
● 取り付けられるオプション機器	34
● オプション機器の接続にあたって	35
2. プリンタを接続する	37
● プリンタを接続するまで	37
● 必要なものを用意する	38
● プリンタを接続する	39
3. 本体カバーを取り外す / 取り付ける	42
● 本体カバーを取り外す	42
● 本体カバーを取り付ける	43
4. メモリを増やす	44
● メモリを増やすまで	44
● 必要なものを用意する	45
● メモリを取り付ける	47
5. 拡張カードを増設する	51
● 拡張カードを増設するまで	51
● 拡張カードを取り付ける前に	52

コラム

代表的な拡張カードの種類	52
--------------------	----

● 拡張カードを取り付ける	55
6. ハードディスクを増設する	59
● ハードディスクを増設するまで	59
● ハードディスクを取り付ける前に	60

コラム

終端抵抗 (ターミネータ)	61
---------------------	----

● 外付けハードディスクを取り付ける	62
● 領域を設定する	64

コラム

ハードディスク増設時のドライブ名の割り当て	70
-----------------------------	----

● フォーマットする	71
7. その他のオプション機器を使う	75
● MO (光磁気ディスク) ドライブを使う	75
● スキャナを使う	76
● ターミナルアダプタを接続する	77
● USB 機器を接続する	77
● マルチモニタ機能を使う	79

コラム

プライマリモニタとセカンダリモニタ	80
-------------------------	----

第3章 BIOS セットアップ

1. BIOS セットアップとは	82
2. BIOS セットアップの操作のしかた	83
● BIOS セットアップを起動する	83
● 設定を変更する	84
● 変更内容を取り消す	85
● BIOS セットアップを終了する	86
3. ご購入時の設定に戻す	88
4. BIOS セットアップメニューの詳細	90
● System Information	91
● Product Information	92
● Date and Time	93
● Boot Options	94
● Disk Drives	96
コラム	
「Hard Disk Size>504MB」の「504MB」とは	99
● Peripherals	101
● Video	104
● PnP/PCI	105
● Power Management	107
● System Management	110
● Exit Setup Utility	111
5. パスワードを使う	113
● パスワードの種類	113
● パスワードを使うまで	113
● パスワードを設定する	114
● パスワードを変更 / 削除する	120
6. BIOS が表示するメッセージ一覧	122
● メッセージが表示されたときは	122
● メッセージ一覧	122

仕様一覧

1. 仕様一覧	126
● パソコン本体	126
● FAX / ボイスモデムカード	127
● サウンド機能	127
● スピーカー (C X 407c/C X 357/C X 355 添付).....	128
● 表示できる解像度と発色数	128
2. 本パソコンのリソースについて	129
● リソース一覧	129

コラム

リソース、IRQ、DRQ、I/Oポートアドレスとは	130
---------------------------------	-----

● リソースを解放する	131
3. コネクタのピン配列と信号名	133

付録

1. ディスプレイドライバ/サウンドドライバのインストール.....	136
● インストールのときに気を付けること	136
● ディスプレイドライバをインストールする	137
● サウンドドライバをインストールする	139
2. その他の注意事項	144
● グラフィックスカードをお使いになるうえでの注意	144
● 液晶ディスプレイの特性 (C X 40L/C X 40Lc/C X 35Lをお使いの方).....	144
● 液晶ディスプレイの廃棄 (C X 40L/C X 40Lc/C X 35Lをお使いの方).....	144
● PS/2 互換マウスの表示 (C X 40L/C X 40Lc/C X 35Lをお使いの方).....	144
● スタンバイ時の注意 (C X 40L/C X 40Lc/C X 35Lをお使いの方).....	145
● 市販の MIDI 機器を接続するには	145
● ACPI について	145

索引	149
----------	-----

1

本パソコンの取り扱い

パソコン本体やキーボードなどの取り扱い方法やお手入れのしかた、各部の名称などについて説明しています。

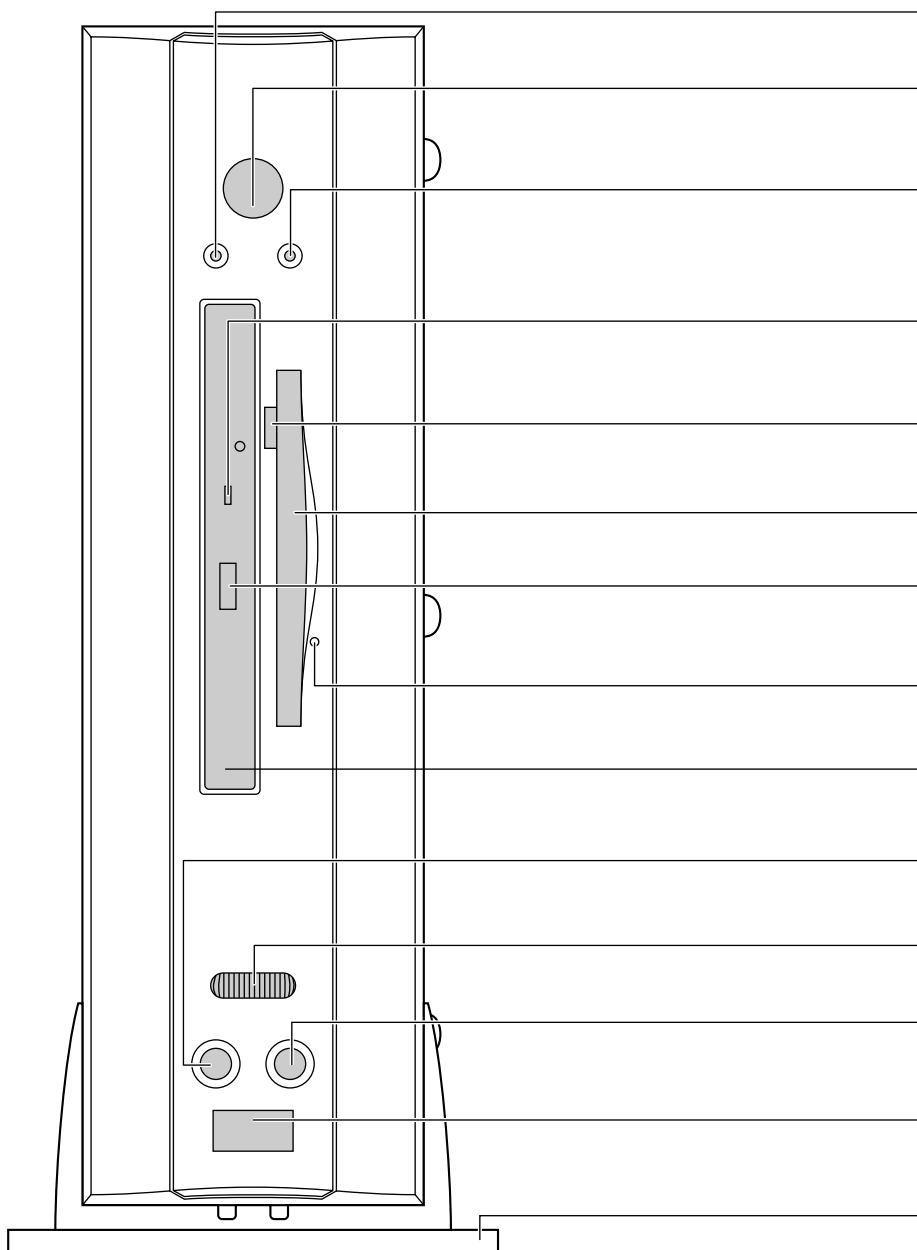
1. 各部の名称と働き	2
2. 電源を入れる / 電源を切る	10
3. スピーカー / ヘッドホンを使う	16
4. マイクを使う	22
5. フロッピーディスクを使う	23
6. CD-ROM を使う	26
7. お手入れのしかた	29

1

各部の名称と働き

ここでは、パソコン本体前面、背面、内部、キーボードの各部の名称と働きを説明します。

パソコン本体前面



用語 USB (ユーエスピー)

Universal Serial Bus の略で、マウス、キーボード、プリンタ、モデム、ターミナルアダプタ、スピーカーなどの機器を接続するための規格です。

ハードディスクアクセス表示ランプ

ハードディスクにアクセスしているときに点灯します。

電源スイッチ (●▶ P.14)

パソコン本体の電源を入れるときや、スタンバイにするとき、またはスタンバイから復帰させるときに押します。

電源ランプ

パソコン本体に電源が入っているときに点灯します。

BUSYランプ

CD-ROMからデータを読み込んでいるときや音楽CDを再生しているときに点灯します。

フロッピーディスク取り出しボタン

フロッピーディスクを取り出すときに押します。

フロッピーディスクドライブ (●▶ P.23)

フロッピーディスクをセットしてデータを読み書きします。

EJECTボタン

CD-ROMドライブに、CD-ROMや音楽CDをセット、または取り出すときに押します。パソコン本体の電源が入っているときに使えます。

フロッピーディスクアクセス表示ランプ

フロッピーディスクにアクセスしているときに点灯します。

CD-ROMドライブ (●▶ P.26)

CD-ROMのデータやプログラムを読み出したり、音楽CDを再生したりします。

ヘッドホン端子

市販のヘッドホン (●▶ P.20) を接続します。

音量ボリューム (●▶ P.17)

スピーカー、ヘッドホンの音量を調節します。

マイク端子

添付されているマイク (●▶ P.22) を接続します。

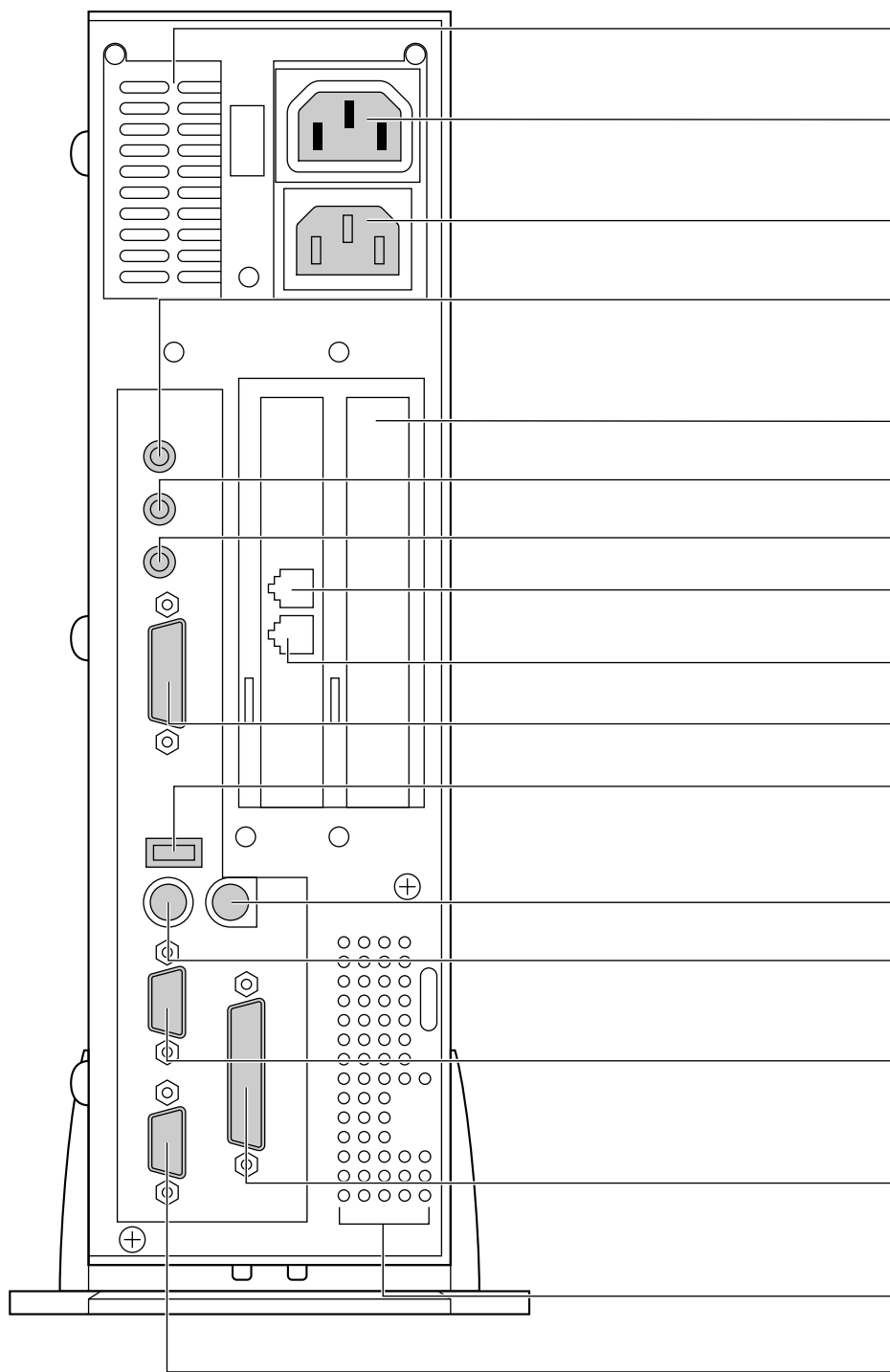
USBコネクタ

カバーを左にスライドさせて、USB機器 (●▶ P.77) を接続します。お使いにならないときは、カバーを閉じておいてください。

縦置き用フット

本パソコンを縦置きでお使いになる場合、転倒防止用として取り付ける台座です。両側面にある通風孔 (パソコン本体内部の熱を逃がすための開孔部) は、ふさがないでください。

パソコン本体背面



通風孔

パソコン本体内部の熱を逃がすための開孔部です。ふさがないようにください。

アウトレット

ディスプレイの電源ケーブルを接続します。

インレット

パソコン本体の電源ケーブルを接続します。

SPK OUT端子

CX40L / CX40Lc / CX35Lはディスプレイに内蔵のスピーカー（●▶ P.16）を、CX407c / CX357 / CX355は添付されているスピーカー（●▶ P.16）を接続します。

拡張スロット

拡張カードを取り付けると、コネクタがここに見えます。

LINE OUT端子

オーディオ機器の入力端子とつながるオーディオケーブルを接続します。

LINE IN端子

オーディオ機器の出力端子とつながるオーディオケーブルを接続します。

LINE端子

電話回線とつながるモジュラーケーブルを接続します。

PHONE端子

電話機とつながるモジュラーケーブルを接続します。

MIDI / JOYSTICK端子

MIDIケーブルやジョイスティックを接続します。

USBコネクタ

USB機器（●▶ P.77）を接続します。
CX40L / CX40Lc / CX35LはディスプレイのUSBケーブルを接続します（●▶ 『取扱説明書』）。

マウスコネクタ

マウスを接続します（CX40L / CX40Lc / CX35Lを除く）。

キーボードコネクタ

キーボード（●▶ P.8）を接続します（CX40L / CX40Lc / CX35Lを除く）。

シリアルコネクタ（COM1）

ターミナルアダプタ（●▶ P.77）、デジタルカメラ、IRコマンドなど、RS-232C規格に対応した機器（D-SUB9ピン）のケーブルを接続します。シリアルポートともいいます。

パラレルコネクタ

プリンタ（●▶ P.37）やスキャナ（●▶ P.76）などのケーブルを接続します。パラレルポートともいいます。

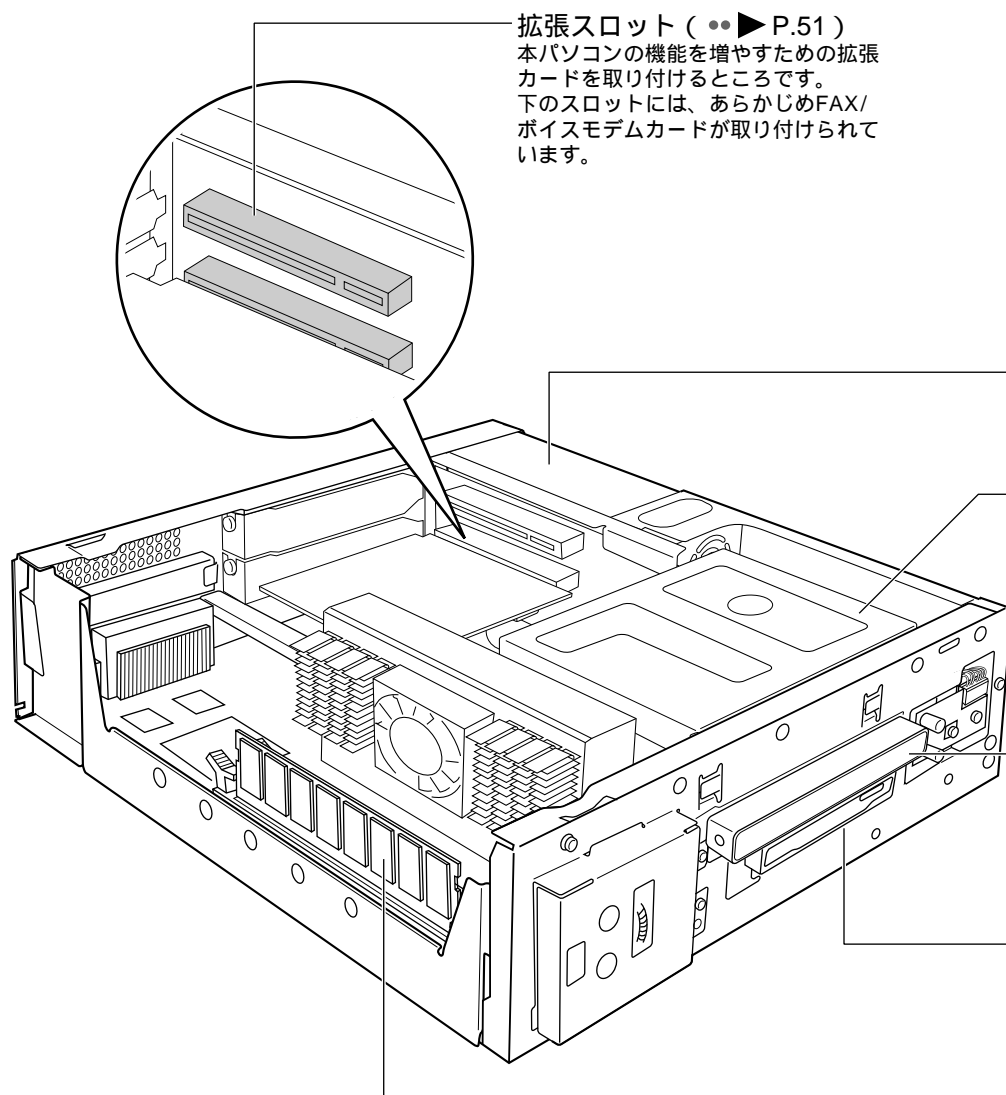
通風孔

パソコン本体内部の熱を逃がすための開孔部です。ふさがないようにください。

ディスプレイコネクタ

ディスプレイケーブルを接続します。

パソコン本体内部



用語 IDE（アイディーイー）

ハードディスクやCD-ROMドライブなどの内蔵ドライブの規格のひとつです。マザーボード上にコネクタがあるため、拡張カードなどを使わずに、内蔵ドライブを接続できます。

用語 ATAPI（アタピー）

CD-ROMドライブなど、ハードディスク以外のドライブをIDE規格のコネクタに接続して使うための規格です。

本パソコンには、ATAPI規格のCD-ROMドライブが内蔵されています。

電源ユニット

内蔵ハードディスク

IDE規格のハードディスクが取り付けられています。
容量は6.4GBです。

CD-ROMドライブ（●▶ P.26）

ATAPI規格のCD-ROMドライブが取り付けられています。

フロッピーディスクドライブ（●▶ P.23）

3.5インチ3モードフロッピーディスクドライブが取り付けられています。

メモリスロット（●▶ P.44）

増設するメモリを取り付けます。
本パソコンには、64MBのメモリが1枚あらかじめ取り付けられています。

キーボード

キーボードは、パソコンに対して指示を与え、実行させるためのものです。

本パソコンのキーボードは「109キーボード」というタイプのキーボードです。

CX40L/CX40Lc/CX35Lでは、ディスプレイのUSBコネクタ(▶▶『取扱説明書』)に接続します。

CX407c/CX357/CX355ではパソコン本体背面のキーボードコネクタ(▶▶P.5)に接続します。

F (ファンクション) キー

アプリケーションごとにいろいろな役割が割り当てられます。

Esc (エスケープ) キー

作業を取り消すときに使います。

Scroll Lock (スクロールロック) キー

画面がスクロールしないようにするときに押します。

Print Screen (プリントスクリーン) キー

画面表示をビットマップファイルにするときに押します。詳しくは『困ったときのQ&A』の「気に入った画面を保存しておきたい」をご覧ください。

Insert (インサート) キー

入力する文字の挿入/上書きを切り替えるときに押します。

Back space (バックスペース) キー

カーソルの左側の文字を削除するときに押します。

Caps Lock (キャプスロック)

英数キー

アルファベットを入力するときに、**(Shift)**を押しながらこのキーを押すと、大文字/小文字入力が切り替わります。

Shift (シフト) キー

他のキーと組み合わせて使います。**(Shift)**を押しながら文字キーを押すと、キーの上段に刻印されている文字や記号が入力できます。

空白 (スペース) キー

空白を入力するときに押します。

Alt (オルト) キー

他のキーと組み合わせて使います。

Windows (ウィンドウズ) キー

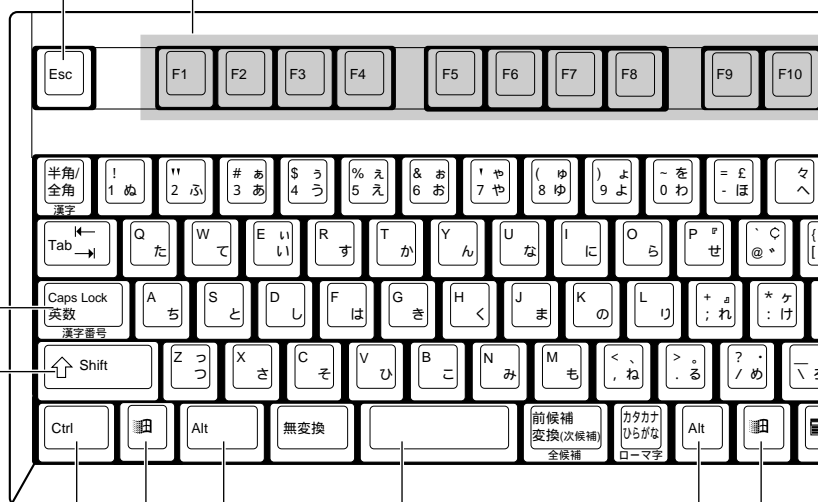
「スタート」メニューを表示するときに押します。

Application (アプリケーション) キー

右クリックと同じ役割をします。

Ctrl (コントロール) キー

他のキーと組み合わせて使います。



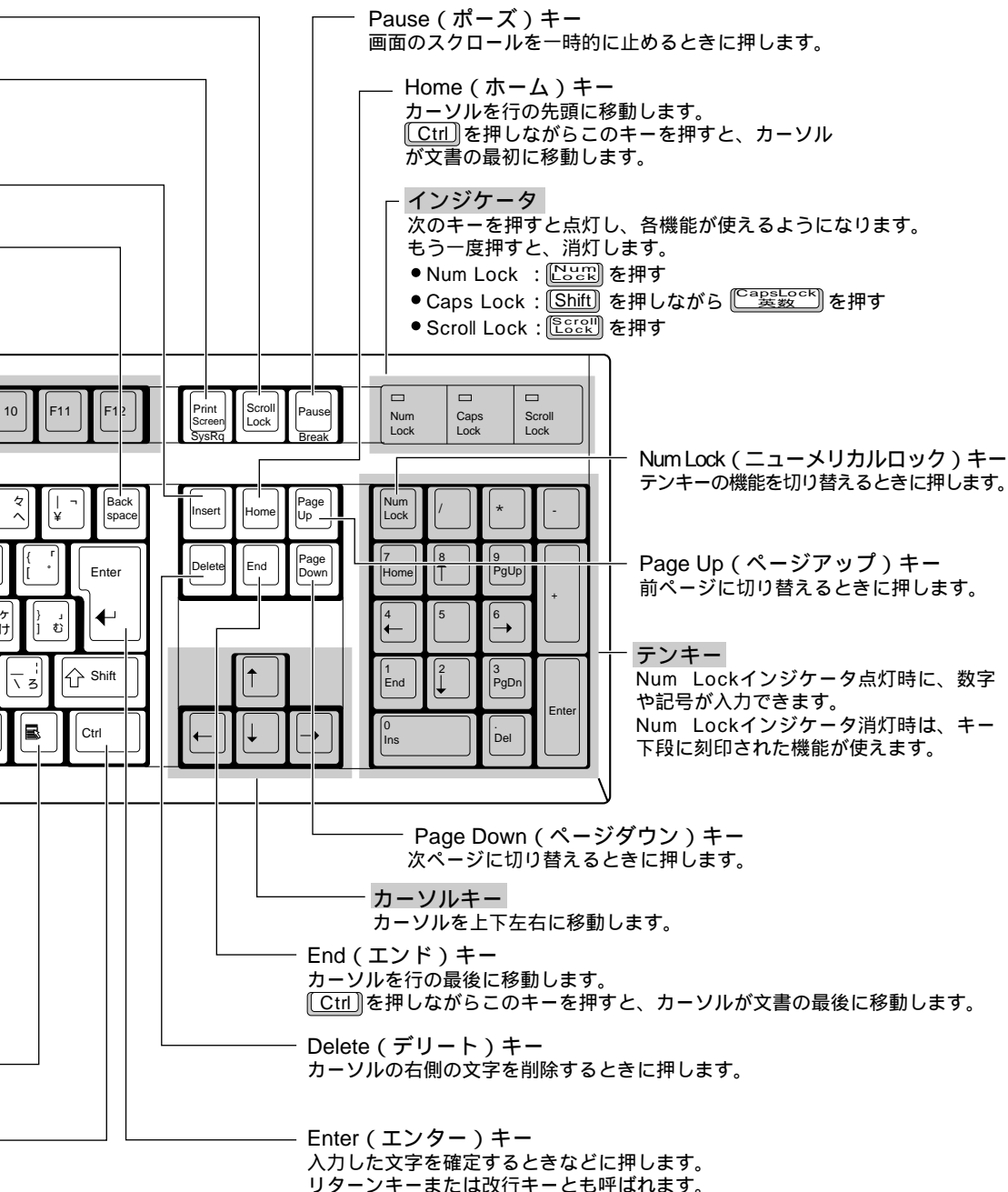
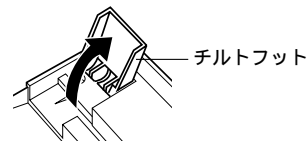
アドバイス

キー動作は異なることがあります

アプリケーションによって、キー動作が異なることがあります。
ここでは、一般的なキー動作を説明しています。

キーボードに角度をつけて置くには

キーボード底面にあるチルトフットを起こすと、
キーボードに角度をつけて置くことができます。



2

電源を入れる / 電源を切る

ここでは、本パソコンの電源の入れかたと切りかたについて説明します。

△注意



けが

- フロッピーディスクをセットまたは取り出すときには、フロッピーディスクドライブの差し込み口に指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。
- CD-ROM や音楽CD をセットまたは取り出すときは、CD-ROM ドライブのトレイに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

電源を入れる

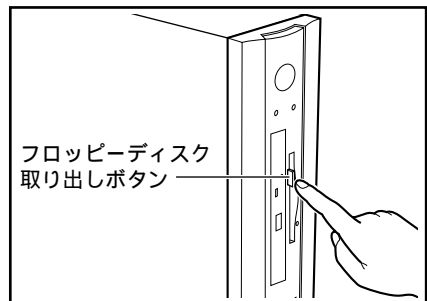
重要

電源を入れるときの注意

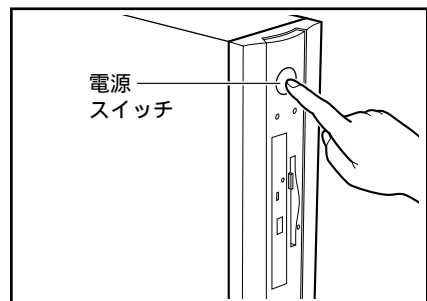
電源を切ったあとに再び電源を入れるときは、10 秒ほどお待ちください。

1 本パソコンに接続されている機器の電源を入れます。

2 フロッピーディスクがセットされていないことを確認します。
セットされているときは、フロッピーディスク取り出しボタンを押して、フロッピーディスクを取り出してください。



3 本体前面にある電源スイッチを押します。
ディスプレイとパソコン本体両方の電源ランプが点灯します。
しばらくすると、Windows98 の画面が表示されます。



アドバイス

先にパソコン本体の電源を入れてしまったら

接続されている機器の電源を入れる前にパソコン本体の電源を入れてしまうと、Windows 98が正常に機器を認識できない場合があります。Windows 98が完全に起動するのを待って、以下の手順に従って操作してください。

- 1 本パソコンに接続されている機器の電源を入れます。
- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「Windowsの終了」をクリックします。
- 3 「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。

本パソコンが再起動し、接続されている機器が認識されます。

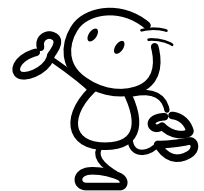
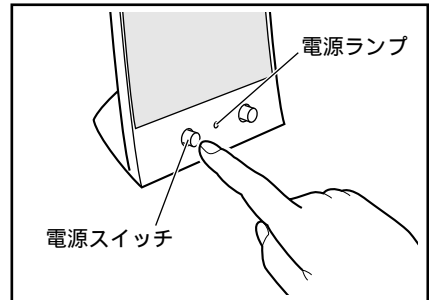
ディスプレイの電源を入れる必要はありません

『取扱説明書』に記載されているとおり、ディスプレイ用電源ケーブルをパソコン本体に接続している場合は、はじめにディスプレイの電源を入れると、そのあとはパソコン本体と連動するようになります。ディスプレイの電源プラグを別のコンセントに差し込んでいる場合は、パソコン本体の電源を入れる前に、ディスプレイの電源を入れてください。

電源スイッチを押しても Windows 98 が起動しないときは

パソコン本体の電源スイッチを押しても Windows 98 が起動せず、英語のメッセージが表示されたままになっているときは、「BIOSが表示するメッセージ一覧」(●▶ P.122)をご覧ください。

- 4 CIX 407c/CIX 357/CIX 355でスピーカーをお使いになるときは、右スピーカーの電源スイッチを押して、スピーカーの電源を入れます。



電源を切る

重要

電源スイッチは押さないでください

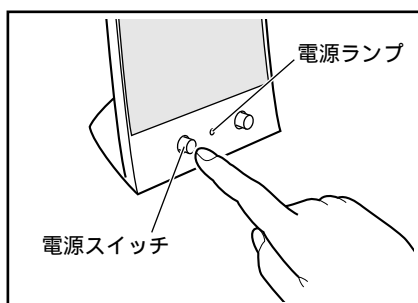
本パソコンの電源を切るときは、Windows98上で操作します。
パソコン本体前面の電源スイッチは、通常は使わないでください。

必ずアプリケーションを終了してください

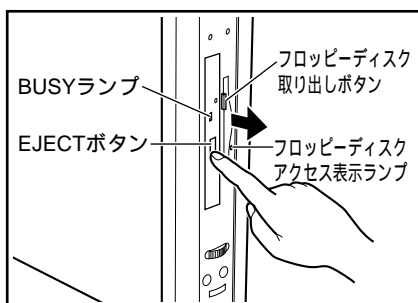
アプリケーションを起動したままWindows98を終了すると、本パソコンが正常に終了できなかったり、次に起動するときに正常に起動できなくなることがあります。

- 1 それまで本パソコンで行っていた作業を終了します。
必要に応じて作業中のデータを保存し、アプリケーションを終了してください。

- 2 CIX407c/CIX357/CIX355でスピーカーをお使いのときは、右スピーカーの電源スイッチを押して、スピーカーの電源を切ります。



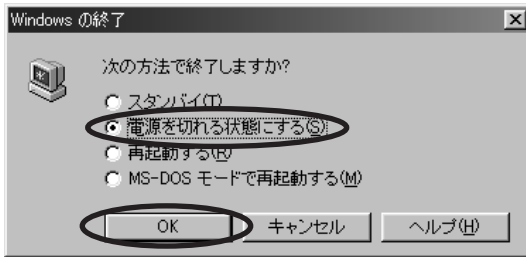
- 3 フロッピーディスクやCD-ROMがセットされているときは、取り出します。
フロッピーディスクアクセス表示ランプ、またはBUSYランプが消えていることを確認してから、取り出してください。



- 4 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。



- 5 「電源を切れる状態にする」をクリックし、「OK」をクリックします。



アドバイス

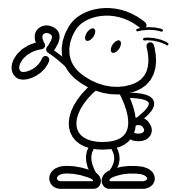
フロッピーディスクがセットされていると終了できません

「フロッピーディスクが入っています。Windows の終了を中止します。」というメッセージが表示された場合は、「閉じる」をクリックし、フロッピーディスクを取り出して、手順 4 から操作し直してください。

ディスプレイの電源を切る必要はありません

☐『取扱説明書』に記載されているとおり、ディスプレイ用電源ケーブルをパソコン本体に接続している場合は、はじめにディスプレイの電源を入ると、そのあとはパソコン本体と連動するようになっています。従って、パソコン本体の電源を切ると、ディスプレイの電源も切れます。ディスプレイの電源プラグを別のコンセントに差し込んでいる場合は、パソコン本体の電源が切れたあと、ディスプレイの電源を切ってください。

- 6 本パソコンに接続されている機器の電源を切ります。




電源スイッチについて

電源スイッチは、通常は次のときに使います。

- パソコンの電源を入れるとき（●▶P.10）
- パソコンをスタンバイ（電力消費を抑えて、画面の表示が消えた状態）にするとき
- パソコンを、スタンバイから元の状態に戻すとき

スタンバイ機能について

Windows98が起動したあとに電源スイッチを押すと、スタンバイ（電力消費を抑えている状態）となり、画面が真っ暗になります（パソコン本体とディスプレイの電源ランプの点灯が、緑色からオレンジ色に変わります）。

元の状態に戻すには、もう一度電源スイッチを押します。しばらくすると、パソコン本体とディスプレイの電源ランプが緑色に点灯し、画面が再び表示されます。また、マウスを動かすか、キーボードの  や **[Shift]** を押しても、画面が再び表示されます。完全に表示されるまでに5～10秒かかります。

Windows98から電源を切れない場合

使用中のアプリケーションが何らかの理由で動かなくなり、強制終了もできなくなったときは、以下の手順に従って本パソコンの電源を切ってください。

■ CIX40L/CIX40Lc/CIX407c をお使いの方は ■


電源スイッチを押して、スタンバイにします。スタンバイの状態では、電源スイッチを4秒以上押し続けてください。強制的に電源が切れます。

■ CIX35L/CIX357/CIX355 をお使いの方は ■

電源スイッチを4秒以上押し続けてください。強制的に電源が切れます。

電源スイッチを4秒以上押し続けて電源を切ったあとは、パソコン本体の電源ランプが消えている（電源が切れている）ことを確認してください。

再び電源を入れるときは、10秒ほど待ってから電源スイッチを押してください。

なお、アプリケーションの強制終了のしかたについては、『 困ったときのQ&A』の「操作中に動かなくなった」をご覧ください。

通常の場合は「電源を切る」（●▶P.12）の手順に従って本パソコンの電源を切ってください。

重要

次の場合は電源スイッチを押さないでください

- 電源を入れたら、Windows98が完全に起動してデスクトップ画面が表示され、ハードディスクアクセス表示ランプが消えるまで、電源スイッチを押さないでください。Windows98の起動途中で電源スイッチを押すと、スタンバイ機能が不完全に働いて、本パソコンが正しく動作しないことがあります。
- ハードディスクアクセス表示ランプやBUSYランプが点灯しているときは、電源スイッチを押さないでください。
- 動画や音声・音楽データの再生中に電源スイッチを押すと、スタンバイ機能が不完全に働いて、本パソコンが正しく動作しないことがあります。
動画や音声・音楽データの再生を終了させてから、電源スイッチを押してください。
- 通信中は電源スイッチを押さないでください。通信を終了させてから、電源スイッチを押してください。

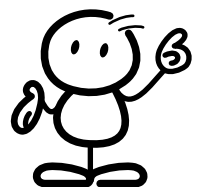
電源スイッチを連続して押さないでください

連続して押すとスタンバイ機能が正しく働かない場合があります。

アドバイス

画面が真っ暗になった場合

本パソコンの電源を入れた状態で約30分操作しないと、自動的にスタンバイ機能が働いて画面が真っ暗になり、パソコン本体の電源ランプがオレンジ色に変わります。このときは、電源スイッチを押すか、マウスを動かすか、キーボードの□□□□や(Shift)を押すと、画面が再び表示されます。



3

スピーカー / ヘッドホンを使う

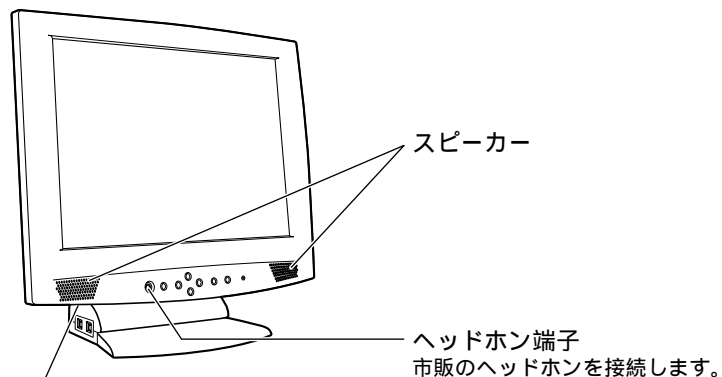
スピーカーは、パソコン本体背面の SPK OUT 端子 (●▶P.5) に接続します。接続方法について詳しくは、『取扱説明書』をご覧ください。

ここでは、スピーカーの各部の名称と働きや、音量を調節する方法、ヘッドホンを使う方法について説明します。

スピーカーの各部の名称と働き

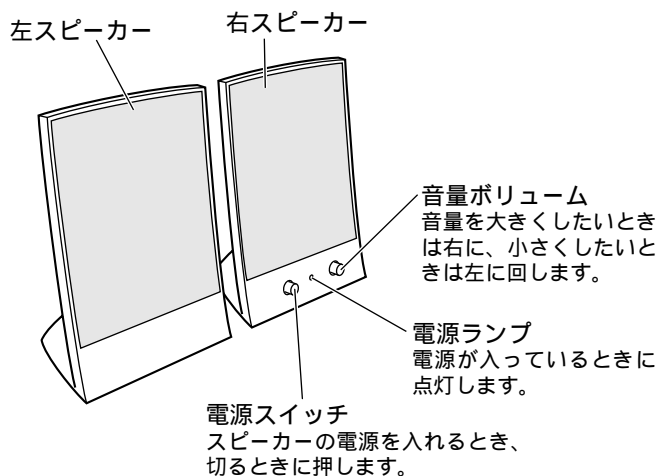
CIX 40L/CIX 40Lc/CIX 35L をお使いの方は

スピーカーは、ディスプレイに内蔵されています。



音量ボリューム
音量を大きくしたいときは右に、
小さくしたいときは左に回します。

CIX 407c/CIX 357/CIX 355 をお使いの方は



スピーカー取り扱い上の注意 (CIX407c/CIX357/CIX355 をお使いの方)

スピーカーをお使いになるときは、次の点にご注意ください。

- スピーカーを使うときは、スピーカーの電源を入れてください。また、使わないときは、電源を切っておいてください。
- スピーカーの電源が入っている状態でパソコン本体の電源を切ると、異音が発生することがありますが、故障ではありません。パソコン本体の電源を切る前に、スピーカーの電源を切ってください。
- スピーカー用のACアダプタは、風通しのよいところに、ディスプレイから離して設置してください。
- ACアダプタは、必ずスピーカーに接続してからコンセントに接続してください。
- 前面のパネルは、爪で引っかいたり、硬いものを当てたりしないでください。傷や音質の劣化の原因となります。また、パネルを鋭利なもので突き刺すと穴があくおそれがあります。
- 前面のパネルにスプレーなど揮発性のものをかけないでください。また、ゴムやビニール製品などを長時間接触させないでください。変質したり、塗料が剥げる原因となります。

スピーカーの音量を調節する

音量は、次の方法で調節できます。

- パソコン本体前面の音量ボリュームを使う
- ディスプレイの音量ボリュームを使う (CIX40L/CIX40Lc/CIX35L をお使いの方)
- スピーカーの音量ボリュームを使う (CIX407c/CIX357/CIX355 をお使いの方)
- 画面の音量つまみを使う

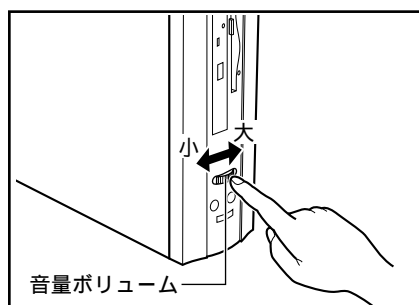
それぞれの音量調節は相互に関係があります。

たとえば、音量調節機能のうちどれか1つでも音量を最小にすると、他の音量を大きくしてもスピーカーからの音は聞こえません。また、すべての音量を最大にすると、スピーカーからの音量は最大となります。

ここでは、それぞれの音量調節のしかたを説明します。

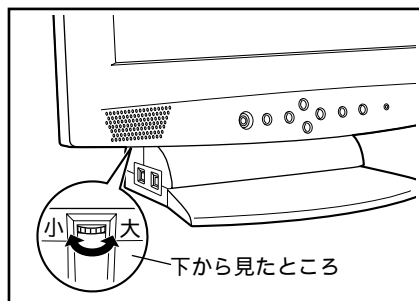
パソコン本体前面の音量ボリュームを使う

- 1 パソコン本体前面の音量ボリュームを回して適切な音量に調節します。
左に回すと小さく、右に回すと大きくなります。
音量ボリュームのポッチが中央にくる位置が適切な音量の目安です。



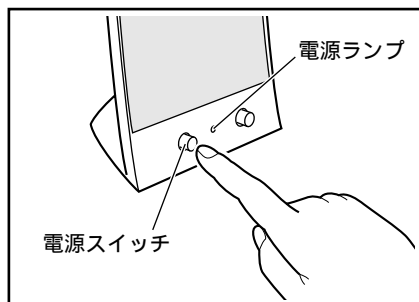
ディスプレイの音量ボリュームを使う (CIX40L/CIX40Lc/CIX35L をお使いの方)

- 1 ディスプレイの音量ボリュームを回して適切な音量に調節します。
音量ボリュームは、ディスプレイの左下にあります。
左に回すと小さく、右に回すと大きくなります。

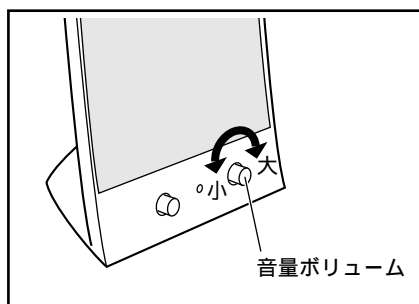


スピーカーの音量ボリュームを使う (CIX 407c/CIX 357/CIX 355 をお使いの方)

- 1 右スピーカーの電源スイッチを押して、スピーカーの電源を入れます。
スピーカーの電源ランプが点灯します。

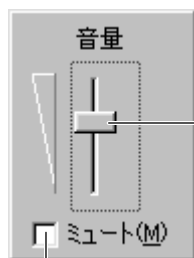


- 2 スピーカーの音量ボリュームを回して適切な音量に調節します。
左に回すと小さく、右に回すと大きくなります。
音量ボリュームのポッチが中央にくる位置が適切な音量の目安です。



画面の音量つまみを使う

- 1 タスクバーの (音量) をクリックします。
音量つまみが表示されます。
- 2 音量つまみを上下にドラッグして、適切な音量に調節します。



音量つまみ
下にドラッグすると音が小さく、
上にドラッグすると音が大きくなります。

ミュート
ここをクリックして にすると音が消え、タスクバーの表示が に変わります。
もう1度クリックして にすると元の音量に戻ります。


- 3 デスクトップの何もないところをクリックします。
音量つまみが閉じます。
閉じなかったときは、いったん音量つまみをクリックしてからデスクトップの何もないところをクリックしてください。

アドバイス

その他の音量調節のしかた

「出力マスター」ウィンドウの「出力マスター」の音量つまみを上下にドラッグしても、音量を調節できません。

「出力マスター」ウィンドウの表示方法は次の2つです。

- タスクバーの (音量) をダブルクリックする
- 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」、「アクセサリ」、「エンターテインメント」の順にマウスポインタを合わせ、「ボリュームコントロール」をクリックする

「出力マスター」ウィンドウでは、以下の音量調節ができます。

- 出力マスター : パソコン全体の音量
- Wave : Wave ファイルの音量
- シンセサイザ : MIDI の音量
- CD : 音楽 CD の音量
- ライン入力 : ライン入力の音量
- マイクロフォン : マイクの音量 (表示されない場合があります)

なお、各項目で調節した音量は、パソコン本体の電源を切るとご購入時の状態に戻ることがあります。

スピーカーから音が聞こえないときは

スピーカーから音が聞こえないときは、次のことを確認してください。

スピーカーが正しく接続されているか


スピーカーは、パソコン本体背面の SPK OUT 端子 (●▶P.5) に接続します。正しく接続されているか確認してください。

また、CIX407c/CIX357/CIX355をお使いの方は、左右のスピーカーが正しく接続されているか、スピーカーの AC アダプタがコンセントに接続されているかも確認してください。

スピーカーの接続方法について詳しくは  『取扱説明書』をご覧ください。

適切な音量になっているか

音量調節機能 (●▶P.17) のうち、どれか1つでも音量が最小になっていると、スピーカーからの音は聞こえません。適切な音量に調節されているか確認してください。

また、画面の音量つまみのミュートが になっている (タスクバーに  と表示されている) と音は聞こえません。 をクリックして にしてください。

ヘッドホンが接続されていないか

ヘッドホンが接続されていると、スピーカーからの音は聞こえません。ヘッドホンを取り外してください。

スピーカーの電源が入っているか (CIX407c/CIX357/CIX355をお使いの方)

スピーカーの電源ランプ (●▶P.16) が点灯しているか確認してください。点灯していないときは、スピーカーの電源スイッチ (●▶P.16) を押してスピーカーの電源を入れてください。

ヘッドホンを使う

⚠ 注意

聴力障害



ヘッドホンをお使いになるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。
耳を刺激するような大きな音量で長時間お使いになると、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

聴力障害



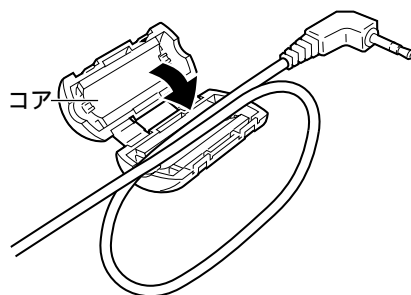
ヘッドホンをしたままパソコン本体の電源を入れたり切ったりしないでください。
刺激音により聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

確認

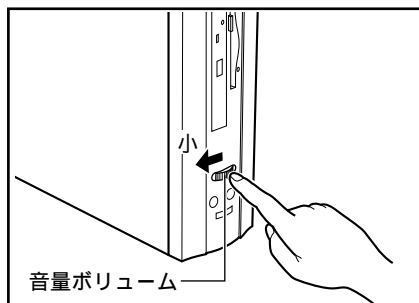
コアを取り付けてください

ヘッドホンを接続するときは、不要電波の放射を軽減するために、添付のコアをヘッドホンのケーブルに取り付けてください。取り付けかたは、次のとおりです。

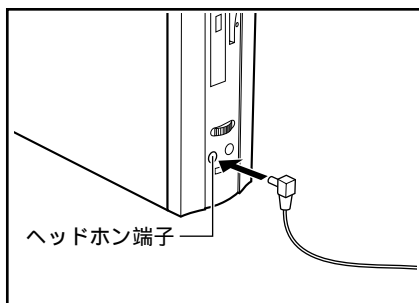
- 1 ケーブルのコネクタのすぐうしろで、コアにケーブルを1回巻き付けます。
- 2 コアを閉じます。
コアを閉じる際に、ケーブルをはさみ込まないようにしてください。



- 1 パソコン本体前面の音量ボリュームを左いっぱい
に回して、音量を最小にします。

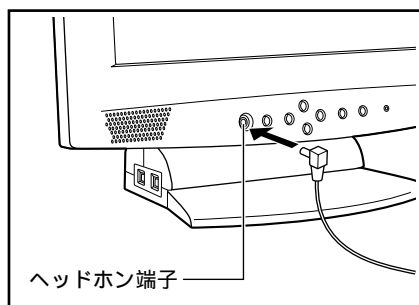


- 2 ヘッドホンのプラグをパソコン本体前面のヘッド
ホン端子に差し込みます。
2つ並んでいる差し込み口の左側です。
ヘッドホンを接続すると、スピーカーからは音が聞こ
えなくなります。

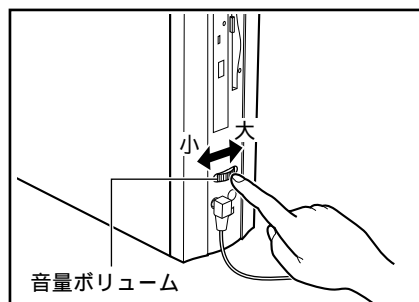


アドバイス

CIX 40L/CIX 40Lc/CIX 35L をお使いの方は
ディスプレイのヘッドホン端子に接続することもできま
す。



- 3 音量ボリュームで適切な音量に調節します。
左に回すと小さく、右に回すと大きくなります。



ヘッドホンから音が聞こえないときは


ヘッドホンから音が聞こえないときは、次のことを確認してください。

ヘッドホンが正しく接続されているか

ヘッドホンは、パソコン本体前面のヘッドホン端子（●▶P.3）またはディスプレイのヘッドホン端子（CIX40L/CIX40Lc/CIX35L をお使いの方）（●▶P.16）に接続します。正しく接続されているか確認してください。

適切な音量になっているか

音量調節機能（●▶P.17）のうち、どれか1つでも音量が最小になっていると、ヘッドホンからの音は聞こえません。適切な音量に調節されているか確認してください。

また、画面の音量つまみのミュートがになっている（タスクバーにと表示されている）と音は聞こえません。をクリックしてにしてください。

4

マイクを使う

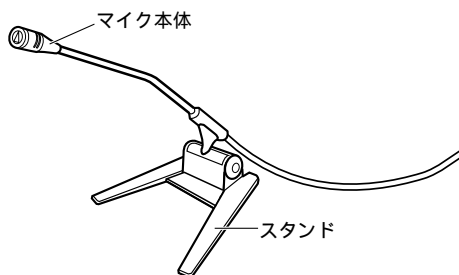
本パソコンでは、マイクを使って録音できます。
マイクはパソコン本体前面のマイク端子（●▶P.3）に接続します。
ここでは、マイクの取り扱い上の注意について説明します。

マイク取り扱い上の注意

マイクをお使いになるときは、次の点にご注意ください。

- スピーカーから離してお使いください。ハウリング（キーンと音がすること）を起こす場合があります。
- マイクに向かって録音するときは、マイクと口との距離が15～30cmの範囲になるようにお使いください。
- マイクの先を手に持たないでください。

録音方法については、④『困ったときのQ&A』の「マイクを使って音声を録音したい」をご覧ください。



アドバイス

マイクをお使いになるときは

以下の手順に従って設定してください。

- 1 タスクバーにある (音量) をダブルクリックします。
「出力マスター」ウィンドウが表示されます。
- 2 「出力マスター」の音量つまみが最大になっていることを確認します。
最大になっていないときは、音量つまみを上にドラッグして、音量を最大にします。
- 3 「オプション」メニューの「プロパティ」をクリックします。
- 4 「表示するコントロール」にある「マイクロフォン」の をクリックして にし、「OK」をクリックします。
「出力マスター」ウィンドウに「マイクロフォン」が表示されます。
- 5 「マイクロフォン」の「ミュート」の をクリックして、 にします。
- 6 「オプション」メニューの「トーン調整」をクリックします。
「出力マスター」ウィンドウの「マイクロフォン」のところに「トーン」が表示されます。
- 7 「マイクロフォン」の「トーン」をクリックします。
「マイクロフォンの詳細設定」ウィンドウが表示されます。
- 8 「そのほかの調整」の「マイクロフォンブースト」の をクリックして にし、「閉じる」をクリックします。
- 9 「出力マスター」ウィンドウの右上にある (閉じるボタン) をクリックして、「出力マスター」ウィンドウを閉じます。

マイクをお使いにならないときは

以下の手順に従って設定してください。

設定を行わないと、スピーカーから異音が発生することがあります。

- 1 タスクバーにある (音量) をダブルクリックします。
「出力マスター」ウィンドウが表示されます。
- 2 「マイクロフォン」の「ミュート」の をクリックして、 にします。
「マイクロフォン」が表示されていない場合は、上記の「マイクをお使いになるときは」の手順3、4の操作を行ってください。
- 3 「出力マスター」ウィンドウの右上にある (閉じるボタン) をクリックして、「出力マスター」ウィンドウを閉じます。

市販のマイクはお使いになれません

必ず添付のマイクをお使いください。

5

フロッピーディスクを使う

フロッピーディスクドライブは、フロッピーディスクにデータを保存したり、フロッピーディスクからデータを読み出したりするための装置です。

ここでは、本パソコンのフロッピーディスクドライブでお使いになれるフロッピーディスク、フロッピーディスクのセットのしかたや取り出ししかたなどについて説明します。

お使いになれるフロッピーディスク

本パソコンのフロッピーディスクドライブは、1.44MB、1.2MB、720KBの各記憶容量のフロッピーディスクを読み書きできる3モードドライブです。

本パソコンでは、次の2種類のフロッピーディスクがお使いになれる。ただし、1.2MBにフォーマットすることはできません。

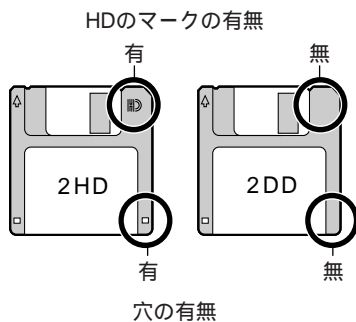
2HD フロッピーディスク

1.44MB（メガバイト）、1.2MBの記憶容量のもので、

2DD フロッピーディスク

2HD フロッピーディスク（1.44MB）の半分の720KB（キロバイト）の記憶容量のもので、

上記の2種類のフロッピーディスクの外見は、下の図のような違いがあります。



なお、フロッピーディスクのフォーマット方法については、『**1** かるがるパソコン入門』の「フロッピーディスクを使うには」をご覧ください。

用語 MB（メガバイト）

バイトとは、パソコンで扱うデータの大きさを表す単位のことです。M（メガ）は100万を表します。1MBとは、約100万バイトのデータということです。

パソコンで扱われる単位には、他にKB（キロバイト）、GB（ギガバイト）があります。1KBは約1000バイト、1GBは約10億バイトのデータを表します。

アドバイス

データを読み出せないことがあります

同じ記憶容量のフロッピーディスクでも、フォーマットした環境（機種、ソフトウェア）が違うと、フロッピーディスクのデータを読み出せないことがあります。

また、他社製のパソコンでフォーマットしたフロッピーディスクはお使いになれないことがあります。

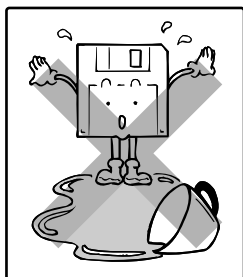
フォーマット済みのフロッピーディスクをご購入の場合は

「DOS/V用フォーマット済み」と書かれたものを、ご購入ください。

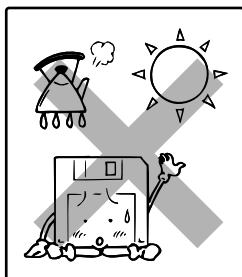
他の形式（Macintoshフォーマットなど）でフォーマットされたフロッピーディスクをご購入の場合は、本パソコンで再フォーマットしてください。

フロッピーディスク取り扱い上の注意

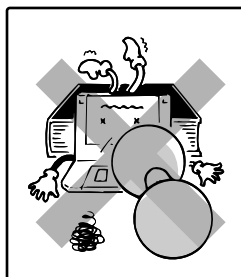
フロッピーディスクをお使いになるときは、次の点にご注意ください。データが保存できなくなったり、読み出せなくなることがあります。



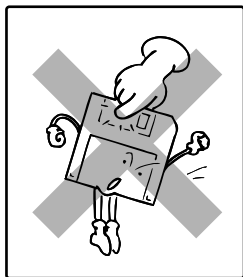
コーヒーなどの液体をかけないでください。



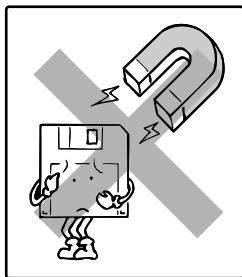
湿度の高い場所や直射日光の当たる場所には置かないでください。



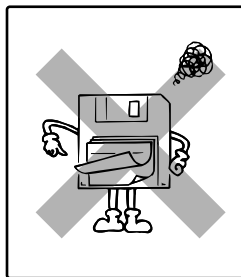
曲げたり、重い物をのせたりしないでください。



シャッタを開いて、中のディスク面に絶対に触れないでください。



磁石など磁気を帯びたものを近づけないでください。



ラベルを重ねて貼らないでください。
ドライブから取り出せなくなる原因となります。

フロッピーディスクをセットする / 取り出す

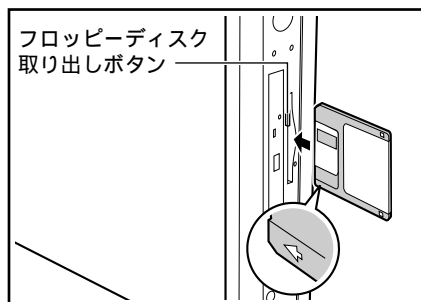
⚠ 注意



フロッピーディスクをセットまたは取り出すときには、フロッピーディスクドライブの差し込み口に指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

セットする

- 1 矢印のある面を左にして、フロッピーディスクドライブに差し込みます。「カシャッ」と音がして、フロッピーディスク取り出しボタンが飛び出します。



取り出す

重要

フロッピーディスクを取り出すときの注意

フロッピーディスクアクセス表示ランプの点灯中に、フロッピーディスクを取り出さないでください。データが壊れるおそれがあります。

- 1 フロッピーディスクアクセス表示ランプが消えていることを確認し、フロッピーディスク取り出しボタンを押します。フロッピーディスクが出てきます。

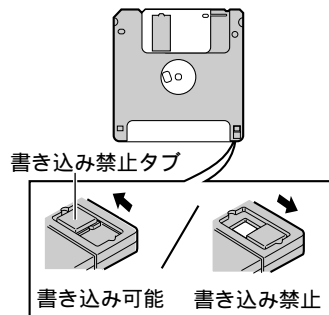


フロッピーディスクのデータを守るには

フロッピーディスクに保存してある情報を誤って消さないようにするには、フロッピーディスクの書き込み禁止タブをスライドさせ、穴が開いた状態(書き込み禁止の状態)にします。

再び情報を書き込みたいときは、書き込み禁止タブをスライドさせ、穴が閉じた状態にします。

また、フロッピーディスクに強い磁気を帯びたものを近づけると、フロッピーディスクのデータが壊れる場合があります。磁石など、強い磁気を帯びたものを近づけないでください。



6

CD-ROM を使う

CD-ROMドライブでは、CD-ROMの映像や音声、音楽CDを再生できます。また、パソコンのプログラムやデータの読み込みができます。

ここでは、CD-ROMドライブでお使いになれるディスクや、CD-ROMドライブの使いかたを説明します。

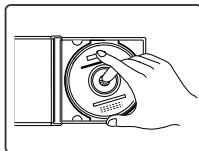
お使いになれる CD-ROM や音楽 CD

本パソコンでは、下図のマークがついた CD-ROM や音楽 CD(12cm、8cm) がお使いになれるます。

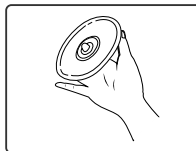


CD-ROM や音楽 CD 取り扱い上の注意

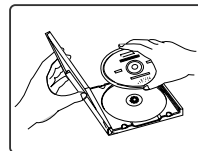
CD-ROM や音楽 CD をお使いになるときは、次の点にご注意ください。



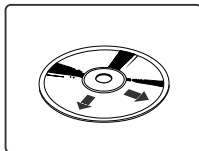
ケースからCD-ROMや音楽CDを取り出すときは、ケースの中央を押しながら取り出してください。



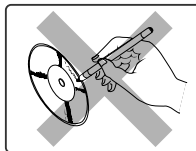
データ面(裏面)に触れないように、CD-ROMや音楽CDのふちを持つようにしてください。



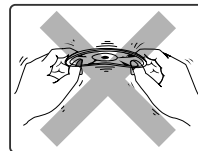
使わないときは、ケースに入れて保管してください。



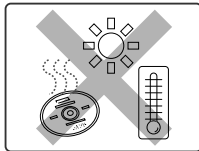
汚れたり水滴がついたりしたときは、乾いた柔らかい布で、中央から外側へ向かって拭いてください。



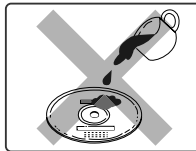
ラベルを貼ったり、ボールペンや鉛筆などで字を書いたりしないでください。また、傷をつけたりしないでください。



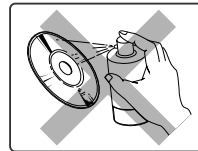
曲げたり、重い物をのせたりしないでください。



高温・低温の場所に保管しないでください。



コーヒーなどの液体をかけないでください。



ベンジン、シンナー、水、レコードスプレー、静電気防止剤、シリコンクロスなどで拭かないでください。

アドバイス

CD-ROM が結露したときは

CD-ROMの表面に水滴が付いて、CD-ROMドライブがデータを読み出せないことがあります。このときは、乾いた柔らかい布でキズを付けないように水滴を拭いてから、自然乾燥させてください。ヘアードライヤーなどで乾燥させないでください。

CD-ROM や音楽CD をセットする / 取り出す

CD-ROM や音楽CD は、パソコンの電源が入っている状態のときにセットや取り出しができます。

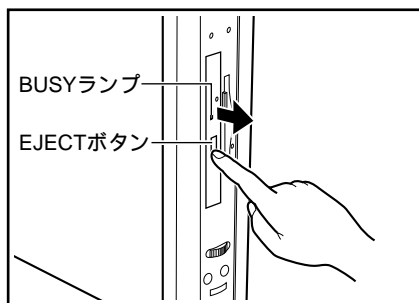
⚠ 注意



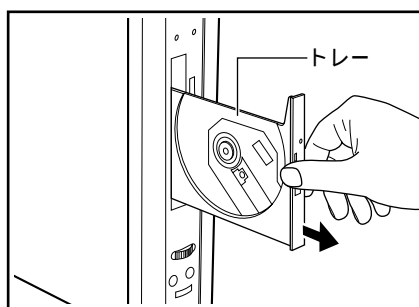
けが CD-ROM や音楽CD をセットまたは取り出すときは、CD-ROM ドライブのトレーに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

セットする

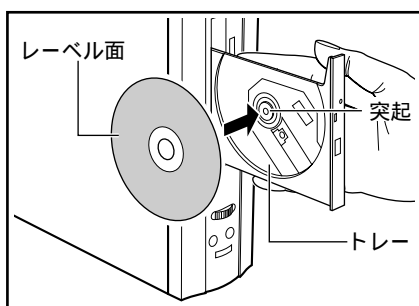
- 1 EJECT ボタンを押します。
CD-ROM や音楽CD をセットするトレーが少し出てきます。



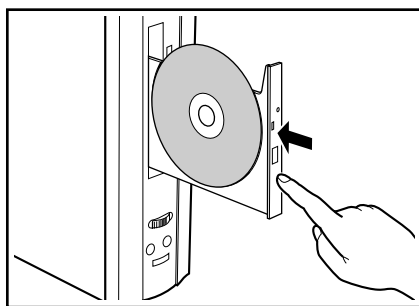
- 2 出てきたトレーの中央を持って、手で引き出します。



- 3 CD-ROM や音楽CD のレーベル面（印刷側）を左にして、トレーの中央に「カチッ」という音がするまではめ込みます。
このとき、パソコン本体が転倒しないようトレーを手で押さえてください。



- 4 トレーを戻します。
トレーを「カチッ」という音がするまで手で静かに押し込んでください。
CD-ROM や音楽CD がセットされ、BUSYランプが点灯します。BUSYランプが消えたことを確認してから、次の操作に進んでください。



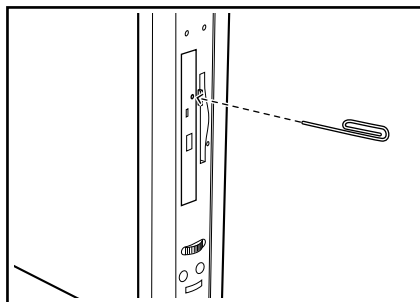
取り出す

- 1 CD-ROM を使っているアプリケーションがあれば終了します。
- 2 BUSY ランプが消えていることを確認し、EJECT ボタンを押します。
CD-ROM や音楽 CD がセットされたトレイが少し出てきます。
- 3 出てきたトレイを手で引き出し、CD-ROM や音楽 CD を取り出します。
トレイ中央の突起を押さえながら、CD-ROM や音楽 CD のふちを持ち上げてください。
- 4 トレーを戻します。
トレイを静かに「カチッ」という音がするまで手で押し込んでください。

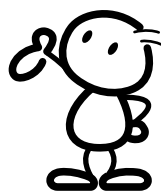
CD-ROM や音楽 CD が取り出せないときは

曲がりにくい針金(大きなクリップをのばしたものなど)をご用意のうえ、以下の手順でCD-ROM や音楽 CD を取り出してください。

- 1 パソコン本体の電源を切ります。
- 2 用意した針金を、CD-ROM ドライブの中央にある穴に差し込みます。
まっすぐに、少し力を込めて差し込んでください。
トレイが少し出てきます。



- 3 トレーを引き出して、CD-ROM や音楽 CD を取り出します。



7

お手入れのしかた

ここではパソコンを快適にお使いいただくために、パソコンのお手入れのしかたを説明します。お手入れのしかたは、ディスプレイ、マウス、フロッピーディスクドライブなど、各部によって異なります。それぞれの部分に合ったお手入れをしてください。

パソコン本体 / ディスプレイ / キーボード / スピーカーのお手入れ

重要

お手入れ前に行うこと

感電やけがの原因となることがあるので、お手入れをする前に、次のことを必ず行ってください。

- パソコン本体の電源を切り、パソコン本体とディスプレイの電源プラグをコンセントから抜いてください。
- CIX407c/CIX357/CIX355をお使いの方は、スピーカーの電源を切り、スピーカーのACアダプタをコンセントから抜いてください。
- プリンタなどの接続されている機器の電源を切り、パソコン本体から取り外してください。

縦置き用フット(●▶P.3)の側面やパソコン本体の通風孔(●▶P.5)にほこりが溜まらないように定期的に清掃してください。

汚れは、乾いた柔らかい布で軽く拭き取ってください。特に、CIX407c/CIX357/CIX355のスピーカーのパネルは強く拭くと破損するおそれがありますので十分に注意してください。

汚れがひどいときは、水または中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。中性洗剤を使って拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。また、拭き取るときは、パソコン本体やディスプレイ、キーボード、スピーカーに水が入らないよう十分に注意してください。

シンナーやベンジンなどの揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。

マウスのお手入れ

重要

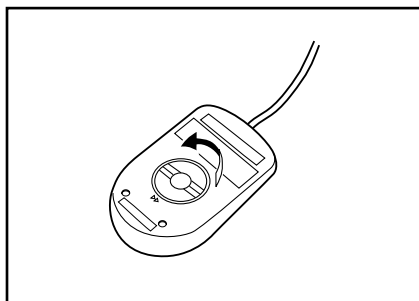
お手入れ前に行うこと

感電やけがの原因となることがあるので、お手入れをする前に、次のことを必ず行ってください。

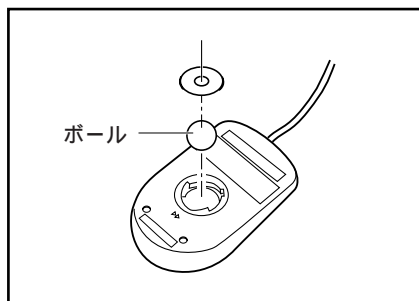
- パソコン本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- プリンタなどの接続されている機器の電源を切り、パソコン本体から取り外してください。

表面の汚れは、乾いた布か、または水中性洗剤を含ませた布で軽く拭き取ってください。また、マウスの裏にあるボールが汚れていると、すべりが悪くなります。マウスのボールは、マウスから取り外してクリーニングできます。ボールのクリーニング方法は次のとおりです。

- 1 マウスの裏ボタンを、矢印の方向に回して取り外します。

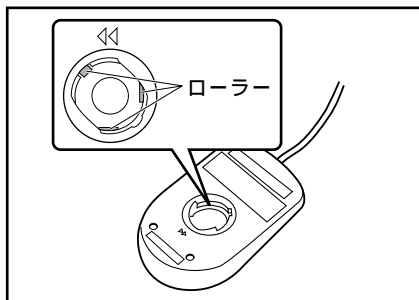


- 2 ボールを取り出して、水または中性洗剤で洗います。



- 3 ボールは洗ったあと、乾いた布でよく拭いて十分に乾かします。

- 4 ボールを乾かしている間に、マウス内部の汚れを拭き取ります。
水に浸して固く絞った布で、マウス内部および裏ボタンを拭きます。
ローラー部分は水で湿らせた綿棒などで拭いてください。



アドバイス

ゴミは完全に取り除いてください

ローラー部分にゴミがたまると、マウスが正常に動かない原因となることがあります。

- 5 ボールをマウスに戻し、裏ボタンを取り付けます。

フロッピーディスクドライブのお手入れ

フロッピーディスクドライブは長い期間使っていると、ヘッド（データを読み書きする部分）が汚れてきます。ヘッドが汚れると、データを正常に読み書きできなくなります。別売りのクリーニングフロッピーをご購入になり、3ヶ月に1回はクリーニングを行ってください。

用意するもの

商品名 : クリーニングフロッピーマイクロ

商品番号 : 0212116

(富士通ピー・アンド・エス取り扱い品 お問い合わせ : 03-3434-0147)

お手入れのしかた

⚠注意



けが クリーニングフロッピーをセットまたは取り出すときには、フロッピーディスクドライブの差し込み口に指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」にマウスポインタを合わせ、「MS-DOS プロンプト」をクリックします。
「MS-DOS プロンプト」ウィンドウが表示されます。
- 2 「C:¥WINDOWS>」に続けて次のように入力し、**[Enter]**を押します。
c:¥fjuty¥clndsk 0
「clndsk」と「0」の間は を1回押してください。「0」は、数字のゼロです。
- 3 クリーニングフロッピーをフロッピーディスクドライブにセットし、**[Enter]**を押します。
「クリーニング中です。あとXX秒」と表示され、クリーニングがはじまります。
しばらくすると、「ヘッドクリーニングが終了しました。」と表示されます。
- 4 フロッピーディスクアクセス表示ランプが消えているのを確認し、クリーニングフロッピーを取り出します。
- 5 「MS-DOS プロンプト」ウィンドウ右上の **[X]** (閉じるボタン) をクリックします。
「MS-DOS プロンプト」ウィンドウを全画面表示しているときは、exit と入力し、**[Enter]**を押してください。

CD-ROM ドライブのお手入れ

CD-ROM ドライブは長い期間使っていると、レンズ（データを読み出す部分）が汚れてきます。レンズが汚れると、データを正常に読み出せなくなります。別売りのCD-ROM クリーニングディスクをご購入になり、1ヶ月に1回はクリーニングを行ってください。

用意するもの

商品名 : CD-ROM クリーニングディスク

商品番号 : 0632410

(富士通ピー・アンド・エス取り扱い品 お問い合わせ : 03-3434-0147)

重要


お手入れには乾式のCD-ROM クリーニングディスクをお使いください

湿式のCD-ROM クリーニングディスクをお使いになると、故障の原因となることがあります。

お手入れのしかた

本パソコンの電源が入っている状態で行ってください。

注意

 **けが** CD-ROM クリーニングディスクをセットまたは取り出すときは、CD-ROM ドライブのトレイに指などを入れないでください。
けがの原因となることがあります。

- 1 CD-ROM クリーニングディスクの固定用のリングを取り除きます。
- 2 CD-ROM クリーニングディスクケースに付いている小型のブラシで、CD-ROM クリーニングディスク裏面の特殊清掃刷毛をそろえます。
- 3 EJECT ボタンを押してトレイを引き出し、CD-ROM クリーニングディスクの赤い三角マークを手前にしてトレイにセットします。
- 4 トレーを戻します。
クリーニングが始まります。このときコツコツと軽い音がしたり、ディスクの回転音が聞こえることがありますが、故障ではありません。
- 5 トレーを戻して約 20 秒間たったら、CD-ROM クリーニングディスクを取り出します。
- 6 CD-ROM クリーニングディスクの特殊清掃刷毛を、保管ケースのパッド面の穴に合わせて、正しく収納します。
- 7 トレーを戻します。

2

オプション機器を使うには

パソコンは、さまざまなオプション機器を接続して機能を拡張することができます。

お使いになる目的に応じて、オプション機器を取り付けてください。本章では、別売りのオプション機器を使うために必要な、接続や設定のしかたについて説明しています。

1. オプション機器を増設する前に	34
2. プリンタを接続する	37
3. 本体カバーを取り外す / 取り付ける	42
4. メモリを増やす	44
5. 拡張カードを増設する	51
6. ハードディスクを増設する	59
7. その他のオプション機器を使う	75

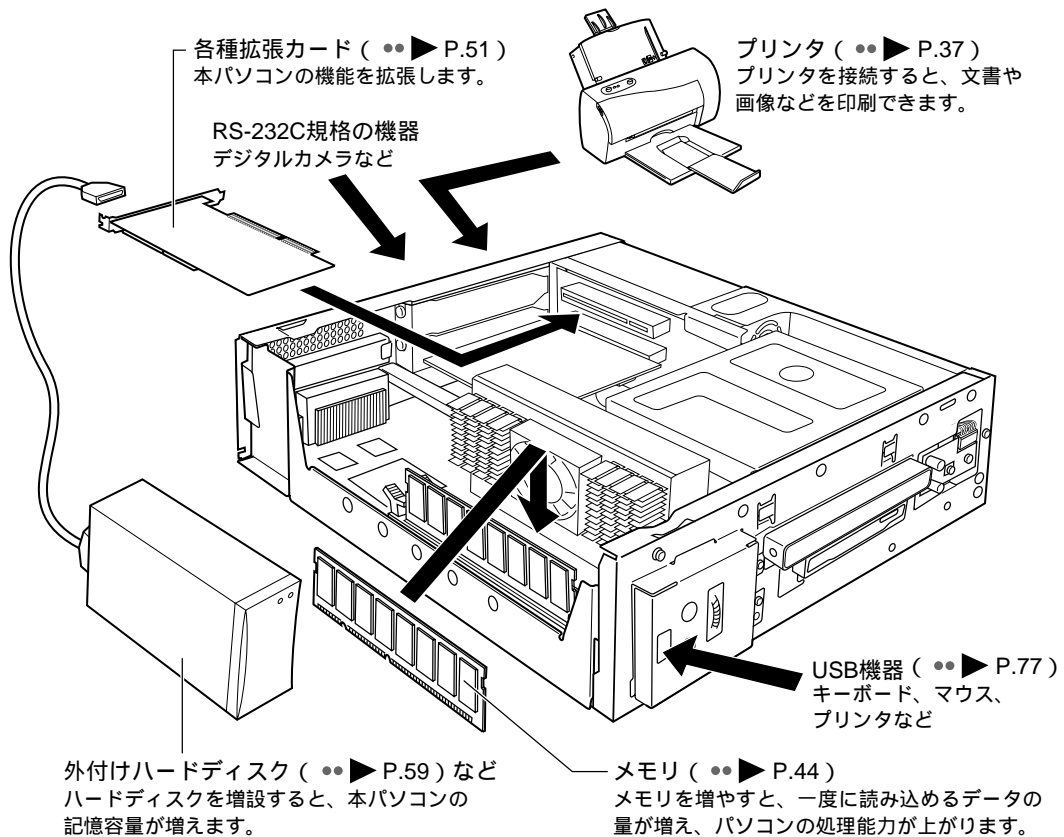
1

オプション機器を増設する前に

別売りのオプション機器を取り付けると、本パソコンの性能を上げたり、機能を付け加えたりできます。ここでは、本パソコンに取り付けられるオプション機器の種類や、オプション機器を取り付ける前に知っておいていただきたいことなどを説明します。

取り付けられるオプション機器

取り付けられる主なオプション機器の種類と場所は以下のとおりです。



この他に、スキャナやターミナルアダプタなども取り付けられます。詳しくは、「その他のオプション機器を使う」(●▶ P.75) をご覧ください。

オプション機器の接続にあたって

ここでは、オプション機器を取り付ける前に、予備知識として知っておいていただきたいことを説明します。

本パソコンは「PC/AT 互換機」です

パソコンには、さまざまな規格のがあります。本パソコンは、「PC/AT(ピーシーエーティー)互換機」と呼ばれる規格のパソコンです。

本書では、オプション機器の接続について、PC/AT互換機の特徴にそって説明しています。

オプション機器によっては設定作業が必要です

パソコンのオプション機器の中には、接続するだけでは使えないものがあります。このようなオプション機器は、接続したあとで設定作業を行う必要があります。

たとえば、プリンタや拡張カードを使うには、取り付けたあとに「ドライバのインストール」という設定作業が必要です。また、ハードディスクを増設したときは、取り付けたあとに「領域の設定」と「フォーマット」という設定作業が必要です。ただし、メモリなどのように、設定作業が必要ないオプション機器もあります。

用語 ドライバ

ドライバとは、パソコンに取り付けた機器を正しく扱うためのソフトウェアのことです。「デバイスドライバ」とも呼ばれます。

ドライバは、OSとオプション機器との仲立ちをします。パソコンのプログラムが実行しようとする命令を、オプション機器が理解できるように翻訳するのが役目です。

ドライバは、それぞれのオプション機器に対して専用のものがあります。メーカーや機種が違えばドライバも異なります。ほとんどのオプション機器には、ドライバがCD-ROMやフロッピーディスクなどで添付されています。

用語 インストール

インストールとは、ソフトウェアをパソコンのハードディスクにコピーして、使える状態にする作業です。

ケーブルは専用です

オプション機器を接続するときを使うケーブルは、パソコンの規格に合わせた専用のものをお使いください。

本パソコンで使えるケーブルは、「PC/AT互換機用」などと表示されたものです。さらに、プリンタをつなぐにはプリンタケーブルを使うというように用途も定まっています。

形状が同じように見えても、実際には規格が異なっていて使えない場合があります。また、ケーブルに使用されているコネクタの大きさによっても使えない場合があります。よく確かめてご用意ください。

オプション機器のマニュアルもご覧ください

本書で説明しているオプション機器の取り付け方法は一例です。オプション機器によっては、取り付け方法や設定作業などが異なる場合があります。オプション機器を取り付けるときは、本書とあわせてオプション機器のマニュアルも必ずご覧ください。


純正品をお使いください

接続するオプション機器は、弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします。

他社製品をお使いになる場合は、本パソコンで正しく動作することを製造元のメーカーにご確認ください。

取り付けるときの注意

オプション機器を取り付けるときは、次の点に注意してください。

- オプション機器は、Windows98のセットアップ(●▶『取扱説明書』)終了後に取り付けてください。Windows98のセットアップを行う前に取り付けると、Windows98のセットアップが正常に行われないおそれがあります。
- 一度に複数のオプション機器を取り付けしないでください。ドライバのインストールなどが正常に行われないおそれがあります。
- 作業を行う前に、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 電源を切った直後は、パソコン本体内部の装置が熱くなっています。内蔵オプション機器の取り付けや取り外しを行う場合は、電源を切ったあと10分ほど待ってから、作業を始めてください。
- 電源ユニット(●▶P.7)は分解しないでください。
- 内部のケーブル類や装置を傷つけたり、加工したりしないでください。
- 内蔵オプション機器は、基板や電子部品がむきだしになっています。これらの部分は、人体にたまる静電気によって損傷を受ける場合があります。取り扱う前に、一度大きな金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。
- 基板表面やはんだ付けの部分、コネクタ部分に触れないように、金具の部分や基板のふちを持つようにしてください。
- 本書で説明している以外のオプション機器の取り付けや、分解を行った場合は、保証の対象外となります。

必要な工具

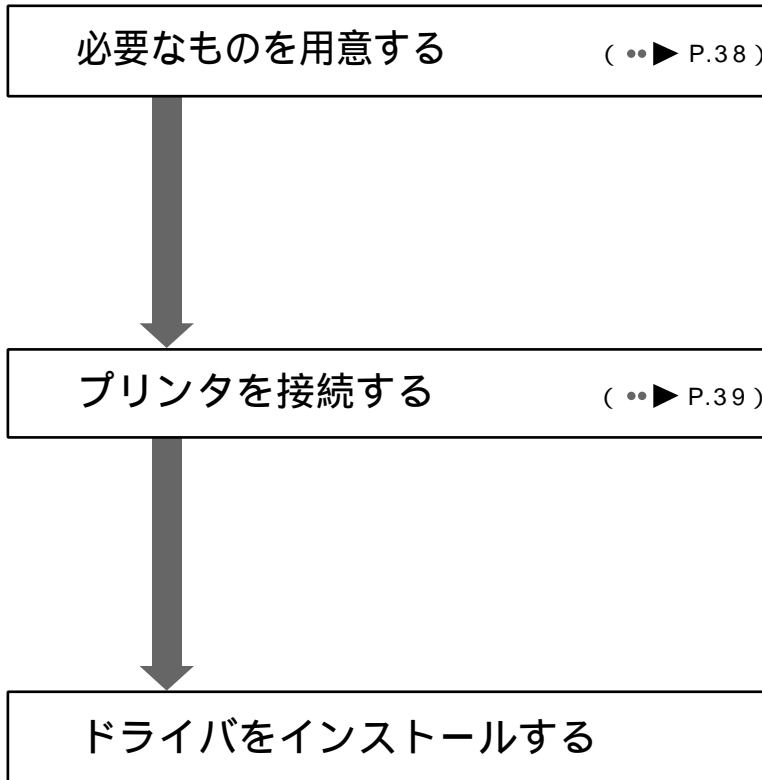
パソコン本体内部のスロットカバーや金具などを取り外すために、プラスのドライバーが必要です。本パソコンで使われているネジは、「M3 ネジ」と「インチネジ」という規格のものです。ネジの頭をつぶさないように、ネジのサイズに合ったドライバーをお使いください。

プリンタを接続する

プリンタを接続すると、文書や画像などを印刷できます。

プリンタを接続するまで

プリンタを接続するための作業の流れを説明します。

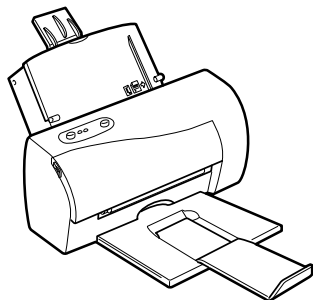


接続したプリンタを使えるように設定します（プリンタドライバをインストールします）。
詳しくは、プリンタのマニュアルをご覧ください。



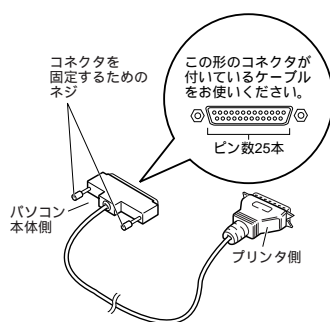
必要なものを用意する

プリンタを接続するには、次のものが必要です。



プリンタ

Windows98 で動作可能なものをご購入ください。

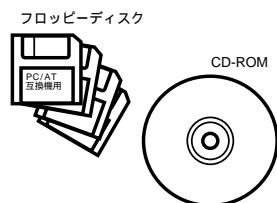


プリンタケーブル

プリンタとパソコンを接続するためのケーブルです。「PC/AT 互換機用」などと記載されていて、コネクタが「D-SUB25 ピン」で、ネジで固定する形のものをお使いください。

プリンタケーブルは、通常プリンタに添付されていません。別途ご購入ください。

また、USB ケーブルで接続するプリンタもあります。



フロッピーディスク

プリンタのドライバ

プリンタに添付されています。

プリンタドライバのフロッピーディスクが数枚添付されている場合は、「Windows98 対応」「PC/AT 互換機用」などと記載されたものをお使いください。



プリンタのマニュアル

CD-ROM で見るマニュアルもあります。

重要

弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします

純正品以外のプリンタ、およびプリンタケーブルを取り付けて正常に動かなかったり、本パソコンが故障しても、保証の対象外となります。

プリンタを接続する

ここでは、プリンタをパソコン本体の平行コネクタに接続する方法について説明します。
USB コネクタに接続するプリンタについては、「USB 機器を接続する」(●▶P.77)をご覧ください。

⚠警告



プリンタの取り付けや取り外しを行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。
感電・火災または故障の原因となります。

⚠注意



- プリンタケーブルは正しく接続してください。
誤った接続状態でお使いになると、パソコン本体およびプリンタが故障の原因となることがあります。
- プリンタ、およびプリンタケーブルは、弊社純正品をお使いください。
純正品以外のプリンタ、およびプリンタケーブルをお使いになると、故障の原因となることがあります。

重要

プリンタは、Windows98 のセットアップ終了後に取り付けてください

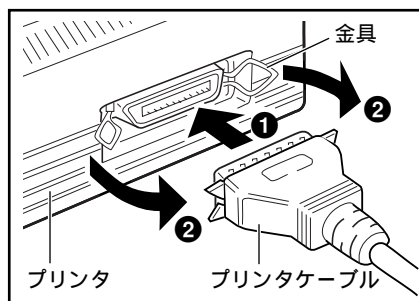
Windows98のセットアップ(●▶『取扱説明書』)を行う前に取り付けると、Windows98のセットアップが正常に行われぬおそれがあります。

プリンタのマニュアルもご覧ください

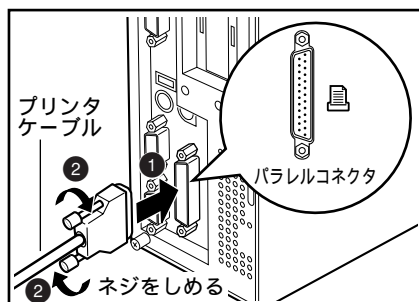
接続方法は、プリンタによって異なります。プリンタのマニュアルもあわせてご覧ください。

1 パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜きます。

2 プリンタ側のコネクタに、プリンタケーブルのネジが付いていないコネクタを接続します。
プリンタ側のコネクタとプリンタケーブルのコネクタは正面から見ると台形になっています。その形を互いに合わせて差し込んでください。
プリンタ側のコネクタの左右に金具が付いている場合は、金具でプリンタケーブルを固定してください。



3 パソコン本体背面の平行コネクタ(凸)に、プリンタケーブルのネジの付いているコネクタを接続します。
平行コネクタとプリンタケーブルのコネクタは正面から見ると台形になっています。その形を互いに合わせて、差し込んでください。
プリンタケーブルのコネクタの上下のネジをしめて、プリンタケーブルを固定してください。



- 4 プリンタに電源ケーブルを接続します。
プリンタに電源ケーブルがつながっている場合もあります。詳しくは、プリンタのマニュアルをご覧ください。
- 5 本パソコンおよび接続されている機器と、プリンタの電源プラグを、コンセントに差し込みます。

初めて接続するプリンタの場合は、続いてプリンタの設定（プリンタドライバのインストール）を行う必要があります。プリンタのマニュアルをご覧ください。プリンタの設定を行ってください。プリンタのマニュアルに記載されている手順どおりに設定が進まない場合は、次のアドバイス「プリンタドライバのインストール時の注意」をご覧ください。

アドバイス

プリンタドライバのインストール時の注意

プリンタのマニュアルに「接続して電源を入れると自動的にドライバのインストールが始まります。」と記載されていても、お使いの環境によっては、プリンタのマニュアルに記載されている手順どおりに設定が進まないことがあります。そのときは、以下の手順でドライバをインストールしてください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「プリンタ」をクリックします。
- 2 「プリンタの追加」をクリックします。
「プリンタの追加ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 3 画面の指示に従って、ドライバをインストールしてください。

Windows98のCD-ROMを要求するメッセージが表示されたときは

「OK」をクリックしてください。「ファイルのコピー」ウィンドウが表示されます。
「ファイルのコピー元」に `c:\windows\options\cabs` と入力し、「OK」をクリックしてください。

ご購入時のCD-ROMドライブはEです

CD-ROMからプリンタのドライバをインストールする場合に、CD-ROMドライブ名を指定するときは `e:\` と入力してください。

通常使うプリンタに設定してください

接続したプリンタは、通常使うプリンタに設定してください。

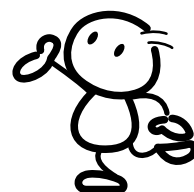
弊社製FMLBPシリーズのプリンタをお使いの場合

プリンタ側とパソコン側のモードが合っていないために、印刷が正常に行われない場合があります。その場合は以下の手順でモードを変更してください。

- 1 プリンタの操作パネルなどで、現在のプリンタのモードを調べます。
操作パネルについてはプリンタのマニュアルをご覧ください。
- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「プリンタ」をクリックします。
「プリンタ」ウィンドウが表示されます。
- 3 接続したプリンタのアイコンをクリックします。
プリンタのウィンドウが表示されます。
- 4 「プリンタ」メニューの「プロパティ」をクリックします。
- 5 「現在のモード」タブをクリックします。
- 6 プリンタ側のモードと同じモードを選びます。
プリンタ側のモードがESC/Pモードの場合は「ESC/Pモード」、FMモードの場合は「FMモード」をクリックします。
- 7 「OK」をクリックします。

弊社製プリンタ「XJ-350 / XJ-550」をお使いのとき

- 本パソコンには、以下のプリンタドライバがあらかじめ用意されています。
そのため、これらのプリンタをお使いになる場合は、プラグアンドプレイ(●▶ P.53)でプリンタが認識されたあとに、自動的にドライバのインストールが始まります。
XJ-350 : V1.0L10 XJ-550 : V1.0L10 (1999年1月現在)
 - プリンタドライバは、バージョンアップされることがあります。最新版のドライバは、パソコン通信やインターネットなどのオンライン情報サービスにてご案内します。
 - NIFTY SERVE 富士通 FM シリーズ情報「FM INFO」
(GO FMINFO でアクセスできます)
 - インターネット富士通パソコン情報ページ「FM WORLD」
(<http://www.fmworld.ne.jp>)
 - 最新版のドライバのインストールは、次の流れにそって行ってください。
 - 1 プリンタの電源を切ります。
 - 2 古いバージョンのドライバを削除します。
削除のしかたについては、プリンタのマニュアルをご覧ください。
 - 3 本パソコンを再起動します。
 - 4 Windows98 が起動したら、プリンタの電源を入れます。
 - 5 ダウンロードした最新版のドライバを、「プリンタの追加」でインストールします。本パソコンを再起動するときにプリンタの電源が入っていると、プラグアンドプレイが行われ、古いドライバが自動的にインストールされてしまいます。必ず、プリンタの電源を切ってから、本パソコンを再起動してください。
インストール方法などについて詳しくは、プリンタのマニュアルをご覧ください。
-



3

本体カバーを取り外す / 取り付ける

パソコン本体内部にオプション機器を取り付けるときは、本体カバーを取り外す必要があります。

⚠ 警告



本体カバーを取り外すときまたは取り付けるときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。

感電・火災または故障の原因となります。



取り外したネジなどの小さな部品は、小さなお子様が悪く飲んで飲み込むと窒息の原因となります。保護者の方は、小さなお子様の手の届かないところに置くように注意してください。

万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。

⚠ 注意



本体カバーを取り外すときまたは取り付けるときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。

指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



基板表面上の突起物には手を触れないでください。

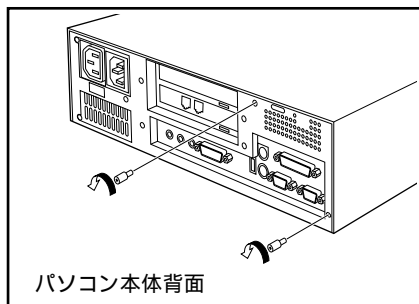
けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

本体カバーを取り外す

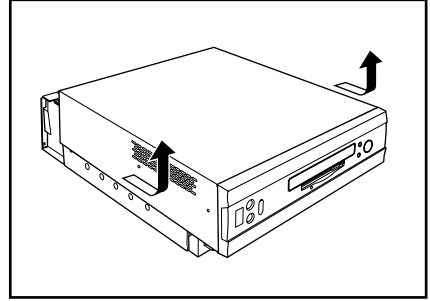
本体カバーは、次の作業を行うときに取り外します。

- メモリを取り付けるとき
- 拡張カードを取り付けるとき
- BIOS セットアップでパスワードを設定するとき

- 1 パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜きます。
- 2 本パソコンを縦置きでお使いの場合は、縦置き用フットを取り外し、横置きにします。
- 3 パソコン本体背面のツマミネジ(2カ所)を手で回して外します。



- 4** 本体カバーを矢印の方向に取り外します。
パソコン本体前面に向けてスライドさせたあと、持ち上げてください。



メモリを取り付ける場合

▶▶ P.48 手順 2 へ

メモリを交換する場合

▶▶ P.49 手順 2 へ

拡張カードを取り付ける場合

▶▶ P.57 手順 2 へ

パスワードを設定し、ディップスイッチを変更する場合

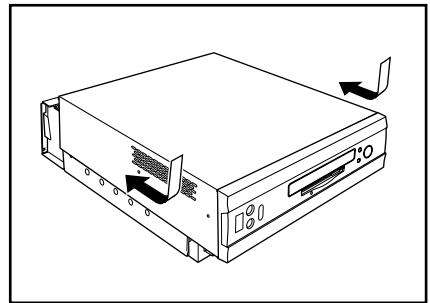
▶▶ P.116 手順 2 へ

パスワードを設定し、ジャンプスイッチを変更する場合

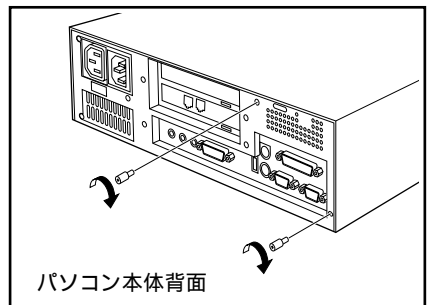
▶▶ P.117 手順 2 へ

本体カバーを取り付ける

- 1** 本体カバーを取り付けます。
パソコン本体背面に向けてスライドさせます。



- 2** パソコン本体背面のツマミネジ（2カ所）を手で回して取り付けます。



- 3** 本パソコンを縦置きでお使いになる場合は、縦置き用フットを取り付けます。
4 パソコン本体および接続されている機器の電源プラグを、コンセントに差し込みます。



メモリを取り付けた場合

▶▶ P.49 アドバイス「メモリ容量を確認してください」へ

拡張カードを取り付けた場合

▶▶ P.58 手順 8 へ

パスワードを設定した場合

▶▶ P.119 「パスワード設定後のパソコンの起動」へ

4

メモリを増やす

メモリを増やすと、一度に大きなデータを扱えるようになり、複数のアプリケーションを同時に起動するときなどにパソコンの処理が快適になります。

用語 メモリ

メモリは、CPUが処理するデータを一時的に記憶する装置です。パソコン本体に内蔵されています。

メモリを増やすまで

メモリを増やすための作業の流れを説明します。

必要なものを用意する

(●▶ P.45)

本パソコンで使えるメモリは、機種により異なります。
ご確認のうえ、ご用意ください。

メモリを取り付ける

(●▶ P.47)

メモリを取り付けたあと、取り付けたメモリが本パソコンで使える状態になっているかを確認してください(●▶ P.49)。

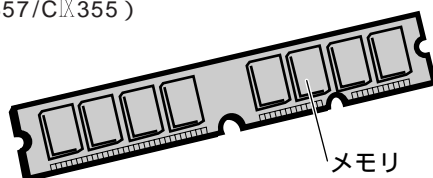


必要なものを用意する

お使いになれるメモリは、次のようなものです。

メモリ

- 種類…………… SDRAM (エスディーラム)
DIMM (ディム) (SPD 付き)
- システムバスクロック…… 100MHz (CIX40L/CIX35L/CIX357/CIX355)
66MHz (CIX40Lc/CIX407c)
- ピン数…………… 168 ピン
- 容量…………… 32MB、64MB、128MB
- ECC …………… なし



重要

弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします

純正品以外のメモリを取り付けて正常に動かなかったり、本パソコンが故障しても、保証の対象外となります。

メモリのシステムバスクロックにご注意ください

本パソコンに取り付けるメモリのシステムバスクロックは、機種により異なります。必ずシステムバスクロックが適合しているものをお使いください。

用語 SPD (エスピーディー)

SPD は、Serial Presence Detect の略で、メモリの機能のひとつです。

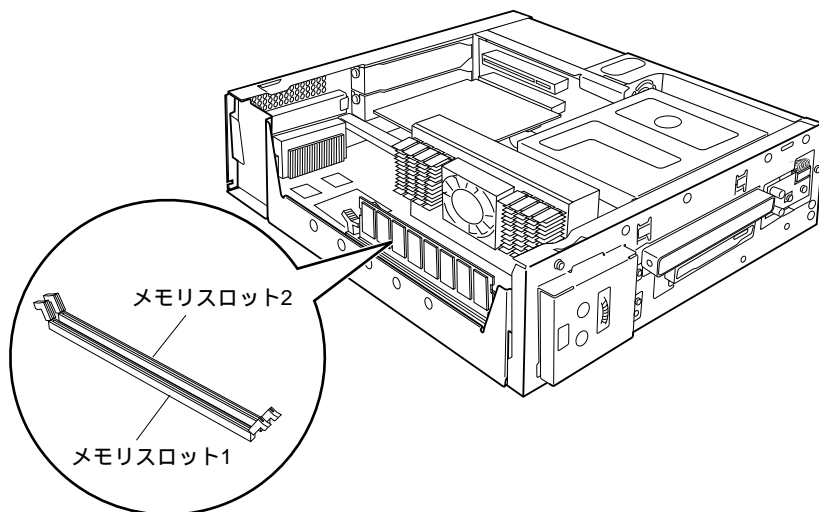
必ず SPD 付きのメモリをご購入ください。なお、弊社製の SDRAM は、SPD 付きです。

用語 ECC (イーシーシー)

ECC は、Error Correcting Code の略で、データの中の誤りを検出し、訂正する機能のことです。本パソコンでは、この機能は使いません。

メモリの取り付け場所

メモリは、パソコン本体内部のメモリスロットに取り付けます。
本パソコンのご購入時は、メモリスロット1に64MBのメモリが1枚取り付けられています。
メモリ容量を増やすには、メモリスロット2に、新たにメモリを取り付けます。
さらに容量を増やしたいときは、メモリスロット1にあらかじめ取り付けられているメモリを、大容量のメモリに交換します。
メモリは最大256MB（128MB × 2枚）まで増やせます。



メモリの組み合わせ表

次の表で、メモリの容量とメモリスロットの組み合わせを確認してください。表以外の組み合わせにすると、本パソコンが正常に動作しない場合があります。

総容量	メモリスロット1 (DIMM1)	メモリスロット2 (DIMM2)
64MB(ご購入時)	64MB	なし
96MB	64MB	32MB
128MB	64MB	64MB
192MB	64MB	128MB
256MB (最大)	128MB	128MB

メモリを取り付ける

ここでは、メモリを取り付ける方法を説明します。
あらかじめ取り付けられているメモリを、大容量のメモリに交換するときは、「メモリを交換する」(●▶P.49)をご覧ください。

警告



メモリの取り付けまたは交換を行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。
感電・火災または故障の原因となります。

注意



メモリの取り付けまたは交換を行うときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。
指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



基板表面上の突起物には手を触れないでください。
けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



- メモリは、弊社純正品をお使いください。
純正品以外のメモリをお使いになると、故障の原因となることがあります。
- メモリを取り付けるときは、メモリの差し込み方向をお確かめのうえ、確実に差し込んでください。誤ってメモリを逆方向に差し込み、差し込みが不完全だったりすると、故障の原因となることがあります。

重要

メモリは、Windows98のセットアップ終了後に取り付けてください

Windows98のセットアップ(●▶『取扱説明書』)を行う前に取り付けたら、Windows98のセットアップが正常に行われずおそれがあります。

電源を切ってから10分ほど待ってください

電源を切った直後は、パソコン本体内部の装置が熱くなっています。
メモリを取り付けるときは、電源を切ったあと10分ほど待ってから、作業を始めてください。

放電してから作業してください

メモリは人体にたまる静電気によって悪影響を受けます。取り扱う前に、一度大きな金属質のものに手を触れて静電気を放電してください。

メモリのシステムバスクロックにご注意ください

本パソコンに取り付けるメモリのシステムバスクロックは、機種により異なります。必ずシステムバスクロックが適合しているものをお使いください。

メモリは何度も抜き差ししないでください

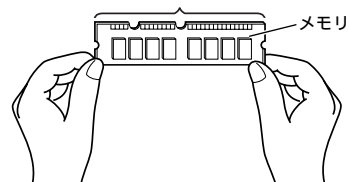
故障の原因となることがあります。

アドバイス

メモリの持ちかた

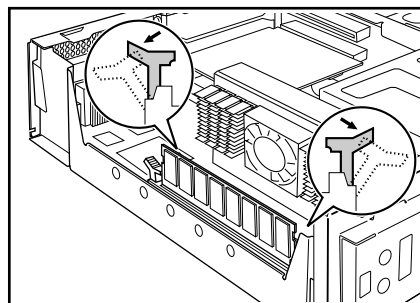
メモリは右図のようにぶちを持ってください。
金色の線が入っている部分(端子)には、絶対に手を触れないでください。

この部分には手を触れないでください。



1 「本体カバーを取り外す」(●▶P.42)をご覧ください、本体カバーを取り外します。

2 メモリを取り付けるメモリスロットの両側のレバーを外側に開きます。
メモリの取り付け場所については、「メモリの取り付け場所」と「メモリの組み合わせ表」(●▶P.46)をご覧ください。



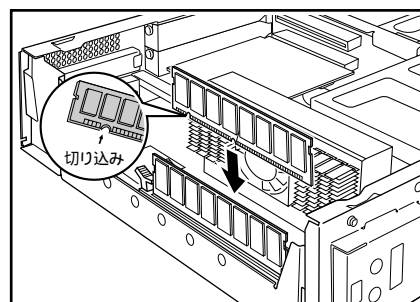
3 メモリをメモリスロットに差し込みます。

■ CIX 40L/CIX 40Lc/CIX 407c をお使いの方は ■

端子に切り込みが入っている方をパソコン本体背面側に向けて、メモリスロットの上からまっすぐ下に差し込んでください。

メモリがメモリスロットに差し込まれると、スロット両側のレバーが自動的に閉じて、メモリがロックされます。

必ず、メモリがロックされたことを確認してください。

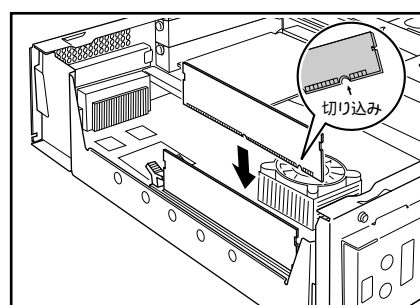


■ CIX 35L/CIX 357/CIX 355 をお使いの方は ■

端子に切り込みが入っている方をパソコン本体前面側に向けて、メモリスロットの上からまっすぐ下に差し込んでください。

メモリがメモリスロットに差し込まれると、スロット両側のレバーが自動的に閉じて、メモリがロックされます。

必ず、メモリがロックされたことを確認してください。



重要



メモリの方向をよく確認して正しく差し込んでください
無理に差し込むと故障の原因となります。

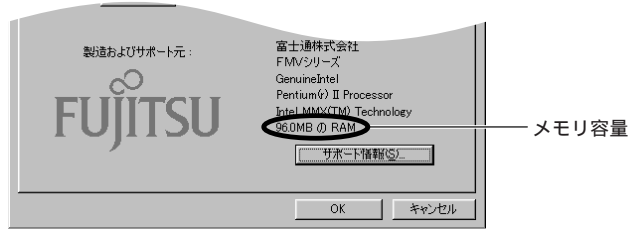
4 「本体カバーを取り付ける」(●▶P.43)をご覧ください、本体カバーを取り付けます。

アドバイス

メモリ容量を確認してください

メモリを取り付けたあと、増やしたメモリが本パソコンで使える状態になっているかを確認してください。必ず、本体カバーを取り付けてから確認作業を行ってください。


- 1 パソコン本体の電源を入れます。
- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 3  (システム) をクリックします。「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 4  で囲んだ部分の数値が、増やしたメモリの分だけ増えているかを確認します。



(画面は機種により異なります)

画面は、32MBのメモリを増設して、96MBに増やした例です。

お使いのシステム構成によっては1MB少なく表示される場合があります。

- 5 「OK」をクリックします。
- 6 「コントロールパネル」ウィンドウ右上の  (閉じるボタン) をクリックします。

数値が増えていないときは

メモリ容量の数値が増えていなかった場合は、次のことを確認してください。

- 増やしたメモリが本パソコンで使える種類のものか
 - ▶「必要なものを用意する」(P.45)
- メモリがメモリスロットにきちんと差し込まれているか
 - ▶「メモリを取り付ける」(P.47)
- 正しいスロットに取り付けられているか
 - ▶「メモリの取り付け場所」(P.46)
- メモリを正しく組み合わせているか
 - ▶「メモリの組み合わせ表」(P.46)

電源を入れても何も表示されないときは

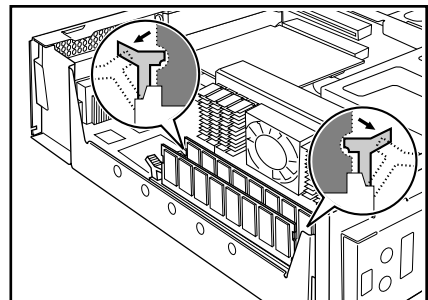
メモリが正しく取り付けられていないと、本パソコンの電源を入れたとき画面に何も表示されない場合があります。その場合は、電源スイッチを4秒以上押し続けて本パソコンの電源を切り、メモリを取り付け直してください。

メモリの取り外しかたについては、次の「メモリを交換する」をご覧ください。

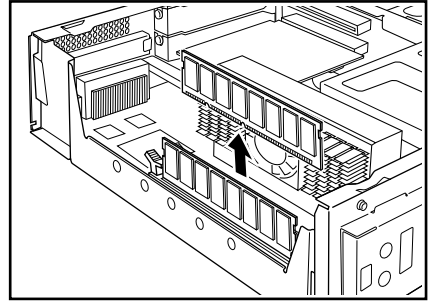
メモリを交換する

本パソコンに取り付けられているメモリを取り外し、より大容量のメモリに交換することができます。

- 1 「本体カバーを取り外す」(●▶P.42) をご覧になり、本体カバーを取り外します。
- 2 取り外したいメモリのメモリスロットの両側のレバーを外側に開きます。メモリが外れます。



3 メモリを上引き抜きます。



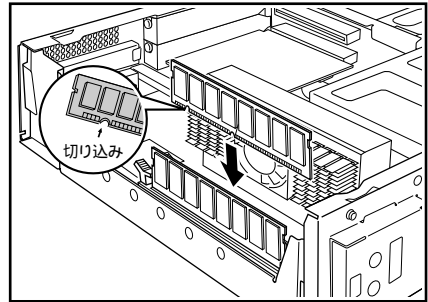
4 新しいメモリをメモリスロットに差し込みます。

■ CIX 40L/CIX 40Lc/CIX 407c をお使いの方は ■

端子に切り込みが入っている方をパソコン本体背面側に向けて、メモリスロットの上からまっすぐ下に差し込んでください。

メモリがメモリスロットに差し込まれると、スロット両側のレバーが自動的に閉じて、メモリがロックされます。

必ず、メモリがロックされたことを確認してください。

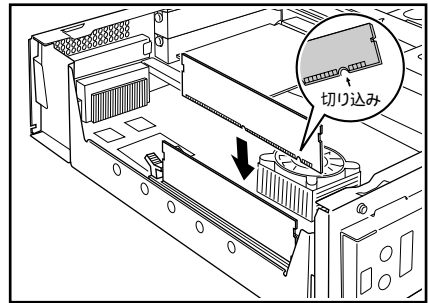


■ CIX 35L/CIX 357/CIX 355 をお使いの方は ■

端子に切り込みが入っている方をパソコン本体前面側に向けて、メモリスロットの上からまっすぐ下に差し込んでください。

メモリがメモリスロットに差し込まれると、スロット両側のレバーが自動的に閉じて、メモリがロックされます。

必ず、メモリがロックされたことを確認してください。



重要

メモリの方向をよく確認して正しく差し込んでください

無理に差し込むと故障の原因となります。

5 「本体カバーを取り付ける」(●▶P.43) をご覧になり、本体カバーを取り付けます。

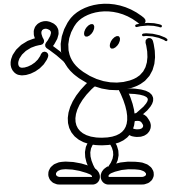
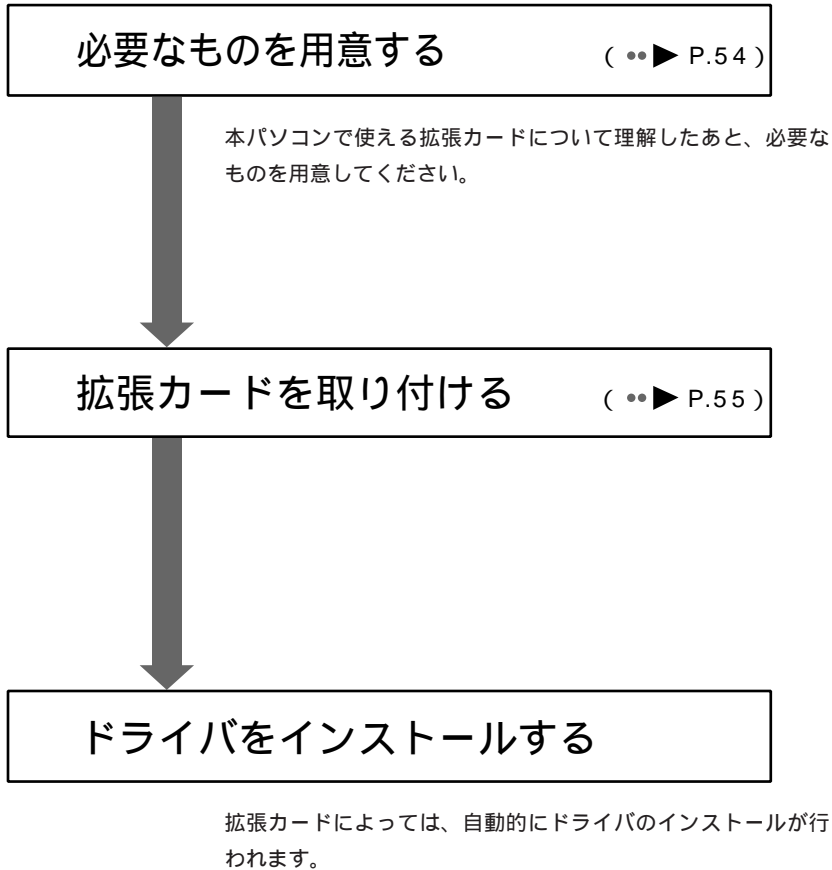
このあと、「アドバイス」(●▶P.49) をご覧になり、交換したメモリが使える状態になっているかを確認してください。

拡張カードを増設する

拡張カードを使うと、パソコンにさまざまな機能を追加できます。

拡張カードを増設するまで

拡張カードを増設するための作業の流れを説明します。

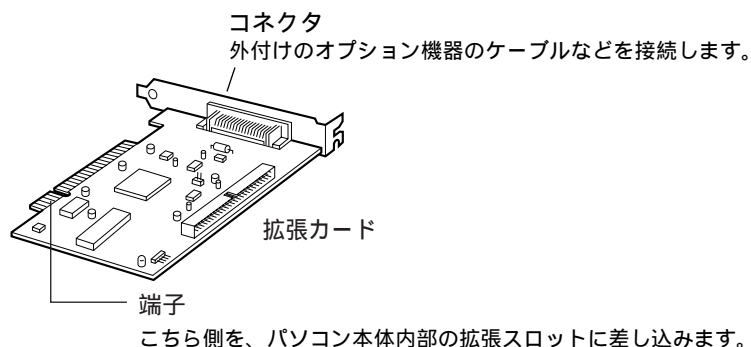


拡張カードを取り付ける前に

ここでは、本パソコンに取り付けられる拡張カードにはどのようなものがあるか、拡張カードを取り付けるのに必要なものや、必要な作業について説明します。

拡張カードとは

「拡張カード」は、パソコン本体内部に取り付けて、いろいろな機能を追加するためのものです。



コラム

代表的な拡張カードの種類

代表的な拡張カードには、以下のものがあります。

- **SCSI カード**
SCSI規格の外付けハードディスクやMO(光磁気ディスク)ドライブなどを接続するときに必要な拡張カードです。外付けハードディスクについて詳しくは「ハードディスクを増設する」(●▶P.59)をご覧ください。
- **モデムカード**
パソコン通信、インターネット、FAX送受信などを行うときに必要な拡張カードです。また、ボイス機能を備えているモデムカードは、留守番電話として使うこともできます(専用のソフトウェアが必要です)。本パソコンには、ご購入時にあらかじめFAX / ボイスモデムカードが取り付けられています。
- **LAN カード**
複数台のパソコンやプリンタなどを接続し、データを転送したり共有したりするときに必要な拡張カードです。LANカードでパソコンやプリンタを接続するには、LANケーブルなどのLAN機材も必要となります。
- **ビデオキャプチャカード**
ビデオの画像をパソコンのディスプレイに表示したり、ビデオの画像をパソコンにデータとして取り込んで加工できるようにしたりする拡張カードです。カードによって、静止画だけを扱えるものと、静止画と動画の両方を扱えるものがあります。

お使いになれる拡張カード

拡張カードには、いくつかの規格があります。本パソコンでは、「PCI（ピーシーアイ）」という規格に対応した拡張カードが使えます。

拡張カードは、パソコン本体内部の「拡張スロット」に取り付けます。本パソコンの拡張スロットは、PCI規格のスロットです。

拡張カードは本パソコンの空いている拡張スロットに増設できます。

また、拡張カードの大きさには、大きく分けて「フルサイズ」と「ハーフサイズ」があります。本パソコンでは、ハーフサイズの拡張カードのみ増設できます。

拡張スロット	空き状況	取り付け可能なサイズ
PCI1	空き	ハーフサイズ（176mmまで）
PCI2	FAX / ボイスモデムカードを搭載済み	ハーフサイズ（150mmまで）

拡張カードを増設するには

拡張カードには、「プラグアンドプレイ」というしくみに対応しているものと、対応していないものがあります。本パソコンで使えるPCI拡張カードはプラグアンドプレイに対応しています。

プラグアンドプレイに対応しているPCI拡張カードを増設するときは、拡張スロットに拡張カードを取り付けて、ドライバをインストールするだけで使えるようになります。

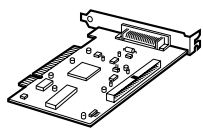
お使いになる拡張カードが必要とするリソースが、本パソコンの空いているリソースに設定できない場合は、拡張カードを取り付ける前に設定が必要です。詳しくは、「リソースを解放する」（●▶P.131）をご覧ください。

用語 プラグアンドプレイ（Plug&Play/PnP）

プラグアンドプレイとは、パソコン本体に接続される機器の設定を自動化するためのしくみのことです。特別な設定をしなくても、拡張カードやその他のオプション機器を接続しただけで使えるようにします。Windows98はプラグアンドプレイに対応しています。

必要なものを用意する

拡張カードを増設するには、次のものがが必要です。

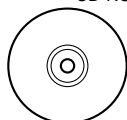


PCI 拡張カード

フロッピーディスク

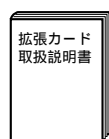


CD-ROM

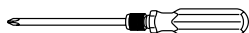


拡張カードのドライバ

拡張カードによっては、添付されていないこともあります。



拡張カードのマニュアル



プラスのドライバー

重要

弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします

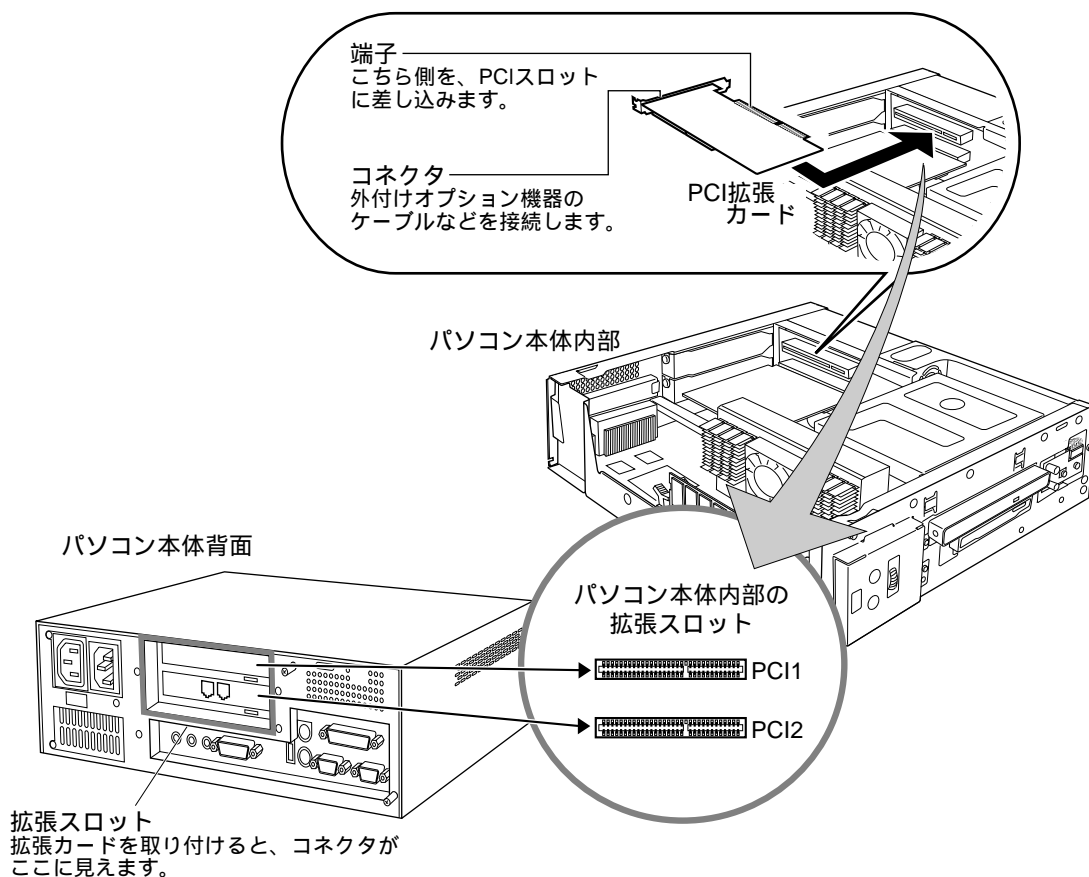
純正品以外の拡張カードを取り付けて正常に動かなかったり、本パソコンが故障しても、保証の対象外となります。

拡張カードを取り付ける

ここでは、拡張カードを取り付ける位置と取り付け方法について説明します。

拡張スロットの位置

拡張カードは、パソコン本体内部の拡張スロットに取り付けます。





拡張スロットは、上から順に PCI1、PCI2 となっています。

本パソコンでは、ハーフサイズの PCI 拡張カードのみ増設できます。


取り付ける


警告


感電  拡張カードの取り付けや取り外しを行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。感電・火災または故障の原因となります。

誤飲  取り外したネジなどの小さな部品は、小さなお子様が悪く飲み込むと窒息の原因となります。保護者の方は、小さなお子様の手の届かないところに置くように注意してください。
万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。

注意


けが  拡張カードの取り付けや取り外しを行うときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。
指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。
また、故障の原因となることがあります。

けが  基板表面上の突起物、および指定されたスイッチ以外には手を触れないでください。けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

故障  拡張カードは、弊社純正品をお使いください。
純正品以外の拡張カードをお使いになると、故障の原因となることがあります。

重要

拡張カードは、Windows98のセットアップ終了後に取り付けてください

Windows98のセットアップ(●▶『取扱説明書』)を行う前に取り付けると、Windows98のセットアップが正常に行われぬおそれがあります。

電源を切ったあと10分ほど待ってください

電源を切った直後は、パソコン本体内部の装置が熱くなっています。
拡張カードを取り付けるときは、電源を切ったあと10分ほど待ってから、作業を始めてください。

拡張カードはしっかりと差し込んでください

拡張カードを取り付けるときは、拡張カードが拡張スロットに完全に差し込まれていることを確認してください。
完全に差し込まれていないと、拡張カードのドライバのインストールが正常に行われなかったり、故障の原因となることがあります。

確認

SCSIカードを取り付けるときは

SCSIカードのSCSI IDは7番に設定してください(通常、SCSIカードはあらかじめ7番に設定されています)。詳しくは、SCSIカードのマニュアルでご確認ください。

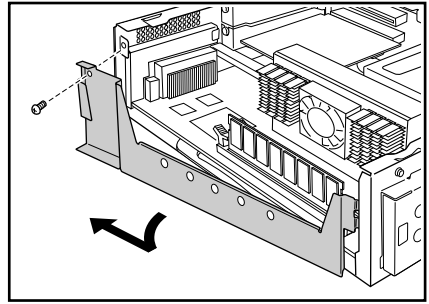
グラフィックスカードを取り付けるときは

グラフィックスカードを取り付けるときは、取り付け前に「ATI mach64 ディスプレイドライバ」を削除する必要があります。詳しくは「グラフィックスカードをお使いになるうえでの注意」(●▶P.144)をご覧ください。

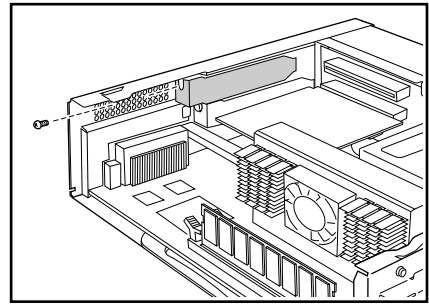
ただし、マルチモニタ機能を使う場合は、「マルチモニタ機能を使う」(●▶P.79)をご覧ください。

1 「本体カバーを取り外す」(●▶P.42) をご覧になり、本体カバーを取り外します。

2 側面の金具を取り外します。
ネジ（1カ所）を外して、矢印の方向に取り外します。



3 ネジ（1カ所）を外して、スロットカバーを取り外します。



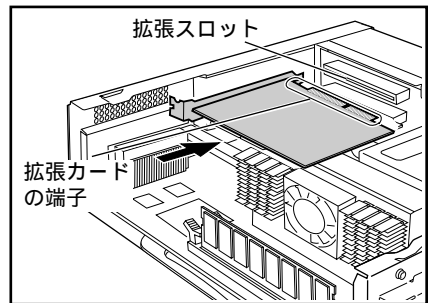
アドバイス

スロットカバーは保管してください

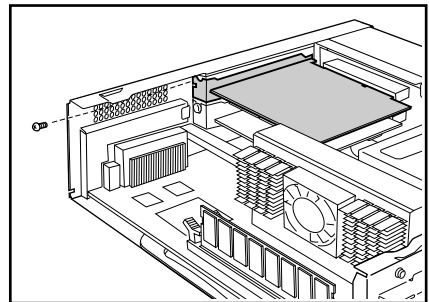
取り外したスロットカバーは捨てずに保管してください。拡張カードを取り外した場合は、スロットカバーを取り付けてください。



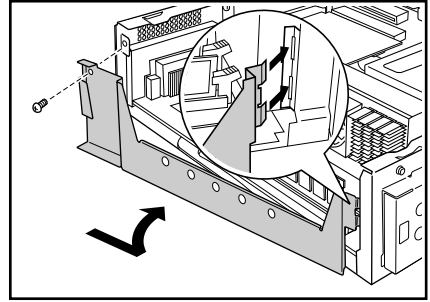
4 拡張スロットに、拡張カードを差し込みます。
拡張カードの端子を、拡張スロットの奥まで完全に差し込んでください。



5 手順3で外したスロットカバーのネジ（1カ所）で、拡張カードを固定します。
ネジは固くしめすぎないようにしてください。



- 6** 側面の金具を取り付けます。
側面の金具のツメを、パソコン本体前面側の溝に差し込み、ネジ（1カ所）で固定します。



- 7** 「本体カバーを取り付ける」(●▶P.43) をご覧になり、本体カバーを取り付けます。

- 8** パソコン本体の電源を入れ、拡張カードのマニュアルをご覧になり、画面の指示に従ってドライバをインストールしてください。または、自動的にドライバがインストールされる場合もあります。

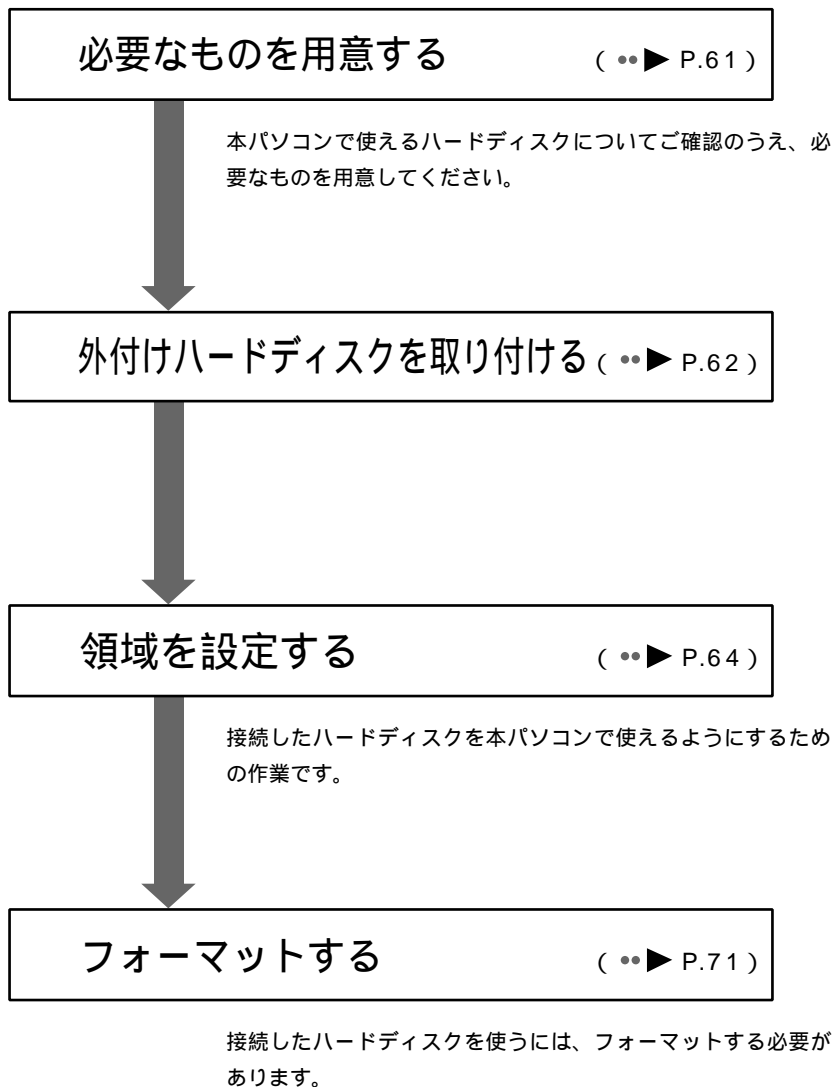
拡張カードにフロッピーディスクやCD-ROMが添付されている場合、パソコン本体の電源を入れると、「フロッピーディスクやCD-ROMをセットしてください」というメッセージが表示されることがあります。画面の指示に従ってフロッピーディスクまたはCD-ROMをセットし、ドライバをインストールしてください。

ハードディスクを増設する

本パソコンにはあらかじめ IDE 規格のハードディスクが 1 台内蔵されています。
さらに、SCSI カードを使って SCSI 規格の外付けハードディスクを増設できます。

ハードディスクを増設するまで

ハードディスクを増設するための作業の流れを説明します。

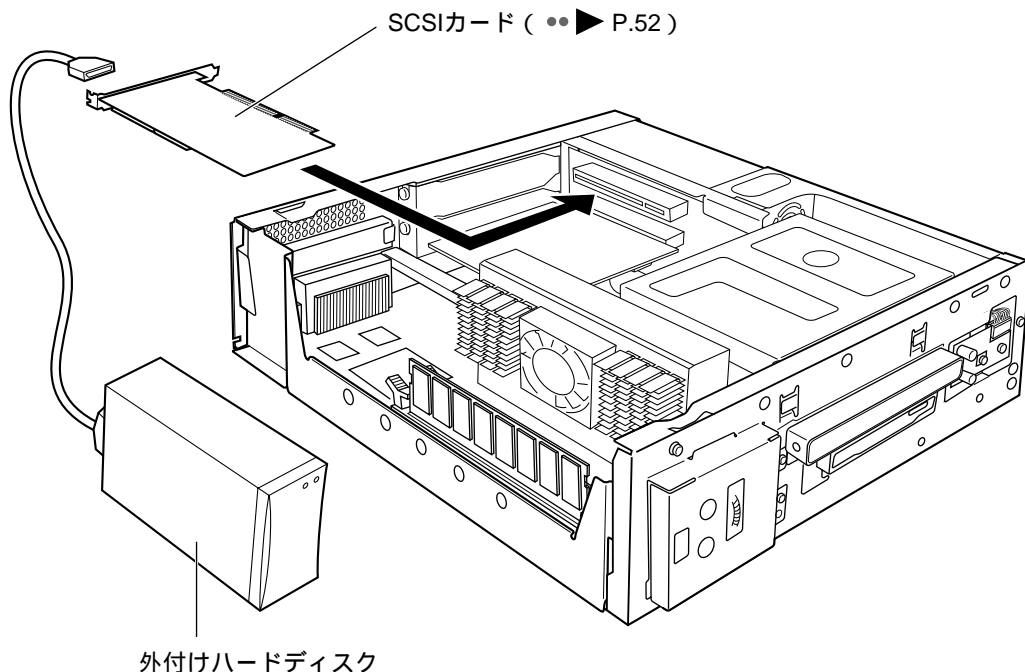


ハードディスクを取り付ける前に

ここでは、本パソコンに取り付けられるハードディスクにはどのようなものがあるか、ハードディスクを取り付けるのに必要なもの、必要な作業について説明します。

お使いになれるハードディスク

本パソコンでは、SCSI 規格の外付けハードディスクを増設できます。
SCSI 規格のハードディスクを使うには、SCSI カードという拡張カードが必要です。



用語 SCSI (スカジー)

機器の接続に関する規格のひとつです。SCSI 規格の機器には、ハードディスクのほか、スキャナや MO ドライブなどがあります。

用語 IDE (アイディーイー)

ハードディスクや CD-ROM ドライブなどの内蔵ドライブの規格のひとつです。マザーボード上にコネクタがあるため、拡張カードなどを使わずに、内蔵ドライブを接続できます。
本パソコンにあらかじめ内蔵されているハードディスクはこの規格です。

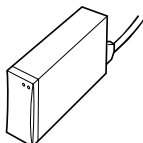
必要なものを用意する

外付けハードディスクを取り付けるときには、次のものがが必要です。

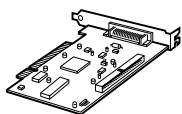
重要

弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします

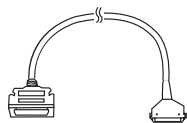
純正品以外のハードディスク、SCSIカード、SCSIケーブル、終端抵抗を取り付けて正常に動かなかったり、本パソコンが故障しても、保証の対象外となります。



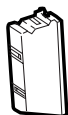
SCSI規格の外付けハードディスク
本パソコンにはSCSI規格の外付けハードディスクが取り付けられません。
内蔵ハードディスクはお使いになれません。



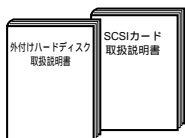
SCSIカード（●▶P.52）
SCSI規格の外付けハードディスクを取り付けるときに必要な拡張カードです。



SCSIケーブル
SCSIカードと外付けハードディスクをつなぐために必要なケーブルです。SCSI規格のコネクタには数種類あります。ご使用になるSCSIカードと外付けハードディスクに合ったものをよくご確認のうえご購入ください。



終端抵抗（ターミネータ）
電気信号が、SCSIケーブルを正しく伝わるようにするためのものです。詳しくは下の「コラム」をご覧ください。
終端抵抗は、3つ以上取り付けたり有効にしたりしないでください。



外付けハードディスクとSCSIカードのマニュアル

コラム

終端抵抗（ターミネータ）

SCSI規格のオプション機器は数珠つなぎに接続できます。その際、両端となる機器にそれぞれ終端抵抗を取り付ける必要があります。

たとえば、SCSI規格の外付けハードディスクを1台増設した場合は、SCSIカードと外付けハードディスクが両端となります。

SCSIカードには、通常、終端抵抗が内蔵されていますので、終端抵抗を新たに取り付ける必要はありません。ただし、SCSIカード上のジャンプスイッチなどで、終端抵抗を有効、または無効に設定する必要があるものもあります。

外付けハードディスクには、別売りの終端抵抗を取り付けます。SCSI規格のコネクタは数種類あります。コネクタの形状をご確認のうえご購入ください。

続いて、外付けハードディスクを取り付けます。次ページの「外付けハードディスクを取り付ける」をご覧ください。

外付けハードディスクを取り付ける

⚠ 警告



外付けハードディスクの取り付けや取り外しを行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。

感電の原因となります。



取り外したネジなどの小さな部品は、小さなお子様が誤って飲み込むと窒息の原因となります。保護者の方は、小さなお子様の手の届かないところに置くように注意してください。

万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。

⚠ 注意



- ケーブルは正しく接続してください。誤った接続状態でお使いになると、パソコン本体が故障する原因になることがあります。

- 外付けハードディスクは、弊社純正品をお使いください。純正品以外のハードディスクをお使いになると、故障の原因となることがあります。



外付けハードディスクの取り付けを行うときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。

指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

重要

SCSIカードと外付けハードディスクは、Windows98のセットアップ終了後に取り付けてください。Windows98のセットアップ(●▶『取扱説明書』)を行う前に取り付けると、Windows98のセットアップが正常に行われないおそれがあります。

1

外付けハードディスクとSCSIカードのSCSI IDを設定します。

SCSI規格では複数の機器を接続できます。それらの機器を区別するために付ける番号が「SCSI ID」です。SCSI IDは0から7番までの番号があります。

SCSIカードのSCSI IDは7番に設定してください(通常、SCSIカードはあらかじめ7番に設定されています)。

外付けハードディスクのSCSI IDは、それ以外の番号(0～6番)を設定してください。

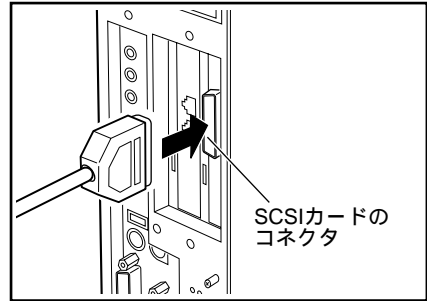
設定のしかたについては、SCSIカードと外付けハードディスクのマニュアルをご覧ください。

2

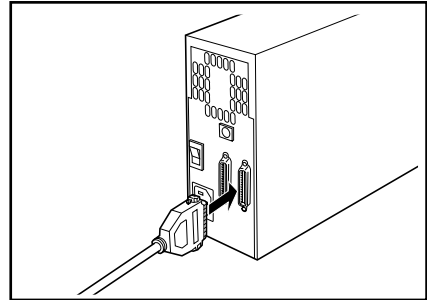
SCSIカードを取り付けます。

取り付けかたなどについて詳しくは、「拡張カードを増設する」(●▶P.51)をご覧ください。

- 3** SCSIカードのコネクタにSCSIケーブルを接続します。
SCSIケーブルの片方のコネクタを、パソコン本体背面にあるSCSIカードのコネクタに接続します。



- 4** 外付けハードディスクのINコネクタに、SCSIケーブルのもう片方のコネクタを接続します。

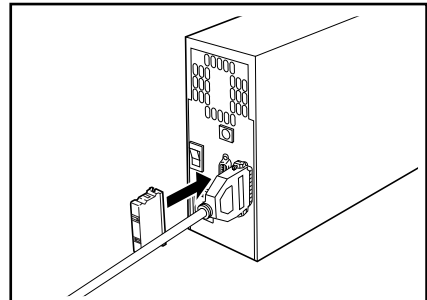


アドバイス

コネクタにIN/OUTの指定がないときは

外付けハードディスクによってはコネクタにIN/OUTの指定がないものもあります。そのときは、どちら側に接続してもかまいません。

- 5** 外付けハードディスクに終端抵抗を取り付けます。
外付けハードディスクのOUTコネクタに終端抵抗を取り付けます。



- 6** 外付けハードディスクに電源ケーブルを接続します。
外付けハードディスクに電源ケーブルがつながっている場合もあります。詳しくは、外付けハードディスクのマニュアルをご覧ください。
- 7** 本パソコンと、接続されている機器、接続した外付けハードディスクの電源プラグをコンセントに差し込みます。

続いて、領域の設定を行います。次ページの「領域を設定する」をご覧ください。

領域を設定する

初めて外付けハードディスクを取り付けたときは、取り付けたあとにハードディスクの領域を設定します。領域の設定は、増設したハードディスクを使えるようにするための作業です。

また、この作業では、増設したハードディスクをいくつかの領域に分けることもできます。領域を分けると、それぞれの領域が1つ1つのドライブになります。たとえば、増設したハードディスクを2つの領域に分けると、2つのドライブができ、1台のハードディスクが2台のハードディスクであるかのように扱えます。

増設したハードディスクの領域を分けるか分けないかは、使いやすいほうを選んでください。

ここでは、外付けハードディスクを1台増設した場合の領域の設定のしかたを説明します。使っていたハードディスクの領域を設定し直す場合は、「アドバイス」(●▶P.69)をご覧ください。領域を削除してからこの作業を行ってください。

重要

ドライブ名が変更されます

外付けハードディスクを増設して本書の手順に従って領域の設定を行うと、Eドライブ以降(基本MS-DOS領域を作成する場合はDドライブ以降)のドライブ名が変更されます。CD-ROMドライブのドライブ名も変更されます。詳しくは、「コラム」(●▶P.70)をご覧ください。

お使いのソフトウェアによっては、ドライブ名の修正が必要になることがあります。詳しくは、ソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

保存されていたデータが失われます

ハードディスクの領域を設定し直すと、そのハードディスクに保存されていたデータは失われてしまいます。使っていたハードディスクの領域を設定し直すときは、フロッピーディスクや他のハードディスクなどにバックアップをとるなどしてから、領域を設定してください。

確認

常駐しているアプリケーションを終了してください

領域を設定する前に、常駐しているアプリケーション(「AUV」など、タスクバーにアイコン表示されているアプリケーション)やスクリーンセーバーを終了させてください。

- 1 外付けハードディスクと、パソコン本体の電源を入れます。
パソコン本体の電源を入れる前に、外付けハードディスクの電源を入れてください。
- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」にマウスポインタを合わせ、「MS-DOS プロンプト」をクリックします。
- 3 C:¥WINDOWS> に続けて `fdisk` と入力して、`[Enter]` を押します。

```
Microsoft(R)Windows 98
(C)Copyright Microsoft Corp 1981-1998.
```

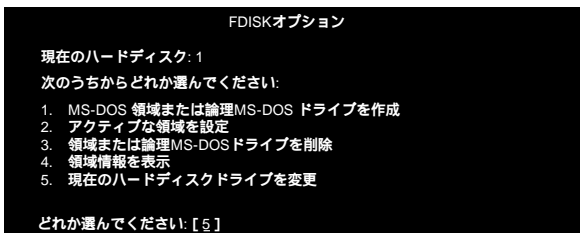
```
C:¥WINDOWS>fdisk
```

4 **[Y]** を押して、**[Enter]** を押します。

512MB以上のディスクがあります。このバージョンのWindowsでは、大容量のディスクのサポートが強化され、ディスク領域を有効に使えるようになりました。2GB以上のドライブを1つのドライブとしてフォーマットできます。

重要：大容量ディスクのサポートを使用可能にして、このディスクに新しいドライブを作成した場合、ほかのオペレーティング システムを使ってこの新しいドライブにアクセスすることはできません（Windows 95とWindows NTの特定のバージョン以前のバージョンのWindowsとMS-DOSを含む）。また、FAT32ファイルシステム用に設計されていないディスクユーティリティは、正常に動作しません。このディスクでほかのオペレーティングシステムや以前のディスクユーティリティにアクセスする必要がある場合、大容量ドライブのサポートは使用しないでください。

大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか(Y/N) ? [Y]

5 **[5]** を押して「5. 現在のハードディスクドライブを変更」を選び、**[Enter]** を押します。**アドバイス**

「5. 現在のハードディスクドライブを変更」が表示されていないときは

領域の設定を中断し、次のことを確認してください。領域の設定を中断するには、手順 16、18、19（**▶P.68）を行ったあと、「電源を切れる状態にする」をクリックし、「OK」をクリックします。

- 外付けハードディスクが正しく接続されているか
- 外付けハードディスクの電源が入っているか

確認したあと、再び手順 1（**▶P.64）から操作し直してください。

上記のことを確認しても「5. 現在のハードディスクドライブを変更」が表示されないときは、増設した外付けハードディスクを Windows 98 が認識していない可能性があります。

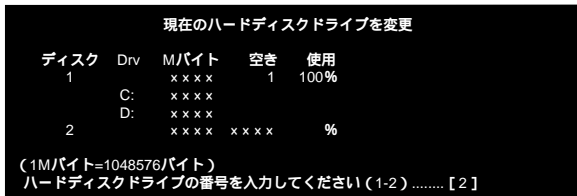
以下の手順に従って確認してください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2 (システム) をクリックし、「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
- 3 「ディスクドライブ」の をクリックし、増設したハードディスクをクリックします。「ディスクドライブ」内の「GENERIC IDE DISK TYPEXX」と「GENERIC XXX FLOPPY DISK」と表示されている以外のものが増設したハードディスクです。
- 4 「プロパティ」をクリックし、「設定」タブをクリックします。
- 5 「オプション」欄の「Int 13 ユニット」が になっていることを確認し、「OK」をクリックします。 になっているときは、 をクリックして にし、「OK」をクリックしてください。
- 6 「OK」または「閉じる」をクリックします。
- 7 「システム設定の変更」ウィンドウが表示された場合は、「はい」をクリックして本パソコンを再起動してください。
- 7 再び手順 2（**▶P.64）から操作し直します。

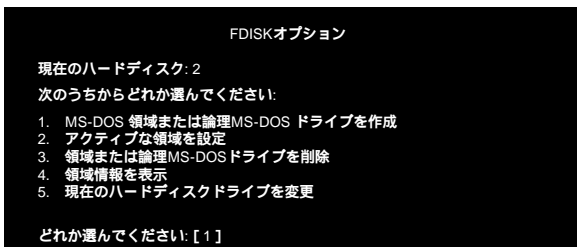
ドライブ名やハードディスクの番号は異なる場合があります

ハードディスクなどのオプション機器を増設する台数によって、以降の画面や、手順のドライブ名、ハードディスクの番号は異なる場合があります。

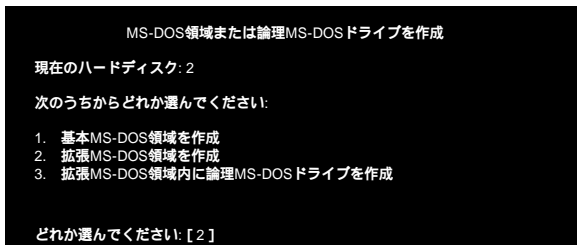
- 6 ②を押して増設したハードディスクを選び、**[Enter]**を押します。
 ディスク1は、ご購入時に本パソコンに内蔵されているハードディスクです。
 ディスク2が増設したハードディスクです。



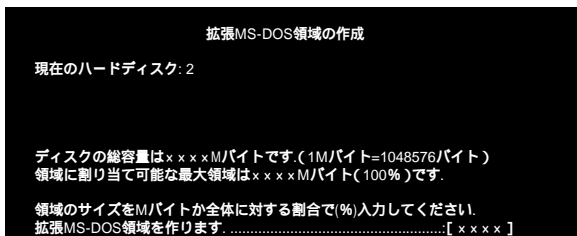
- 7 「現在のハードディスク」の数値が「2」になっていることを確認し、①を押して「1. MS-DOS 領域または論理 MS-DOS ドライブを作成」を選び、**[Enter]**を押します。



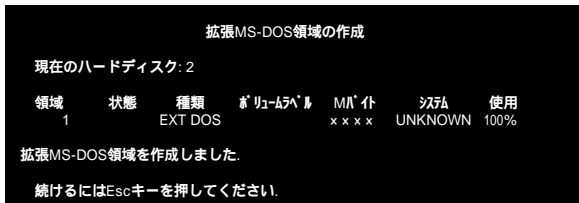
- 8 ②を押して「2. 拡張 MS-DOS 領域を作成」を選び、**[Enter]**を押します。



- 9 「ディスクの総容量は... 拡張 MS-DOS 領域を作ります。」というメッセージが表示されたら、そのまま**[Enter]**を押します。
 増設したハードディスクによっては、「領域に割り当て可能な最大領域」が「ディスクの総容量」より少なく表示される場合があります。



- 10 「拡張 MS-DOS 領域を作成しました。」というメッセージが表示されたら、**[Esc]**を押します。



- 11 ここからは、増設したハードディスクの領域を分けるか分けないかによって、進む手順が異なります。



領域を分けない場合

手順 12 へ進みます。

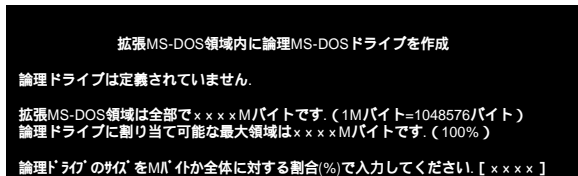


領域を分ける場合

手順 13 へ進みます。

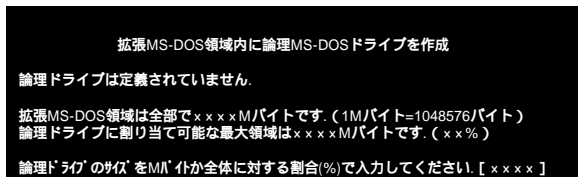
■ 領域を分けない場合 ■

- 12 そのまま **[Enter]** を押して、手順 15 へ進みます。



■ 領域を分ける場合 ■

- 13 1 つ目の領域に設定したい容量を数字キーで入力し、**[Enter]**を押します。



アドバイス

容量を入力するときに

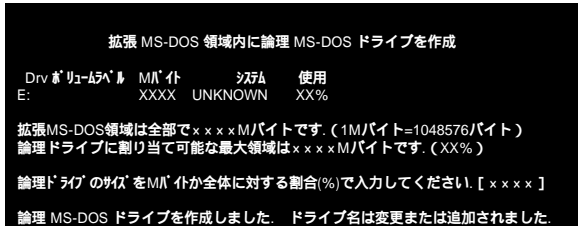
単位は「MB」または「%」で入力してください。「MB」で指定する場合は「XXXX」と数字のみを入力します。「%」で指定する場合は、「XX%」と単位を付けて入力します。

画面に表示されている「割り当て可能な最大領域」の数値を目安に、それ以下の数値を入力してください。「MB」で指定した場合は、入力した値と画面に表示される値が若干異なることがあります。

- 14 「論理 MS-DOS ドライブを作成しました。ドライブ名は変更または追加されました。」というメッセージが表示されたら、2つ目の領域に設定したい容量を数字キーで入力し、**[Enter]**を押します。

この手順を繰り返すと、さらに領域を分けられます。

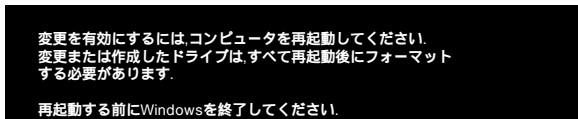
表示されている数値を確認し、そのまま **[Enter]** を押してもかまいません。表示されている数値が、分けた領域の容量となります。



- 15 「拡張 MS-DOS 領域の使用可能な領域はすべて論理ドライブに割り当てられています。」というメッセージが表示されたら、**[Esc]**を押します。

- 16 **[Esc]**を押します。

- 17 「変更を有効にするには、コンピュータを再起動してください。」というメッセージが表示されたら、**[Esc]**を押します。



- 18 「C:¥WINDOWS>」と表示されたら、「MS-DOS プロンプト」ウィンドウ右上の **[X]** (閉じるボタン) をクリックします。

「MS-DOS プロンプト」ウィンドウを全画面表示しているときは、**exit** と入力し、**[Enter]** を押してください。

- 19 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。

- 20 「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。
本パソコンが再起動します。

続いて、増設した外付けハードディスクをフォーマットします。「フォーマットする」(●▶P.71)をご覧ください。

アドバイス

領域を削除する

増設したハードディスクの領域は分け直すことができます。

たとえば、本書の手順に従って増設したハードディスクの領域を分けずに使っていた場合に、領域の設定をし直すことで領域を分けることができます。ただし、領域の設定をし直すと、増設したハードディスクに保存されていたデータは消去されます。

- 1 「領域を設定する」の手順 1 ~ 6 (●▶ P.64) の作業を行います。
- 2 「現在のハードディスク」が「2」になっていることを確認し、**[3]**を押して「3. 領域または論理 MS-DOS ドライブを削除」を選び、**[Enter]**を押します。
- 3 **[3]**を押して「3. 拡張 MS-DOS 領域内の論理 MS-DOS ドライブを削除」を選び、**[Enter]**を押します。
- 4 「Drv」の下に表示されているドライブ名 (アルファベット 1 文字) を入力し、**[Enter]**を押します。領域を削除する増設ハードディスクの領域が 2 つ以上に分かれている場合は、「Drv」の下にドライブ名 (アルファベット) が複数表示されています。そのうちのどのドライブ名を入力してもかまいません。残りのドライブは、あとで選べます。
- 5 「ボリュームラベルを入力してください」というメッセージが表示されます。



画面上部の「ボリュームラベル」の下に何も表示されていない場合
そのまま **[Enter]** を押します。



画面上部の「ボリュームラベル」の下に文字や記号が表示されている場合
表示されている文字や記号を入力し、**[Enter]** を押します。

- 6 「よろしいですか (Y/N) 」というメッセージが表示されたら、**[Y]** を押して、**[Enter]** を押します。「Drv」の下に表示されているドライブ名 (アルファベット) の右横に「ドライブを削除しました。」というメッセージが表示されます。
- 7 ここでは、領域を削除する増設ハードディスクの領域が分かれているかいないかによって、行う手順が異なります。



領域が分かれていない場合

画面下に「拡張 MS-DOS 領域の論理ドライブはすべて削除されました。」というメッセージが表示されているのを確認し、**[Esc]** を押します。



領域が分かれている場合

手順 4 ~ 6 を繰り返して、ドライブを削除します。

「Drv」の下に表示されているすべてのドライブ名 (アルファベット) の右横に「ドライブを削除しました。」というメッセージが表示され、画面下に「拡張 MS-DOS 領域の論理ドライブはすべて削除されました。」というメッセージが表示されたことを確認します。そのあと、**[Esc]** を押します。

- 8 「論理ドライブは定義されていません。」というメッセージが表示されたら、**[Esc]** を押します。
- 9 **[3]** を押して「3. 領域または論理 MS-DOS ドライブを削除」を選び、**[Enter]** を押します。
- 10 **[2]** を押して「2. 拡張 MS-DOS 領域を削除」を選び、**[Enter]** を押します。
- 11 **[Y]** を押して、**[Enter]** を押します。
- 12 「拡張 MS-DOS 領域を削除しました。」というメッセージが表示されたら、**[Esc]** を押します。

基本 MS-DOS 領域が作成されている増設ハードディスクの領域を削除するときは、このあと基本 MS-DOS 領域も削除してください。

続いて、領域を削除した増設ハードディスクの領域を設定し直します。「領域を設定する」の手順 7 (●▶ P.66) から作業を行ってください。

ハードディスク増設時のドライブ名の割り当て

ハードディスクを増設して領域の設定を行うと、ハードディスクとCD-ROMドライブのドライブ名が変更されます。

本パソコンにハードディスクを1台増設した場合、ご購入時に本パソコンに内蔵されているハードディスク、増設したハードディスク、CD-ROMドライブには、以下の表のとおり順番でドライブ名が割り当てられます。

ドライブ名(ア)は増設ハードディスクの領域を分けなかった場合、ドライブ名(イ)は増設ハードディスクの領域を2つに分けた場合です。

割り当て順	ドライブ	ドライブ名 (ア)	ドライブ名 (イ)	備考 (FDISKとの対応)
1	「ご購入時に内蔵されているハードディスク」の1つ目の領域	C	C	ハードディスク1の基本MS-DOS領域
2	「ご購入時に内蔵されているハードディスク」の2つ目の領域	D	D	ハードディスク1の論理MS-DOSドライブ
3	「増設したハードディスク」の1つ目の領域	E	E	ハードディスク2の論理MS-DOSドライブ
4	「増設したハードディスク」の2つ目の領域	-	F	ハードディスク2の論理MS-DOSドライブ
5	CD-ROMドライブ	F	G	-

- 増設ハードディスクの領域を3つ以上に分けた場合は、割り当て順4番と5番の間に増設ハードディスクの3つ目以降の領域が割り当てられ、最後にCD-ROMドライブが割り当てられます。
- 増設ハードディスクに基本MS-DOS領域を作成した場合は、通常は割り当て順1番と2番の間に増設ハードディスクの1つ目の領域(ハードディスク2の基本MS-DOS領域)が入り、ドライブ名「D」が割り当てられます。

お使いのソフトウェアによっては、ドライブ名の修正が必要になることがあります。詳しくは、ソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

フォーマットする

新しく外付けハードディスクを取り付けたときには、領域の設定を行ったあとに、フォーマットする必要があります。フォーマットすると、増設したハードディスクにデータを読み書きできるようになります。

また、フォーマット済みのものを増設した場合も、領域を設定し直すとフォーマットが無効になります。あらためてフォーマットし直してください。

重要




フォーマットするとデータは失われます

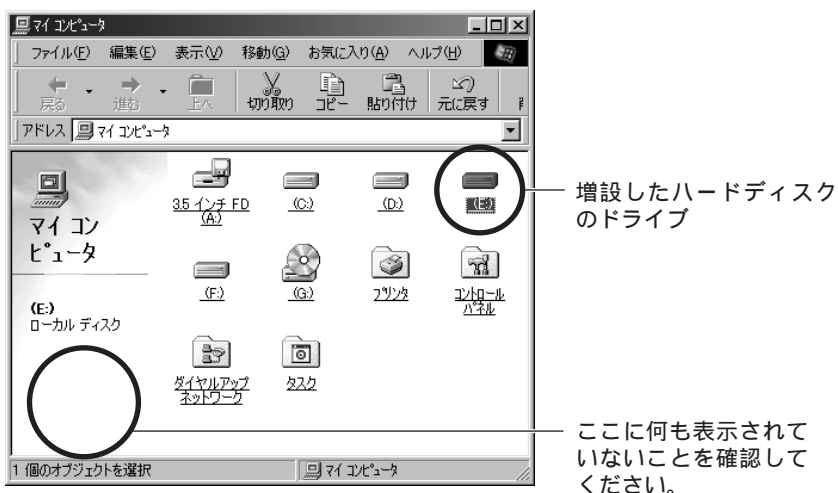
ハードディスクのフォーマットを行うと、そのハードディスクの内容はすべて失われます。あらかじめ取り付けられていたハードディスクを誤ってフォーマットしないようにご注意ください。

確認

常駐しているアプリケーションを終了してください

ハードディスクのフォーマットを行う前に、常駐しているアプリケーション（「AUV」など、タスクバーにアイコン表示されているアプリケーション）やスクリーンセーバーを終了させてください。

- 1 デスクトップの （マイコンピュータ）をクリックします。
- 2 増設したハードディスクのドライブにマウスポインタを合わせます。
マウスポインタが  から  に変わり、選んだドライブのアイコンが反転表示されます。



増設したハードディスクのドライブ名は、領域の設定でハードディスクの領域をいくつに分けたかによって異なります。

上の画面は、ハードディスクを1台増設し、本書の手順に従って、増設したハードディスクの領域（拡張MS-DOS領域）を2つに分けた場合です。

重要

どのドライブが増設したハードディスクのものが調べてください

本書の手順に従って、増設したハードディスクの領域を設定すると、Eドライブ以降(基本MS-DOS領域を作成した場合はDドライブ以降)のドライブ名が変更される場合があります。増設したハードディスクがどのドライブに割り当てられているか、調べてください。

増設したハードディスクのドライブのアイコンを反転表示させたとき、「マイコンピュータ」ウィンドウの左端のローカルディスクの欄は何も表示されません。

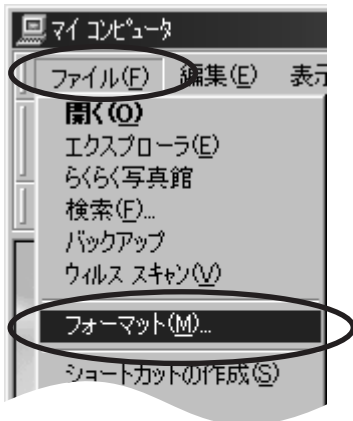
あらかじめ取り付けられていたハードディスクのドライブのアイコンを反転表示させると、ローカルディスクの欄に円グラフが表示されます。

アドバイス

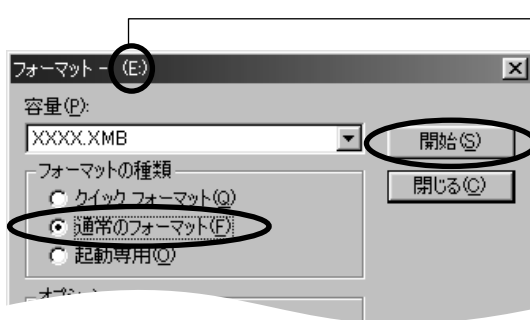
「アクセスできません。」と表示されたときは

増設したハードディスクのドライブのアイコンをクリックしてしまうと、「アクセスできません。」というメッセージが表示されます。メッセージが表示されたら「キャンセル」をクリックしてください。

- 3 「ファイル」メニューの「フォーマット」をクリックします。

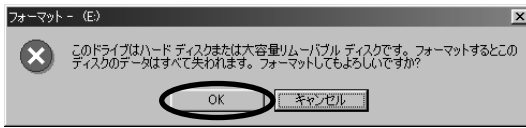


- 4 「フォーマットの種類」欄の「通常のフォーマット」をクリックし、「開始」をクリックします。



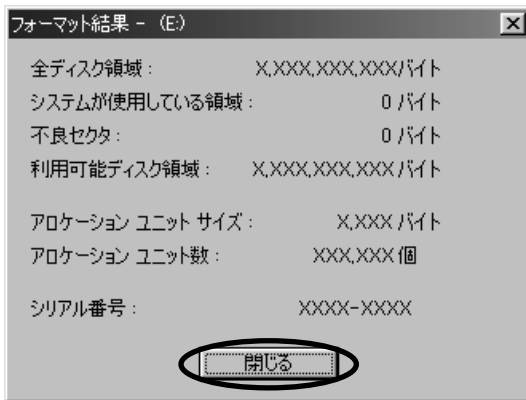
増設したハードディスクのドライブ名であることを確認してください。

5 「OK」をクリックします。

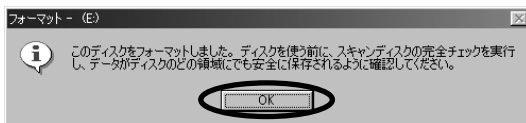


フォーマットが始まります。

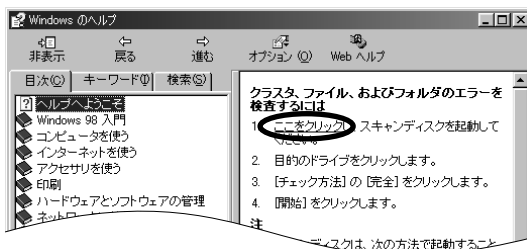
6 フォーマット結果を確認したあと、「閉じる」をクリックします。



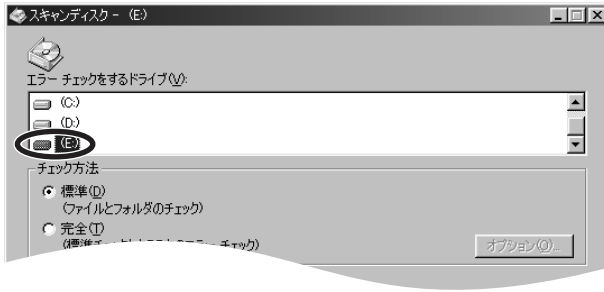
7 「OK」をクリックします。



8 増設したハードディスクに、スキャンディスクを実行します。スキャンディスクは、ディスクの表面にエラーがないかを調べます。ヘルプ画面の「ここをクリック」をクリックしてください。



- 9 「エラーチェックをするドライブ」でチェックするドライブを選びます。



- 10 「チェック方法」で「完全」を選びます。

- 11 「開始」をクリックします。

アドバイス

エラーが検出されたときは

スキャンディスクの途中で、ハードディスクにエラーが検出された場合は、画面の指示に従ってエラーを修復してください。

- 12 スキャンディスクが終了したら、「結果レポート」ウィンドウの「閉じる」をクリックします。

- 13 「スキャンディスク」ウィンドウの「閉じる」をクリックします。

- 14 「Windows のヘルプ」ウィンドウの右上の **X** (閉じるボタン) をクリックします。

- 15 「フォーマット」ウィンドウの「閉じる」をクリックします。

アドバイス

領域を 2 つ以上に分けたときは

手順 2 ~ 15 (** ▶ P.71) を繰り返し、増設したハードディスクのすべての領域をフォーマットしてください。

- 16 「マイコンピュータ」ウィンドウの右上の **X** (閉じるボタン) をクリックします。

その他のオプション機器を使う

MO(光磁気ディスク)ドライブを使う

MO(エムオー)ドライブとは、レーザーと磁気でMO(光磁気ディスク)にデータを書き込み、レーザーで読み出しを行う記憶装置です。MOは、フロッピーディスクと比べて、大量のデータを保存できます。

必要なものを用意する

MOドライブを使うには、次のものがが必要です。

MOドライブ(SCSI規格)

MOドライブには、パソコン本体に内蔵のものと、外付けのがあります。本パソコンでは外付けのMOドライブがお使いになれます。

SCSIカード、SCSIケーブル、終端抵抗(ターミネータ)

SCSI規格のMOドライブを使うために必要なものです。

終端抵抗(ターミネータ)は、内蔵されている場合もあります。

SCSIカード、SCSIケーブル、終端抵抗(ターミネータ)について詳しくは、「ハードディスクを増設する」の「必要なものを用意する」(●▶P.61)をご覧ください。

MO

128MB、230MB、540MB、640MBの容量のものが市販されています。お使いになる前にフォーマットする必要があります。

お使いになるMOドライブによって、対応している容量が異なります。お使いになるMOドライブが対応している容量のMOをご購入ください。

用語 SCSI(スカジー)

機器の接続に関する規格のひとつです。SCSI規格の機器には、MOドライブのほかに、スキャナやハードディスクなどがあります。

MOドライブを使うには

SCSI規格の外付けのMOドライブを使うには、SCSIカードという拡張カードをパソコン本体内部に取り付けます。取り付けかたについては、「拡張カードを増設する」(●▶P.51)をご覧ください。

SCSIカードを取り付けたあと、SCSIケーブルでSCSIカードとMOドライブをつなぎます。外付けのMOドライブには、終端抵抗(ターミネータ)という器具を取り付けます。接続方法などについては、「ハードディスクを増設する」(●▶P.59)を参考にしてください。また、MOドライブのマニュアルもあわせてご覧ください。

スキャナを使う

スキャナは、イラストや写真などを画像データとして取り込むための装置です。

必要なものを用意する

スキャナを使うには、次のものがが必要です。

スキャナ

スキャナは、コピー機のような形のフラットベッド型が一般的ですが、ほかにハンディスキャナや、フィルムから直接写真を取り込めるフィルムスキャナなどもあります。

パソコン本体背面の平行コネクタ（●▶P.5）に接続するものや、SCSIカードという拡張カードを使うもの（SCSI規格）などがあります。

スキャナにはTWAINという規格があり、フォトタッチソフトのほとんどがこの規格に対応しています。TWAIN対応のスキャナをお使いになることをお勧めします。

アドバイス

SCSI規格のスキャナをお使いになるときは

スキャナの他に、SCSIカード、SCSIケーブル、終端抵抗（ターミネータ）が必要になります。SCSI規格のコネクタは数種類あります。対応するケーブルと終端抵抗も異なりますので、よくご確認ください。SCSIカード、SCSIケーブル、終端抵抗（ターミネータ）について詳しくは、「ハードディスクを増設する」の「必要なものを用意する」（●▶P.61）をご覧ください。

用語 TWAIN（トゥウエイン）

画像データをコンピュータに取り込むための統一規格です。

フォトタッチソフト（画像を加工するソフトウェア）

取り込んだ画像の色を調整したり、画像を合成したり、自分の好きなファイル形式に変換したりするためのソフトウェアです。

本パソコンには、「らくらく写真館」というフォトタッチソフトが添付されています。

また、スキャナに添付されているフォトタッチソフトもあります。さらに多くの機能を使いたいときには市販のソフトウェアをご購入ください。

スキャナを使うには

ご購入されたスキャナによって、接続方法が異なります。詳しくは、スキャナのマニュアルをご覧ください。

■ パソコン本体背面の平行コネクタに接続するもの ■

ケーブルで、スキャナとパソコン本体（平行コネクタ●▶P.5）をつなぎます。本パソコンでは、コネクタをネジで固定する形のケーブルをお使いください。

接続したあと、スキャナのドライバをインストールします。

■ SCSIカードに接続するもの ■

SCSIカードという拡張カードをパソコン本体内部に取り付けます。取り付けかたについては「拡張カードを増設する」（●▶P.51）をご覧ください。

SCSIカードを取り付けたあとに、SCSIケーブルでSCSIカードとスキャナをつなぎます。スキャナには、終端抵抗（ターミネータ）という器具を取り付けます。また、終端抵抗が内蔵されているスキャナもあり、ディップスイッチなどで設定する必要があるものもあります。

接続したあと、スキャナのドライバをインストールします。

ターミナルアダプタを接続する

本パソコンには、ターミナルアダプタ(TA:ティーエー)を接続できます。

ターミナルアダプタは、ISDN回線に接続するために必要な機器です。

ISDN回線に接続する方法について詳しくは、ターミナルアダプタのマニュアルをご覧になるか、NTTにお問い合わせください。

必要なものを用意する

ターミナルアダプタを使うには、次のものがが必要です。

ターミナルアダプタ

ISDN回線に接続するために必要な機器です。パソコン本体背面のシリアルコネクタ(●▶P.5)に接続するものや、USBコネクタ(●▶P.3、5)に接続するものなどがあります。

専用ケーブル

ターミナルアダプタと本パソコンをつなぐケーブルです。通常、ターミナルアダプタに添付されています。添付されていない場合は、お使いになるターミナルアダプタに合ったケーブルをご購入ください。

ターミナルアダプタを接続するには

ご購入されたターミナルアダプタによって、接続方法が異なります。

パソコン本体背面のシリアルコネクタに接続するものは、専用のケーブルでターミナルアダプタとパソコン本体をつなぎます。

USBコネクタに接続するものは、次の「USB機器を接続する」をご覧ください。

ターミナルアダプタをISDN回線に接続するには、DSU(ディーエスユー)という機器が別に必要な場合もあります。また、パソコンでFAXを送受信するには、パソコン本体のモデムとターミナルアダプタをモジュラーケーブルでつなぐ必要があります。詳しくは、ターミナルアダプタのマニュアルをご覧になるか、NTTにお問い合わせください。

USB機器を接続する

本パソコンには、USB機器を接続できます。

必要なものを用意する

USB機器を使うには、次のものがが必要です。

USB機器

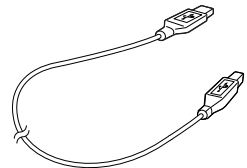
マウス、キーボード、プリンタ、ターミナルアダプタ、スピーカーなどがあります。お使いになる目的に応じてご用意ください。

USBケーブル

USB機器と本パソコンをつなぐケーブルです。USB機器に添付されている場合もあります。


USB機器のドライバ

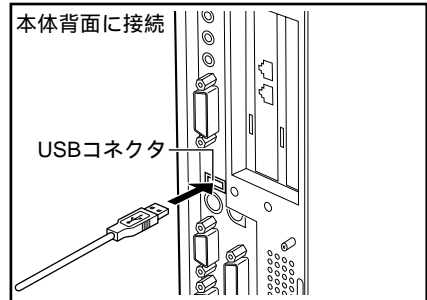
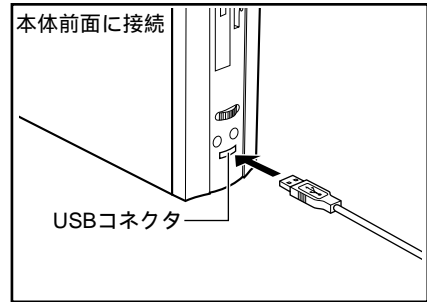
通常はUSB機器に添付されています。



USB 機器を使うには

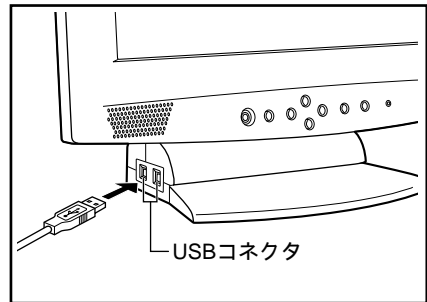
取り付けかたは、次のとおりです。

- 1 パソコン本体前面または背面の USB コネクタに、USB 機器のケーブルを接続します。コネクタの  マークを上にして接続してください。本体前面に接続するときは、カバーを左にスライドさせてから接続してください。お使いにならないときは、カバーを閉じておいてください。



アドバイス

CIX 40L/CIX 40Lc/CIX 35L をお使いの方はディスプレイの USB コネクタに接続することもできます。その場合は、不要電波の放射を軽減するために、添付のコアをディスプレイに接続する側の USB 機器のケーブルに取り付けてください。



- 2 ドライバをインストールします。ドライバをインストールしなくても、接続するだけで使える USB 機器もあります。詳しくは、USB 機器のマニュアルをご覧ください。

マルチモニタ機能を使う

Windows98には、1台のパソコンに複数のグラフィックスカードとディスプレイを接続して、複数台のディスプレイで1つのデスクトップを表示できる「マルチモニタ機能」があります。ここでは、例として、2台のディスプレイでマルチモニタ機能を使うために必要なものを行う作業について説明します。

必要なものを用意する

マルチモニタ機能を使うには、本パソコンのほかに次のものがが必要です。

- マルチモニタ機能に対応している PCI 規格のグラフィックスカード
- 用意したグラフィックスカード用のディスプレイドライバ(マルチモニタ機能対応のもの)
- ディスプレイ

重要

グラフィックスカードを選ぶときの注意

- AGP 規格、ISA 規格のグラフィックスカードは、本パソコンには拡張スロットが無いためお使いになれません。
- Windows98 に対応しているグラフィックスカードであっても、添付されているディスプレイドライバがマルチモニタ機能には対応していない場合があります。マルチモニタ機能に対応しているかを製造元のメーカーにご確認ください。


グラフィックスカードとディスプレイを接続する


グラフィックスカードを取り付けてディスプレイを接続し、ディスプレイドライバをインストールします。

- 1 「拡張カードを取り付ける」(●▶P.55)をご覧ください、グラフィックスカードを本パソコンに取り付けます。
- 2 取り付けたグラフィックスカードに、ディスプレイを接続します。
接続方法については、ディスプレイとグラフィックスカードのマニュアルをご覧ください。
- 3 ディスプレイの電源ケーブルを接続します。
接続方法については、ディスプレイのマニュアルをご覧ください。
- 4 接続したディスプレイと、パソコン本体の電源を入れます。
パソコン本体の電源を入れると、新たに接続したディスプレイのほうに起動画面が表示されます。
- 5 ディスプレイドライバをインストールします。
グラフィックスカードのマニュアルをご覧ください、新たに取り付けたグラフィックスカードのディスプレイドライバをインストールしてください。ドライバをインストールしたあと、本パソコンを再起動してください。


マルチモニタ機能を設定する

ディスプレイドライバをインストールし、本パソコンを再起動したあとに、次の操作を行ってください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2  (画面) をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3 「設定」タブをクリックします。


- 4 「2」と書かれたディスプレイをクリックして選びます。
「このモニタを使用可能にしますか?」というメッセージが表示されます。
- 5 「はい」をクリックします。
- 6 接続したディスプレイの解像度と発色数を設定します。
解像度と発色数の設定のしかたについて詳しくは、『困ったときのQ&A』の「画面の解像度や発色数を変えたい」をご覧ください。
「互換性の警告」ウィンドウが表示された場合は、「新しい色の設定で再起動する」を選び、「OK」をクリックしてください。
「システム設定の変更」ウィンドウが表示された場合は、「はい」をクリックしてください。

アドバイス

ご購入時に搭載されているグラフィックスシステムをプライマリアダプタにするには上記の作業を行ったあと、BIOSセットアップの設定値を変更すると、ご購入時に搭載されているグラフィックスシステムのほうをプライマリアダプタに設定でき、『取扱説明書』に記載されているとおりに接続したディスプレイをプライマリディスプレイにすることができます。
ご購入時に搭載されているグラフィックスシステムをプライマリアダプタにするには、BIOSセットアップのVideoメニューのPrimary Display Adapter (**▶P.104)を「Onboard」に変更してください。BIOSセットアップについて詳しくは、「第3章 BIOS セットアップ」(**▶P.81)をご覧ください。

コラム

プライマリモニタとセカンダリモニタ

本パソコンでは、増設したグラフィックスカードがプライマリアダプタになり、増設したグラフィックスカードに接続したディスプレイがプライマリモニタになります。
一方、本パソコンのご購入時に搭載されているグラフィックスシステムはセカンダリアダプタとなり、『取扱説明書』に記載されているとおりに接続したディスプレイがセカンダリモニタになります。
パソコン本体の電源を入れると、起動画面はプライマリモニタに表示されます。
プライマリアダプタは「画面のプロパティ」の「設定」タブで「1」と表示され、セカンダリアダプタは「2」と表示されます。

3

BIOS セットアップ

BIOSセットアップの設定方法や、パスワードの設定方法などについて説明しています。

BIOSセットアップは、本パソコンのハードウェアとしての状態を設定するためのソフトウェアです。

日常적으로お使いになる範囲では、BIOSセットアップを操作する必要はありません。また、正しく設定しないと本パソコンが正常に動作しなくなることもあります。

設定が必要な場合のみ、お読みください。

また、BIOSセットアップの画面、項目名、仕様は、改善のため予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

1 . BIOS セットアップとは	82
2 . BIOS セットアップの操作のしかた	83
3 . ご購入時の設定に戻す	88
4 . BIOS セットアップメニューの詳細	90
5 . パスワードを使う	113
6 . BIOS が表示するメッセージ一覧	122

1

BIOS セットアップとは

BIOS（バイオス）セットアップはメモリやハードディスク、フロッピーディスクドライブなどのハードウェアの環境を設定するためのソフトウェアです。

本パソコンでは、あらかじめ最適な状態に設定されています。次のような場合にのみ設定を行ってください。

- 特定の人だけが本パソコンを利用できるように、本パソコンにパスワード（暗証番号）を設定するとき
- メモリやシリアルポートなどの働きを設定するとき
- 省電力機能（電源を入れた状態で一定時間使わなかったときに、消費する電力を減らして待機している状態）を変更するとき
- 電源を入れたとき、または再起動したときに、BIOS セットアップに関するメッセージが表示されたとき
- 他の OS をお使いになるとき

アドバイス

バッテリーの交換について

BIOS セットアップで設定した内容は、パソコン本体内部の CMOS RAM（シーモス ラム）と呼ばれるメモリに記録されます。この CMOS RAM は、記録した内容をバッテリーによって保存しています。BIOS セットアップを正しく行っても、電源を入れたとき、または再起動したときに、BIOS セットアップに関するメッセージが表示される場合は、この CMOS RAM に設定内容が保存されていないおそれがあります。バッテリーが消耗していることが考えられますので、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。

パーソナルエコーセンターのご利用については、「パソコン FM シリーズ サポート&サービス 富士通パソコン ポート ご案内」をご覧ください。

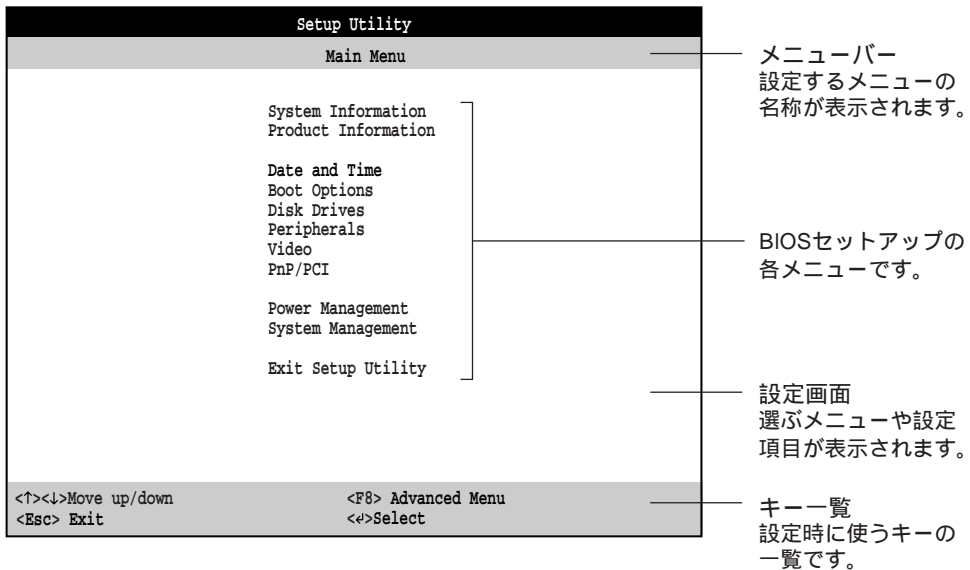
2

BIOS セットアップの操作のしかた

ここでは、BIOS セットアップの始めかた、終わりかた、設定の変更のしかたについて説明します。

BIOS セットアップを起動する

- 1 それまで本パソコンで行っていた作業を終了します。
必要に応じてデータを保存し、アプリケーションを終了してください。
- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。
- 3 「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。
本パソコンが再起動します。
- 4 画面左下に「Enter Setup, Press F2 key」と表示されている間に、**[F2]**を押します。
BIOS セットアップの Main Menu 画面が表示されます。



アドバイス

BIOS セットアップを始められなかったら

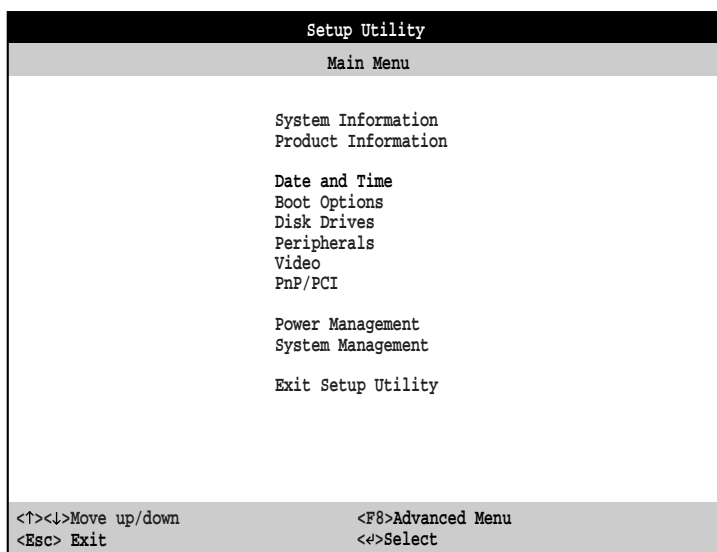
Windows98 が起動してしまうと、BIOS セットアップを始められません。

Windows98 が起動してしまったときは、Windows98 が完全に起動するのを待ってから、再度手順 2 ~ 4 の操作を行なってください。

3

設定を変更する

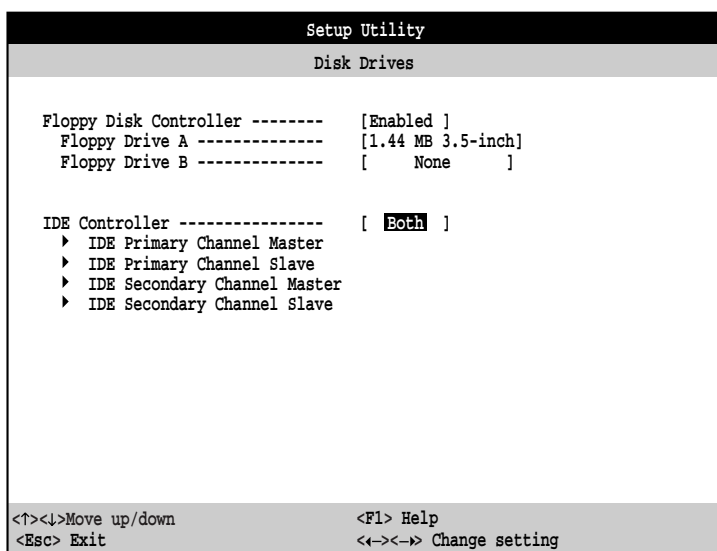
- 1 を押して、設定を変更したいメニューにカーソルを合わせます。



- 2 設定を変更したいメニューが黄色で表示されていることを確認し、**[Enter]**を押します。
Advanced Menu (**▶P.90)を表示するときは、**[F8]**を押してから **[Enter]**を押します。

- 3 を押して、設定を変更したい項目にカーソルを合わせます。

- ▶ の付いている項目はサブメニューがあることを表します。
- ▶ の付いている項目にカーソルを合わせて **[Enter]**を押すと、サブメニューが表示されます。



(画面は一例です)

4 を押して、設定を変更します。

さらに他のメニューの設定を変更したいときは、**[Esc]** を押して Main Menu 画面に戻り、手順 1 から繰り返します。

サブメニューを表示していた場合は、**[Esc]** を押すと 1 つ前の画面に戻ります。

アドバイス

数値を入力する項目もあります

項目の中には、数値を入力するものもあります。詳しくは「BIOS セットアップメニューの詳細」(●▶ P.90) をご覧ください。

BIOS セットアップを終了するときは、次ページの「BIOS セットアップを終了する」をご覧ください。

設定時に使う各キーの役割

- **[Esc]** : 前画面に戻ります。各メニューが表示されているときは、Main Menu 画面に戻ります。サブメニューやヘルプが表示されているときは、各メニューに戻ります。
Main Menu 画面が表示されているときは、BIOS セットアップを終了するメッセージが表示されます。
- **[Enter]** : ▶ が付いている項目のサブメニューを表示します。または、設定を選択します。
- : 設定するメニューや項目にカーソルを移動します。
- : 設定を変更します。
- **[F1]** : カーソルを合わせている項目のヘルプを表示します。ヘルプを閉じるには **[Esc]** を押します。
なお、ヘルプが表示されない項目もあります。
- **[F8]** : Main Menu 画面で押すと、Advanced Menu (詳細設定項目) が表示されます。Advanced Menu の表示を消すには、Main Menu 画面で再び **[F8]** を押します。

変更内容を取り消す

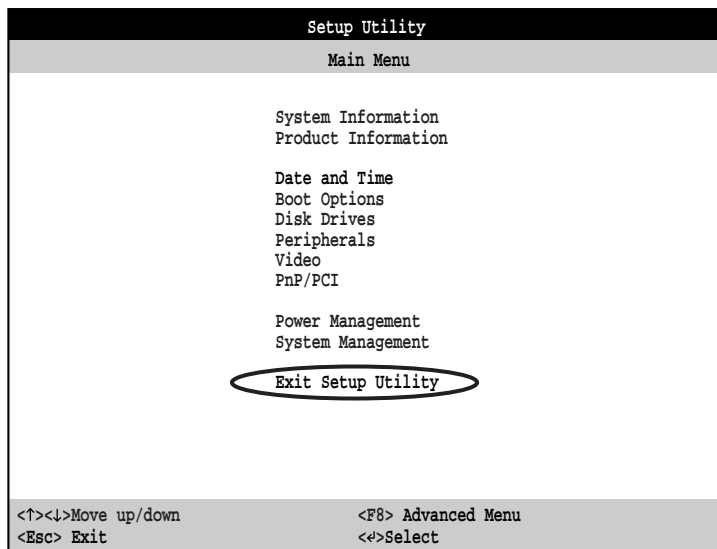
前回保存したときの設定に戻すことができます。ただし、変更した設定をいったん保存した場合は、保存した設定に戻ります。

- 1 Main Menu 画面から Exit Setup Utility を選び、**[Enter]** を押します。
- 2 「Abort Settings Change」を選び、**[Enter]** を押します。
「Do you want to load previous settings?」というメッセージが表示されます。
- 3 「Yes」を選び、**[Enter]** を押します。
設定が前回保存したときの値に戻ります。

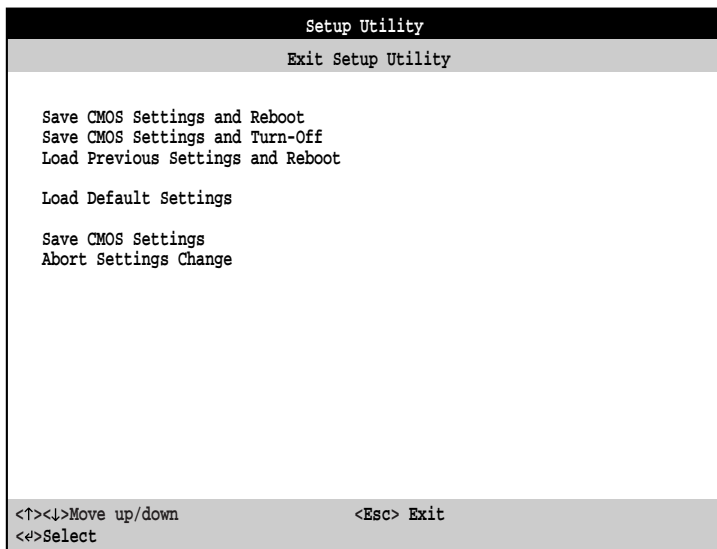
保存した設定をご購入時の状態に戻すには、「ご購入時の設定に戻す」(●▶ P.88) をご覧ください。

BIOS セットアップを終了する

- 1 各メニューの設定を終了し、**[Esc]**を押して Main Menu 画面を表示します。
- 2 **[F8]**を押して、Exit Setup Utility にカーソルを合わせます。



- 3 **[Enter]**を押します。



4



設定を保存して BIOS セットアップを終了し、Windows98 を起動する場合

を押して、「Save CMOS Settings and Reboot」にカーソルを合わせ、**[Enter]** を押します。次のメッセージが表示されます。

Do you want to save CMOS settings and reboot?	
[Yes]	[No]



設定を保存して BIOS セットアップを終了し、本パソコンの電源を切る場合

を押して、「Save CMOS Settings and Turn-Off」にカーソルを合わせ、**[Enter]** を押します。次のメッセージが表示されます。

Do you want to save CMOS settings and Turn-Off?	
[Yes]	[No]



設定を保存しないで BIOS セットアップを終了し、Windows98 を起動する場合

を押して、「Load Previous Settings and Reboot」にカーソルを合わせ、**[Enter]** を押します。次のメッセージが表示されます。

Do you want to load previous settings and reboot?	
[Yes]	[No]

5

を押して、「Yes」にカーソルを合わせ (白字で表示されている状態) **[Enter]** を押します。

BIOS セットアップが終了します。

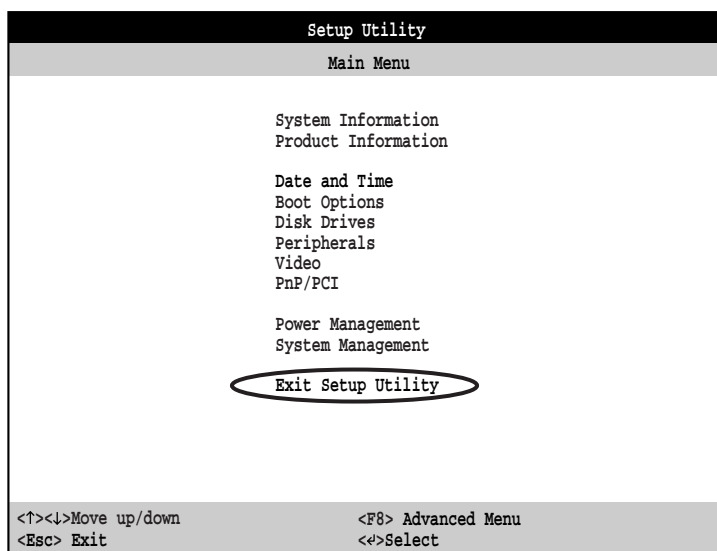
Exit Setup Utility メニューについて詳しくは、「Exit Setup Utility」(**▶P.111) をご覧ください。

3

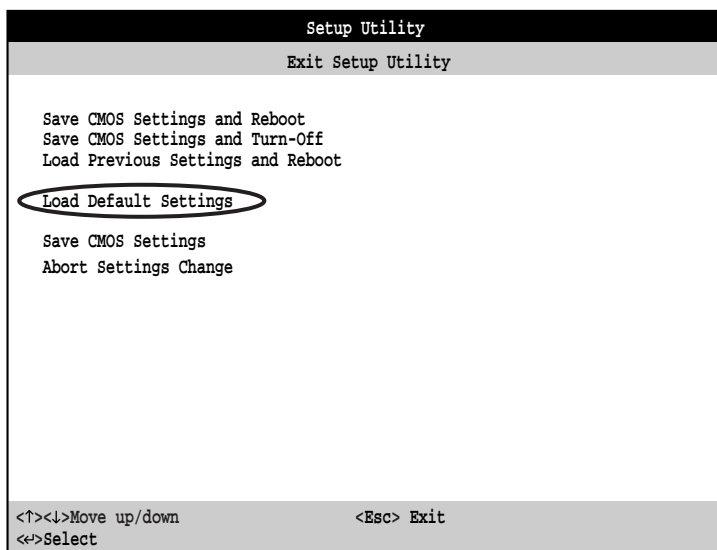
ご購入時の設定に戻す

BIOS セットアップの設定をご購入時の状態に戻す方法は次のとおりです。

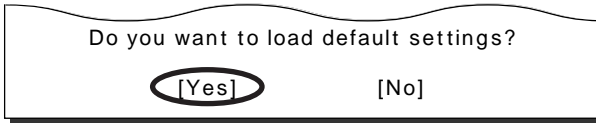
- 1 Main Menu画面が表示されていないときは、**[Esc]**を押してMain Menu画面を表示します。BIOSセットアップを起動していない場合は、「BIOSセットアップを起動する」(**▶P.83)をご覧ください。BIOSセットアップを起動してください。
- 2 **[F8]**を押して、Exit Setup Utilityにカーソルを合わせ、**[Enter]**を押します。



- 3 **[F9]**を押して「Load Default Settings」にカーソルを合わせ、**[Enter]**を押します。

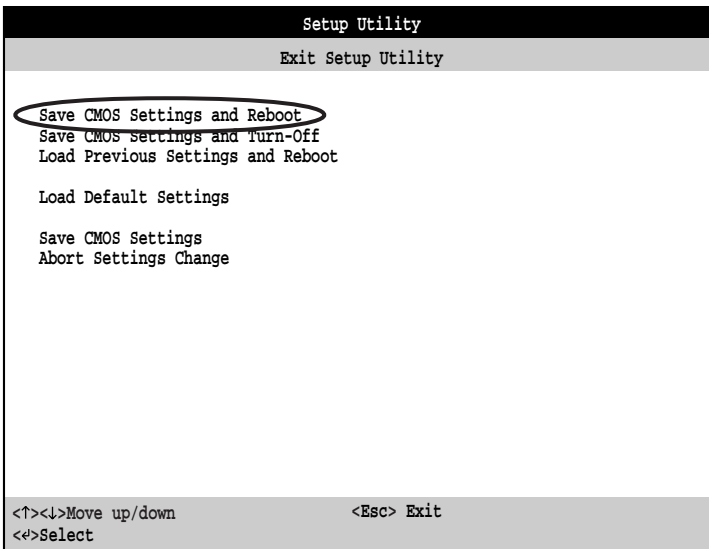


- 4 を押して「Yes」にカーソルを合わせ (白字で表示されている状態)、**[Enter]** を押します。



設定がご購入時の状態に戻ります。

- 5 を押して「Save CMOS Settings and Reboot」にカーソルを合わせ、**[Enter]** を押します。



- 6 を押して「Yes」にカーソルを合わせ (白字で表示されている状態)、**[Enter]** を押します。



BIOS セットアップが終了し、Windows98 が起動します。

4

BIOS セットアップメニューの詳細

ここでは、BIOS セットアップの各メニューの詳細を説明します。
各メニューの表示のしかた、設定の変更のしかたについて詳しくは、「BIOS セットアップの操作のしかた」(●▶P.83) をご覧ください。

Setup Utility	
Main Menu	
System Information _____	●▶ P.91
Product Information _____	●▶ P.92
Date and Time _____	●▶ P.93
Boot Options _____	●▶ P.94
Disk Drives _____	●▶ P.96
Peripherals _____	●▶ P.101
Video _____	●▶ P.104
PnP/PCI _____	●▶ P.105
Power Management _____	●▶ P.107
System Management _____	●▶ P.110
Exit Setup Utility _____	●▶ P.111

<↑><↓>Move up/down <F8>Advanced Menu
<Esc> Exit <↵>Select

アドバイス

Advanced Menu について

本章の各メニューの詳細の中で、[] のついている項目は Advanced Menu です。通常は表示されません。Advanced Menu を表示するには、Main Menu 画面で [F8] を押してから、各メニューを表示してください。実際の画面は、[] つきでは表示されません。

通常は Advanced Menu の設定を変更する必要はありません。

System Information

本パソコンのハードウェア構成を表示します。設定は変更できません。

Setup Utility		
System Information		
Processor -----	Pentium(R)	processor
Processor Speed -----	400 MHz	
L1 Cache Size -----	32 KB	
L2 Cache Size -----	512 KB	
Floppy Drive A -----	1.44MB	3.5-inch
Floppy Drive B -----	None	
IDE Primary Channel Master ----	Hard Disk,	6149MB
IDE Primary Channel Slave ----	None	
IDE Secondary Channel Master --	CD-ROM/MO	
IDE Secondary Channel Slave ---	None	
Total Memory -----	64MB	
DIMM 1 -----	SDRAM,	64MB
DIMM 2 -----	None	

<Esc> Back to Main Menu

(画面はCIX40Lです)

アドバイス

表示される値は異なる場合があります

お使いの機種、または取り付けられているオプション機器によって、表示される数値や設定は異なります。

設定項目の詳細

Processor

本パソコンに取り付けられているCPUのタイプを表示します。

Processor Speed

本パソコンに取り付けられているCPUの動作周波数を表示します。

L1 Cache Size

1次キャッシュメモリの容量を表示します。

L2 Cache Size

2次キャッシュメモリの容量を表示します。

Floppy Drive A

取り付けられているフロッピーディスクドライブのタイプを表示します。

本パソコンではあらかじめフロッピーディスクドライブが1台取り付けられていますので、そのフロッピーディスクのタイプが表示されます。

Floppy Drive B

本パソコンではNoneと表示されます。

IDE Primary Channel Master

1台目のIDE規格の内蔵ドライブのタイプを表示します。本パソコンではあらかじめIDE規格の内蔵ハードディスクが1台取り付けられていますので、そのハードディスクのタイプが表示されます。

IDE Primary Channel Slave

本パソコンでは None と表示されます。

IDE Secondary Channel Master

セカンダリ IDE のマスターに取り付けられている内蔵ドライブのタイプを表示します。
本パソコンでは、CD-ROM ドライブが取り付けられています。

IDE Secondary Channel Slave

本パソコンでは None と表示されます。

Total Memory

本パソコンの全メモリ容量を表示します。

DIMM 1

本パソコンにあらかじめ取り付けられているメモリのタイプと容量を表示します。

DIMM 2

メモリスロット 2 にメモリを増設した場合に、メモリのタイプと容量を表示します。

Product Information

BIOS やマザーボードに関する情報を表示します。設定は変更できません。

Setup Utility	
Product Information	
System BIOS Vendor -----	ACER
System BIOS Version -----	V3.2
System BIOS ID -----	R01-xxFx EN
Product Name -----	FMV-DESKPOWER CIX40x, CVIII35x/33x
System S/N -----	N/A
Mother Board ID -----	V66NA
Mother Board S/N -----	N/A

<Esc> Back to Main Menu

(画面は機種によって異なります)

設定項目の詳細

System BIOS Vendor

本パソコンの BIOS のメーカーが表示されます。

System BIOS Version

本パソコンの BIOS のバージョンが表示されます。

System BIOS ID

本パソコンの BIOS の ID が表示されます。

Product Name

本 BIOS がサポートしている機種名が表示されます。

System S/N

本パソコンでは N/A と表示されます。

Mother Board ID

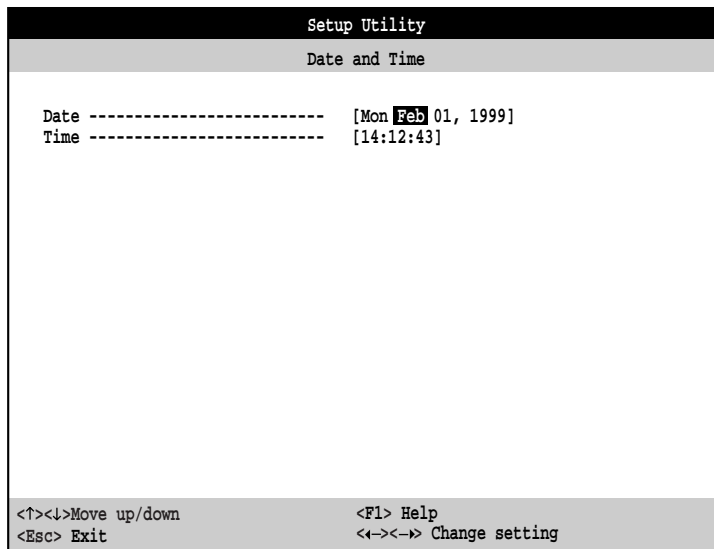
本パソコンでは V66NA (C~~X~~40L/C~~X~~40Lc/C~~X~~407c) または V70NA (C~~X~~35L/C~~X~~357/C~~X~~355) と表示されます。

Mother Board S/N

本パソコンでは N/A と表示されます。

Date and Time

日時の設定を行います。



設定項目の詳細

Date

月 / 日 / 年を設定します。年は西暦で 2 桁ずつ入力します。
曜日は設定できません。

Time

時:分:秒を設定します。時間は 24 時間形式で入力します。

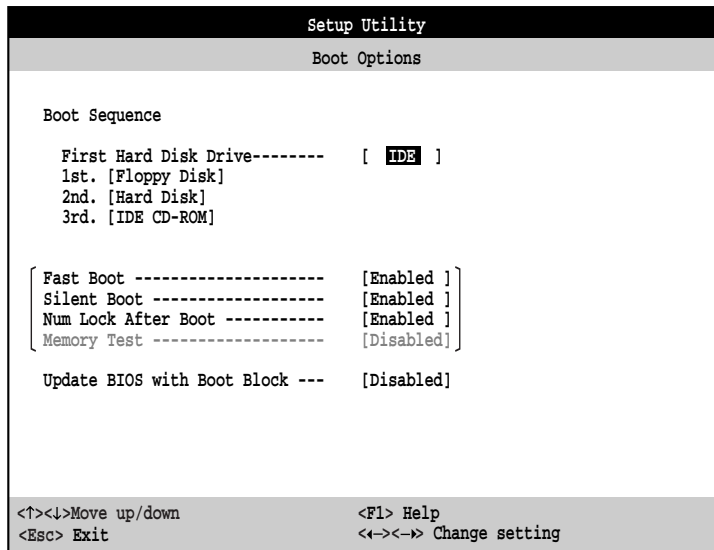
アドバイス

日時の設定は一度だけ

Date と Time は一度合わせれば、電源を入れるたびに設定する必要はありません。

Boot Options

本パソコンの起動に関する項目を設定します。



上記の画面内で [] のついている項目は、通常は表示されません。Main Menu 画面 (●▶P.90) で **[F8]** を押してからメニューを表示してください。

設定項目の詳細

Boot Sequence

(初期値 : 1st. Floppy Disk、2nd. Hard Disk、3rd. IDE CD-ROM)

OS を読み込むドライブの順番を設定します。1st. に設定されているドライブで OS が見つからない場合は、2nd. に設定されているドライブから、2nd. に設定されているドライブでも OS が見つからない場合は 3rd. に設定されているドライブから読み込みます。

キーで優先順位を変更できます。通常は初期値のままでお使いください。

First Hard Disk Drive (初期値 : IDE)

最初に OS を読み込むハードディスクを設定します。

- IDE

本パソコンにあらかじめ取り付けられている IDE 規格のハードディスクから読み込みます。

- SCSI

本パソコンに接続した SCSI 規格のハードディスクから読み込みます。

[Fast Boot] (初期値 : Enabled)

電源を入れてから、または再起動してから OS を読み込むまでの時間を設定します。

- Enabled

OS を読み込むまでの時間を短くします。

ただし、BIOS セットアップを終了したあとの最初の起動時には、Fast Boot は行われません。

- Disabled

OS を読み込むまでの時間を短くしません。

- Auto

Windows98 などの ACPI 対応の OS が、OS を読み込むまでの時間を制御します。

[Silent Boot] (初期値 : Enabled)

本パソコンの起動および再起動時の、「FUJITSU」のロゴ表示について設定します。

- Enabled
本パソコンの起動および再起動時に「FUJITSU」のロゴを画面に表示します。
- Disabled
「FUJITSU」のロゴを画面に表示せずに、起動時のテストの結果を表示します。

[Num Lock After Boot] (初期値 : Enabled)

本パソコンの起動および再起動時の、キーボードのテンキーの状態を設定します。

キーボードを NumLock 状態にするとテンキーから数値入力ができます。また、NumLock 状態にしない場合、テンキー表面の下の段に書かれた機能が使えます。

- Enabled
NumLock 状態にします。
- Disabled
NumLock 状態にしません。

[Memory Test] (初期値 : Disabled)

本パソコンの起動および再起動時の、メモリのテストについて設定します。この項目は、Fast Boot を Disabled に設定すると、設定を変更できます。

- Enabled
メモリのテストを行います。
- Disabled
メモリのテストを行いません。

アドバイス

メモリのテストを中断するには

画面に「Bypass memory testing, press Esc key」と表示されている間に、**[Esc]**を押すと、メモリのテストを中断できます (CIX40L/CIX40Lc/CIX35Lを除く)。

Update BIOS with Boot Block (初期値 : Disabled)

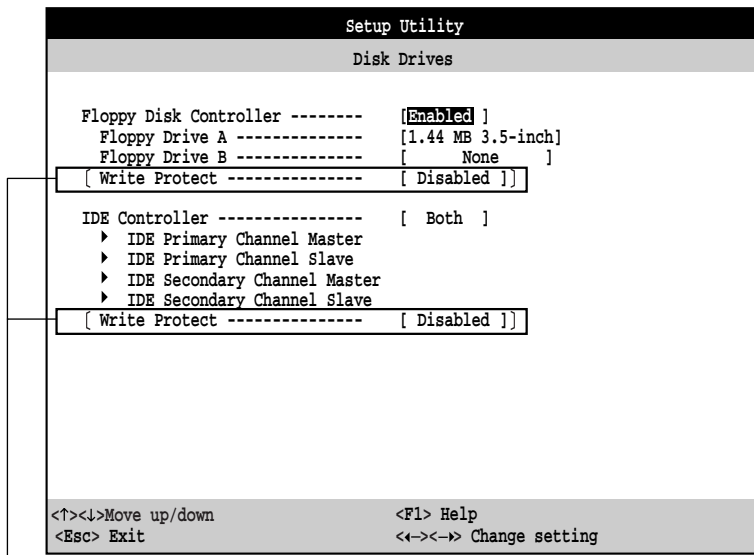
この機能は、将来の BIOS 機能拡張のために用意されています。

弊社よりお知らせがない限り、Disabled のままお使いください。

- Enabled
電源を入れたときに BIOS の書き換えモードになります。
- Disabled
BIOS の書き換えモードになりません。

Disk Drives

フロッピーディスク、ハードディスクなどの設定を行います。



Windows98では設定が無効となります。

重要

Windows 98 では設定が無効になる項目があります

Disk Drives メニューの設定項目のうち、上の画面で示している項目を設定しても、Windows98 では設定が無効となります。

上記の画面内で [] のついている項目は、通常は表示されません。Main Menu 画面 (●▶P.90) で [F8] を押してからメニューを表示してください。

設定項目の詳細

Floppy Disk Controller (初期値 : Enabled)

本パソコンにあらかじめ取り付けられているフロッピーディスクドライブが、正常に動作するように設定されています。通常は Enabled のままでお使いください。

- Enabled
フロッピーディスクドライブを使えるようにします。
- Disabled
フロッピーディスクドライブを使えないようにします。

Floppy Drive A (初期値 : 1.44MB 3.5-inch)

フロッピーディスクドライブのタイプ (サイズと記録密度) を設定します。

- 360KB5.25-inch/1.2MB5.25-inch /720KB3.5-inch/1.44MB3.5-inch
本パソコンにあらかじめ取り付けられているフロッピーディスクドライブは1.44MB3.5-inch でのみ動作します。設定は変更しないでください。
- None
あらかじめ取り付けられているフロッピーディスクドライブを取り外したときに選んでください。

Floppy Drive B (初期値 : None)

この項目は、本パソコンでは None のままでお使いください。

[Write Protect] (初期値 : Disabled)

フロッピーディスクへの書き込みの禁止について設定します。通常は Disabled のままでお使いください。

- Disabled
通常どおり書き込みや読み込みができます。
- All Sectors
すべてのセクタへの書き込みを禁止します。
- Boot Sector
ブートセクタへの書き込みを禁止します。

IDE Controller (初期値 : Both)

本パソコンにあらかじめ取り付けられているハードディスクや CD-ROM が、正常に動作するように設定されています。Both のままでお使いください。

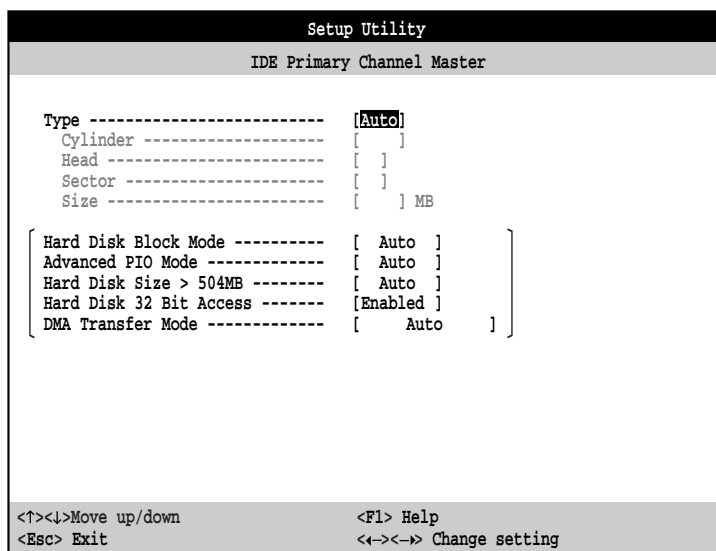
- Both
プライマリ、セカンダリ共に使えるようにします。
- Primary
プライマリのみ使えるようにします。
- Disabled
プライマリ、セカンダリ共に使えないようにします。

IDE Primary Channel Master/IDE Primary Channel Slave

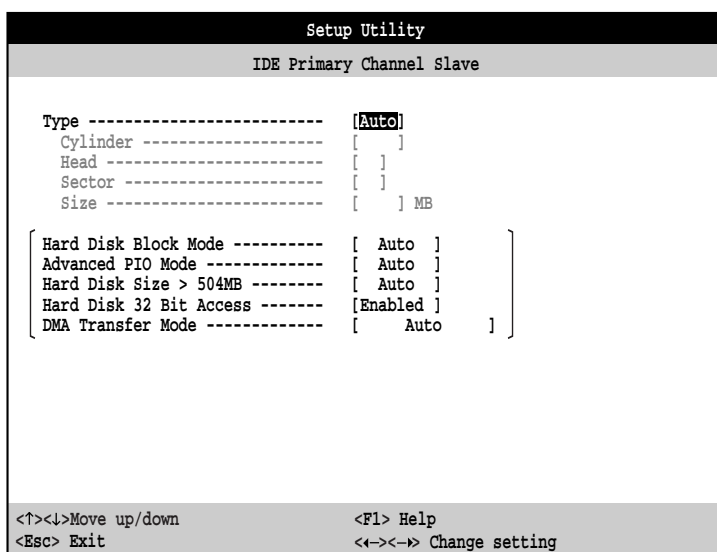
プライマリ IDE のマスターおよびスレーブに取り付けられている内蔵ドライブのタイプや、データの転送方法などを設定します。

IDE Primary Channel Master、または IDE Primary Channel Slave にカーソルを合わせて **[Enter]** を押すと、サブメニューが表示されます。

本パソコンでは、IDE Primary Channel Slave はお使いになれません。



上記の画面内で [] のついている項目は、通常は表示されません。Main Menu 画面 (●▶ P.90) で **[F8]** を押してからメニューを表示してください。



上記の画面内で [] のついている項目は、通常は表示されません。Main Menu 画面 (**▶ P.90) で **[F8]** を押してからメニューを表示してください。

Type (初期値 : Auto)

IDE ドライブの認識方法を設定します。通常は Auto のままでお使いください。

- Auto
本パソコンが IDE 内蔵ドライブのタイプを自動的に設定します。
- None
IDE 内蔵ドライブを取り外した場合に選んでください。
- User
Cylinder、Head、Sector の各設定値をキーボードから入力できます。
 キーを押して、入力する項目にカーソルを移し、希望する数値を入力します。
設定値は正しく入力してください。正しく設定しないと、本パソコンが動作しなくなる場合があります。
必要な項目を入力し終えたら、**[Esc]** を押して設定を終了します。

[Hard Disk Block Mode] (初期値 : Auto)

ブロック転送について設定します。通常は Auto のままでお使いください。

- Auto
ブロック転送を行います。
- Disabled
ブロック転送を行いません。

用語 ブロック転送

データを複数セクタ分まとめて転送する方法です。ブロック転送を行うとデータの転送速度が上がります。

[Advanced PIO Mode] (初期値 : Auto)

IDE ドライブの PIO モードを設定します。通常は Auto のままでお使いください。

- Auto
最も高速な PIO モードに自動設定します。
- Mode0/Mode1/Mode2/Mode3/Mode4
データの転送モードを選びます。数値が大きくなるほど転送速度が上がります。

[Hard Disk Size>504MB] (初期値 : Auto)

本パソコンに528MB未満のハードディスクを取り付けたときに設定します。通常はAutoのままでお使いください。

- Auto
528MB 以上のハードディスクを取り付けたときに選びます。
- Disabled
528MB 未満のハードディスクを取り付けたときに選びます。

コラム

「 Hard Disk Size>504MB 」の「 504MB 」とは

1K (キロ) は 10 進法では、1,000 を表しています。しかし、コンピュータはデータを 2 進法で扱うため、1K (キロ) という表示によって 1,024 (2^{10}) を表すことがあります。後者の場合、1M (メガ) は 1K (キロ) \times 1K (キロ) なので、1,024 \times 1,024 を表しています。「 Hard Disk Size > 504MB 」の「 504MB 」は、この「 1,024 \times 1,024 」で計算されているため、10 進法で計算すると約 528MB ということとなります。

[Hard Disk 32 Bit Access] (初期値 : Enabled)

ハードディスクコントローラとのデータ転送時の 32 ビットアクセスについて設定します。通常は Enabled のままでお使いください。

- Enabled
ハードディスクコントローラに 32 ビットでアクセスします。
- Disabled
ハードディスクコントローラに 32 ビットでアクセスしません。

[DMA Transfer Mode] (初期値 : Auto)

ハードディスクの DMA 転送の種類を設定します。通常は Auto のままでお使いください。

- Auto
ハードディスクに対応した DMA 転送の種類を自動的に設定します。
- Multiword Mode0/Multiword Mode1/Multiword Mode2
マルチワードで転送します。数値が大きくなるほど転送速度が上がります。
- Ultra Mode0/Ultra Mode1/Ultra Mode2
Ultra DMA/33 で転送します。数値が大きくなるほど転送速度が上がります。
- Disabled
DMA 転送を行いません。

IDE Secondary Channel Master/IDE Secondary Channel Slave

セカンダリIDEのマスターおよびスレーブに取り付けられている内蔵ドライブのタイプを設定します。

IDE Secondary Channel Master、またはIDE Secondary Channel Slaveにカーソルを合わせて、**[Enter]**を押すと、次のサブメニューが表示されます。

本パソコンでは、IDE Secondary Channel Slave はお使いになれません。

```
Setup Utility
-----
IDE Secondary Channel Master

Type ----- [Auto]
Cylinder ----- [  ]
Head ----- [  ]
Sector ----- [  ]
Size ----- [  ] MB

[ Hard Disk Block Mode ----- [ Auto ]
  Advanced PIO Mode ----- [ Auto ]
  Hard Disk Size > 504MB ----- [ Auto ]
  Hard Disk 32 Bit Access ----- [Enabled]
  DMA Transfer Mode ----- [ Auto ] ]

<↑><↓> Move up/down      <F1> Help
<Esc> Exit                  <←><→> Change setting
```

```
Setup Utility
-----
IDE Secondary Channel Slave

Type ----- [Auto]
Cylinder ----- [  ]
Head ----- [  ]
Sector ----- [  ]
Size ----- [  ] MB

[ Hard Disk Block Mode ----- [ Auto ]
  Advanced PIO Mode ----- [ Auto ]
  Hard Disk Size > 504MB ----- [ Auto ]
  Hard Disk 32 Bit Access ----- [Enabled]
  DMA Transfer Mode ----- [ Auto ] ]

<↑><↓> Move up/down      <F1> Help
<Esc> Exit                  <←><→> Change setting
```

上記の画面内で [] のついている項目は、通常は表示されません。Main Menu画面(●▶P.90)で**[F8]**を押してからメニューを表示してください。

設定項目、設定値、設定方法はIDE Primary Channel Master/IDE Primary Channel Slave(●▶P.97)と同じです。

[Write Protect] (初期値 : Disabled)

ハードディスクへの書き込みの禁止について設定します。通常はDisabledのままお使いください。

- Disabled
通常どおり書き込みや読み込みができます。
- All Sectors
すべてのセクタへの書き込みを禁止します。
- Boot Sector
ブートセクタへの書き込みを禁止します。

Peripherals

本パソコンのシリアルポートやパラレルポートなどに関する設定を行います。

Setup Utility	
Peripherals	
Serial Port -----	[Enabled]
Base Address -----	[3F8h]
IRQ -----	[4]
Parallel Port -----	[Enabled]
Base Address -----	[378h]
IRQ -----	[7]
Operation Mode -----	[Bi-directional]
ECP DMA Channel -----	[-]
[PS/2 Mouse Controller -----	[Enabled]
Audio Controller -----	[Enabled]
[USB Legacy Mode -----	[Enabled]
<↑><↓> Move up/down <F1> Help <Esc> Exit <←><→> Change setting	

上記の画面内で [] のついている項目は、通常は表示されません。Main Menu 画面 (●▶ P.90) で **[F8]** を押してからメニューを表示してください。

設定項目の詳細

Serial Port (初期値 : Enabled)

本体背面のシリアルポート (シリアルコネクタ (COM1)) について設定します。

- Enabled
シリアルポートを使えるようにします。
- Disabled
シリアルポートを使えないようにします。

アドバイス

ISDN カードなどシリアルポートを備えた拡張カードを取り付けるときは
拡張カードのシリアルポートのアドレス番号が、あらかじめ設定されているシリアルポートのアドレス番号と重複しないようにしてください。重複している場合には、起動時に、「Onboard Serial Port Conflict」と表示されます。その場合には、Disabled に設定してください。

Base Address (初期値: 3F8h)

シリアルポートのアドレス番号を設定します。

- 3F8h/3E8h/2F8h/2E8h
アドレス番号をそれぞれの番号に設定します。

IRQ (初期値: 4)

シリアルポートの IRQ (割り込み要求) を設定します。

- 4/11
シリアルポートの IRQ を 4 または 11 に設定します。

Parallel Port (初期値: Enabled)

本体背面の平行ポート (平行コネクタ) について設定します。

- Enabled
平行ポートを使えるようにします。
- Disabled
平行ポートを使えないようにします。

アドバイス

平行ポートを備えた拡張カードを取り付けるときは

拡張カードの平行ポートのアドレス番号が、あらかじめ設定されている平行ポートのアドレス番号と重複しないようにしてください。重複している場合には、起動時に「Onboard Parallel Port Conflict」と表示されます。その場合には、Disabled に設定してください。

Base Address (初期値: 378h)

平行ポートのアドレス番号を設定します。

- 378h/278h/3BCh
アドレス番号をそれぞれの番号に設定します。

アドバイス

3BCh に設定したときは

Operation Mode を EPP モードに設定して使うことはできません。

IRQ (初期値: 7)

平行ポートの IRQ (割り込み要求) を設定します。

- 7/5
平行ポートの IRQ を 7 または 5 に設定します。

Operation Mode (初期値: Bi-directional)

平行ポートに接続する周辺装置の種類を設定します。

- Standard
出力専用モードを使う周辺装置を接続するときに選びます。
- Bi-directional
双方向モードを使う周辺装置を接続するときに選びます。
- EPP
EPP 規格の周辺装置を接続するときに選びます。
- ECP
ECP 規格の周辺装置を接続するときに選びます。

アドバイス

Operation Mode を EPP に設定したときは

Parallel Port の Base Address を 3BCh に設定することはできません。

ECP DMA Channel (初期値 : -)

Operation Modeで、ECPを選んだときのみ設定できます。ECP規格の機器を接続するときに、どのDMAチャンネルを使うかを設定します。

- -
DMAチャンネルをしません。
- 1/3
DMAチャンネル1または3を使います。

[PS/2 Mouse Controller] (初期値 : Enabled)

本パソコンのマウスコネクタに接続したマウスを使えるように設定します。通常はEnabledのままでお使いください。

- Enabled
マウスを使えるようにします。
- Disabled
マウスを使えないようにします。

[Audio Controller] (初期値 : Enabled)

本パソコンに内蔵されているサウンド機能を使えるように設定します。通常はEnabledのままでお使いください。

- Enabled
本パソコンに内蔵されているサウンド機能を使えるようにします。
- Disabled
本パソコンに内蔵されているサウンド機能を使えないようにします。

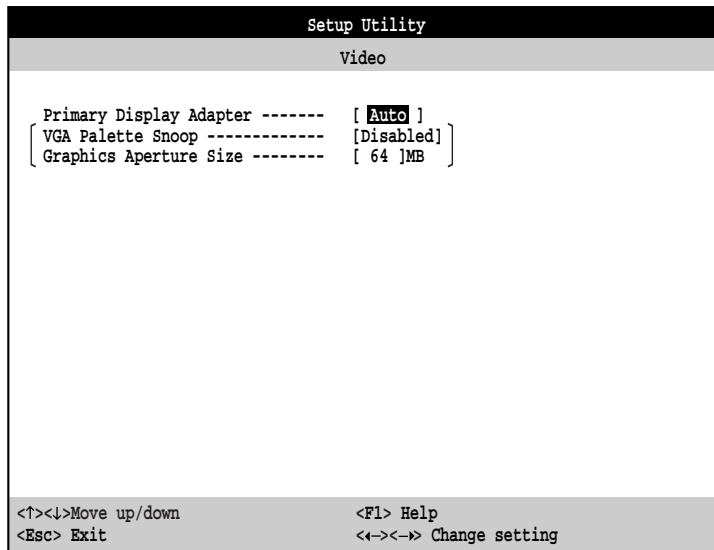
[USB Legacy Mode] (初期値 : Enabled)

Windows98のSafeモードなどのUSBをサポートしていない環境で、USBキーボードを使えるように設定します。C₄₀L/C₄₀Lc/C₃₅LでUSBキーボードを使用しているため、通常はEnabledのままでお使いください。ただし、Enabledの設定では本パソコンの性能を十分に発揮できない場合がありますが、ご了承ください。

- Enabled
USBをサポートしていない環境で、USBキーボードを使えるようにします。
- Disabled
USBをサポートしていない環境で、USBキーボードを使えないようにします。

Video

本パソコンの画面表示に関する設定を行います。



上記の画面内で [] のついている項目は、通常は表示されません。Main Menu 画面 (●▶P.90) で **[F8]** を押してからメニューを表示してください。

設定項目の詳細

Primary Display Adapter (初期値 : Auto)

PCI 規格のグラフィックカードを増設した場合、画面表示にグラフィックカードを使うか、マザーボード上のグラフィックアダプタを使うかを設定します。

- Onboard
マザーボード上のグラフィックアダプタを使います。
- Auto
グラフィックカードを増設すると、グラフィックカード上のグラフィックアダプタが有効になります。

[VGA Palette Snoop] (初期値 : Disabled)

パソコン本体のビデオコントローラのパレット情報を、ディスプレイカードなどのビデオコントローラからも参照できるように設定します。

本パソコンに標準搭載のビデオコントローラでは動作しません。増設したPCI拡張カードに対してのみ有効です。

- Enabled
パレット情報を参照します。
- Disabled
パレット情報を参照しません。

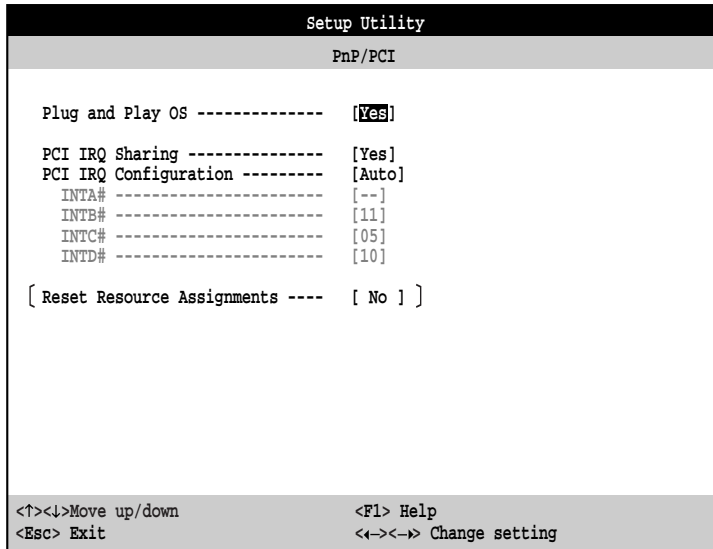
[Graphics Aperture Size] (初期値 : 64)

マザーボード上のVGAコントローラが画像表示に使う、本パソコンのAGPメモリの上限を設定します。

- 64/128/256
マザーボード上のVGAコントローラが画像表示に使う、本パソコンのAGPメモリの上限をそれぞれの値に設定します。

PnP/PCI

プラグアンドプレイや PCI デバイスに関する設定を行います。



(画面は機種によって異なります)

上記の画面内で [] のついている項目は、通常は表示されません。Main Menu 画面 (●▶P.90) で **[F8]** を押してからメニューを表示してください。

設定項目の詳細

Plug and Play OS (初期値 : Yes)

Windows98 など、プラグアンドプレイに対応した OS を使うかを設定します。

- Yes
プラグアンドプレイに対応した OS を使います (Windows98 をお使いの場合)。
- No
プラグアンドプレイに対応していない OS を使います (Windows98 以外の OS をお使いの場合)。

PCI IRQ Sharing (初期値 : Yes)

複数の PCI 拡張カードでの IRQ (割り込み要求) の共有について設定します。通常は Yes のままでお使いください。

- Yes
IRQ を共有させます。
- No
IRQ を共有させません。

PCI IRQ Configuration (初期値 : Auto)

パソコン本体の割り込み INTA# ~ D#、および USB (C_{35L}/C₃₅₇/C₃₅₅ のみ) に割り当てる IRQ (割り込み要求) を設定します。通常は Auto のままでお使いください。

- Auto
本パソコンが自動的に設定します。User から Auto に設定を変更したときは、[Reset Resource Assignments] を必ず Yes に設定してください。
- User
次の INTA# ~ D#、および USB に対する IRQ を手動で設定します。

INTA#/INTB#/INTC#/INTD#/USB

(CIX40L/CIX40Lc/CIX407c 初期値:INTA#:-、INTB#:11、INTC#:05、INTD#:10
CIX35L/CIX357/CIX355 初期値 :INTA#:-、INTB#:11、INTC#:05、INTD#:-、USB:10)
パソコン本体の割り込みINTA# ~ D#、およびUSB (CIX35L/CIX357/CIX355のみ)に割り当てられているIRQ (割り込み要求)が表示されます。

PCI IRQ ConfigurationをUserに設定した場合に、それぞれに割り当てるIRQ(割り込み要求)を変更できます。また、Userに設定した場合は、拡張カードの増設状態によって表示される設定値が異なります。

- 3/5/9/10/11

INTA# ~ D#、およびUSBに割り当てるIRQ (割り込み要求)を設定します。

[Reset Resource Assignments](初期値:No)

ESCDの内容の消去について設定します。消去するときは、PCI IRQ Configurationを必ずAutoにしてください。

- No

消去しません。

- Yes

再起動時にESCDの内容を消去します。

アドバイス

ESCDを消去すると

Reset Resource Assignmentsを「Yes」に設定したとき、再起動時にESCDの内容を消去すると、自動的に設定が「No」に変更されます。

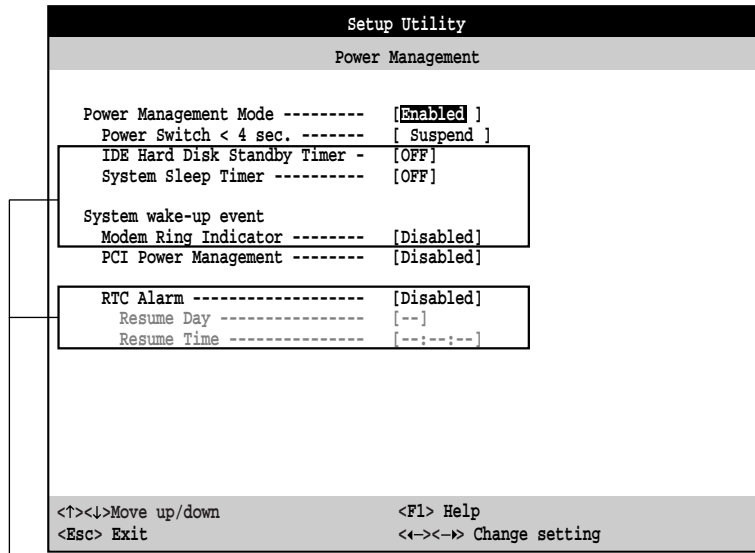
用語 ESCD (イーエスシーディー)

Extended System Configuration Dataの略で、リソースや共有メモリアドレスなどの情報が記録されるメモリです。

起動時にESCDからデータを読み込み、プラグアンドプレイ対応のPCI拡張カードなどにリソースを割り当てます。

Power Management

本パソコンの省電力に関する設定を行います。



Windows98では設定が無効となります。

重要

Windows98では設定が無効になる項目があります

Power Managementメニューの設定項目のうち、上の画面で示している項目を設定しても、Windows98では設定が無効となります。

設定項目の詳細

Power Management Mode (初期値 : Enabled)

本パソコンは、省電力モードを備えています。省電力モードは、本パソコンの電源を入れた状態で一定時間使わなかった場合に、消費する電力を減らして待機する機能です。

- Enabled
省電力モードに移行するようにします。
- Disabled
省電力モードに移行しないようにします。省電力モードに関する設定項目は、灰色の文字で表示され、設定できなくなります。また、Power Switch<4 sec. が自動的に Power Off になります。

アドバイス

Power Management Mode を Disabled に設定すると

Disabled に設定すると、Windows98 終了時の自動電源オフはできなくなります。

本パソコンの電源を切るときは、「電源を切る」(●▶P.12) をご覧になり、手順 5 までを行います。画面に「コンピュータの電源を切る準備ができました」と表示されたら電源スイッチを押してください。本パソコンの電源が切れます。そのあとに、本パソコンに接続されている機器の電源も切ってください。

省電力モードにしないでください

- 次の場合は、Power Management Mode を Disabled に設定するか、もしくは Power Management Mode を Enabled のまま System Sleep Timer を OFF のままでお使いください。
 - 省電力対応以外のディスプレイを使うとき
 - ディスプレイカードを使うことにより、Power Management Mode が正常に動作しなくなった場合
- 省電力モードが設定されていると、モデムや LAN などを使う通信環境によっては、通信できなくなる場合があります。その場合は、Power Management Mode を Disabled に設定してください。

Power Switch<4 sec. (初期値 : Suspend)

電源スイッチを押した場合に、スタンバイ (●▶P.14) に移行するか、電源が切れるようにするかを設定します。

- Suspend
電源スイッチを押すとスタンバイになります。スタンバイの状態でも電源スイッチを 4 秒以上押し続けると、電源が切れます。詳しくは、「電源スイッチについて」(●▶P.14) をご覧ください。
- Power Off
電源スイッチを押すと電源が切れます。

アドバイス

Power Switch<4 sec. を Power Off に設定したときは

Power Off に設定しても、「FUJITSU」のロゴが表示されている間は、電源スイッチを 4 秒以上押し続けると電源は切れません。

IDE Hard Disk Standby Timer (初期値 : OFF)

内蔵ハードディスクを、スタンバイ (一部の回路を停止させた状態) に移行させるまでの時間を設定します。ハードディスクにアクセスすると、スタンバイから通常の状態に数秒で戻ります。

- 1 ~ 60
1 分から 60 分の間で規定の時間を設定します。その時間ハードディスクへのアクセスがないと、ハードディスクがスタンバイになります。
- OFF
スタンバイになりません。

System Sleep Timer (初期値 : OFF)

システム全体をスタンバイ (一部の回路を停止させた状態) に移行させるまでの時間を設定します。この項目は、ディスプレイを省電力状態に移行させたい場合に使います。キーボードの任意のキーを押すか、マウスを動かすと、スタンバイから通常の状態に数秒で戻ります。

- 2 ~ 120
2 分から 120 分の間で規定の時間を設定します。その時間パソコンを使わなかった場合に、スタンバイになります。
- OFF
スタンバイになりません。

System wake-up event

電話がかかってきたり、PCI 拡張カードから復帰信号が送られたりしたときに、本パソコンをスタンバイから復帰させるように設定します。

Modem Ring Indicator (初期値 : Disabled)

本パソコンのモデムカードと電話回線を接続している状態で、電話がかかってきたときに本パソコンをスタンバイから復帰させるように設定します。

- Enabled
スタンバイから復帰させます。
- Disabled
スタンバイから復帰しません。

アドバイス

Windows98 を起動すると Enabled になります

Windows98 を起動すると Modem Ring Indicator の設定値が「Enabled」に変更されます。設定値は、次に Load Default Settings を実行するまで「Enabled」のままとなります。

PCI Power Management (初期値 : Disabled)

PCI 拡張カードから復帰信号が送られてきたときに、本パソコンをスタンバイから復帰させるように設定します。

- Enabled
スタンバイから復帰させます。
- Disabled
スタンバイから復帰しません。

RTC Alarm (初期値 : Disabled)

あらかじめ設定した時間に、本パソコンをスタンバイから復帰させるか、または自動的に電源を入れるかを設定します。

- Time
スタンバイから復帰させる、または電源を入れる時刻を設定します。
- Date/Time
スタンバイから復帰させる、または電源を入れる日と時刻を設定します。
- Disabled
スタンバイから復帰しません。または電源を入れません。

Resume Day (初期値 : --)

スタンバイから復帰する、または電源を入れる日を設定します。

Resume Day は 1 度設定すると、解除するまでその設定が有効になります。

Resume Time (初期値 : --:--:--)

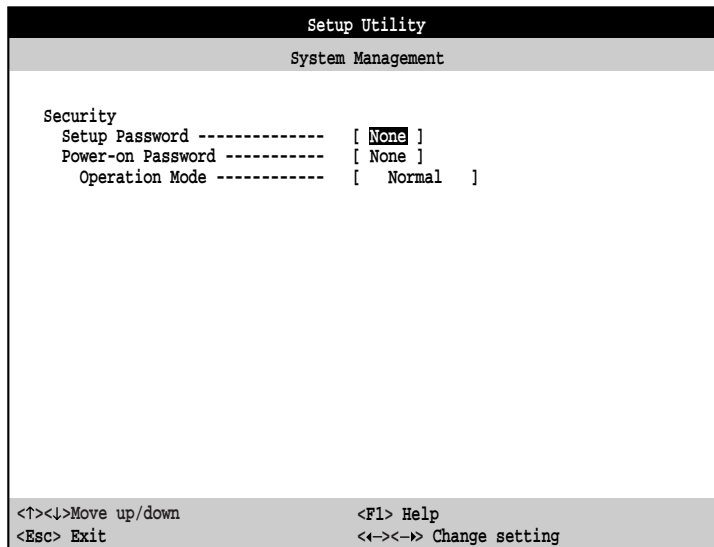
スタンバイから復帰する、または電源を入れる時刻を設定します。

「時間:分:秒」の順に設定します。

Resume Time は 1 度設定すると、解除するまでその設定が有効になります。

System Management

パスワードの設定を行います。パスワードの設定のしかたについては、「パスワードを使う」(●▶ P.113) をご覧ください。



設定項目の詳細

Security

パスワードの設定を行います。

Setup Password (初期値 : None)

特定の人だけが BIOS セットアップを行えるようにします。

Setup Password を設定すると、BIOS セットアップ画面を表示するときに、パスワードの入力を求められます。

Power-on Password (初期値 : None)

特定の人だけが本パソコンを使えるようにします。

Power-on Password を設定すると、OS を起動するときに、パスワードの入力を求められます。

重要

Power-on Password を設定するときは

Setup Password を設定せずに Power-on Password のみを設定した場合、BIOS セットアップを起動することができなくなります。Power-on Password を設定するときは、必ず Setup Password も設定してください。

Operation Mode (初期値 : Normal)

Power-on Password を設定したときの動作について設定します。

- Normal

OS が起動する直前に、パスワードを入力します。

- Keyboard Lock

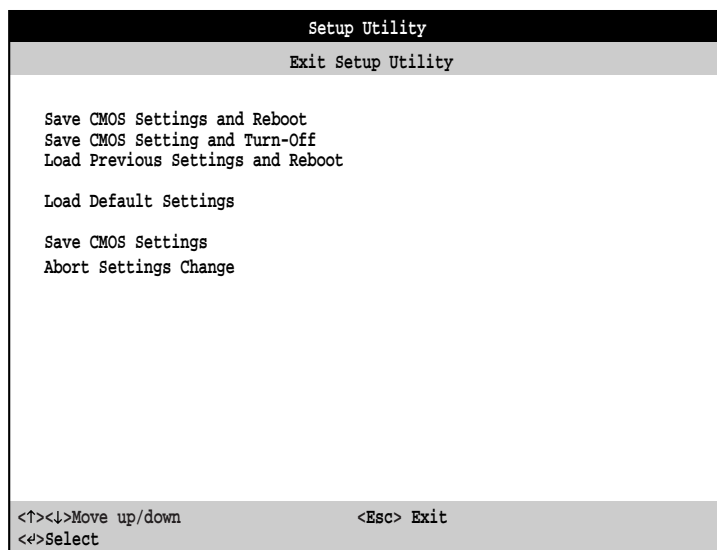
この項目は、キーボードをパソコン本体背面のキーボードコネクタ(●▶ P.5) に接続しているときのみ有効です。USB キーボードをお使いの方は設定しないでください。

OS が起動したあと、パスワードを入力します。

正しいパスワードが入力されるまで、キーボードは使えなくなります。

Exit Setup Utility

BIOS セットアップを終了します。また、設定をご購入時の状態（初期値）に戻すこともできます。BIOS セットアップの終了のしかたについては、「BIOS セットアップを終了する」(●▶P.86) を、設定をご購入時の状態に戻す方法については、「ご購入時の設定に戻す」(●▶P.88) をご覧ください。



設定項目の詳細

Save CMOS Settings and Reboot

変更した設定を保存して、BIOS セットアップを終了します。

この項目にカーソルを合わせて **[Enter]** を押すと、「Do you want to save CMOS settings and reboot?」というメッセージが表示されます。

「Yes」を選び、**[Enter]** を押します。変更した設定が保存され、Windows98 が起動します。

Save CMOS Settings and Turn-Off

変更した設定を保存して、BIOS セットアップを終了し、本パソコンの電源を切ります。

この項目にカーソルを合わせて **[Enter]** を押すと、「Do you want to save CMOS settings and Turn-Off?」というメッセージが表示されます。

「Yes」を選び、**[Enter]** を押します。変更した設定が保存され、本パソコンの電源が切れます。

Load Previous Settings and Reboot

変更した設定を保存しないで、BIOS セットアップを終了します。

この項目にカーソルを合わせて **[Enter]** を押すと、「Do you want to load previous settings and reboot?」というメッセージが表示されます。

「Yes」を選び、**[Enter]** を押します。設定が前回保存した値に戻り、Windows98 が起動します。

Load Default Settings

BIOS セットアップの設定をご購入時の状態（初期値）に戻します。BIOS セットアップは終了しません。

この項目にカーソルを合わせて **[Enter]** を押すと、「Do you want to load default settings?」というメッセージが表示されます。

「Yes」を選び、**[Enter]** を押します。設定がご購入時の状態（初期値）に戻ります。

Save CMOS Settings

変更した設定を保存します。BIOS セットアップは終了しません。

この項目にカーソルを合わせて **[Enter]** を押し、「Do you want to save CMOS settings?」というメッセージが表示されます。

「Yes」を選び、**[Enter]** を押します。変更した設定が保存されます。

Abort Settings Change

変更した設定を保存しないで元に戻します。BIOS セットアップは終了しません。

この項目にカーソルを合わせて **[Enter]** を押し、「Do you want to load previous settings?」というメッセージが表示されます。

「Yes」を選び、**[Enter]** を押します。設定が前回保存した値に戻ります。

上記のどの項目も、「No」を選ぶと、Exit Setup Utility メニューの画面に戻ります。

パスワードを使う

本パソコンでは、特定の人だけが起動や BIOS セットアップを行えるように、パスワードを設定することができます。

ここでは、パスワードの設定方法や変更方法などについて説明します。

パスワードの種類

本パソコンで設定できるパスワードは次の 2 つです。

- Setup Password
特定の人だけが、BIOS セットアップを行えるようにするためのパスワードです。
設定したパスワードを入力しないと、BIOS セットアップが起動しないようにします。
- Power-on Password
特定の人だけが、本パソコンを使えるようにするためのパスワードです。
設定したパスワードを入力しないと、OS が起動しないようにします。

パスワードを使うまで

パスワードを使えるようにするには、次の 2 つの作業を行います。

BIOS セットアップで
パスワードを設定する (●▶ P.114)

System Management メニューの「Setup Password」でパスワードを設定するか、「Setup Password」と「Power-on Password」でパスワードを設定します。

ディップスイッチまたはジャンプスイッチ
を変更する

設定したパスワードを使えるようにするために、本体内部のディップスイッチまたはジャンプスイッチを変更します。

C[™] 40L/C[™] 40Lc/C[™] 407c をお使いの方はディップスイッチを、C[™] 35L/C[™] 357/C[™] 355 をお使いの方はジャンプスイッチを変更します。

パスワードを設定する

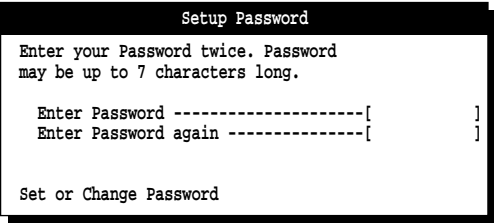
Setup Password、Power-on Password を設定する方法を説明します。

重要

Power-on Password を設定するときは Setup Password も設定してください

Setup Password を設定せずに Power-on Password のみを設定した場合、BIOS セットアップを起動することができなくなります。Power-on Password を設定するときは、必ず Setup Password も設定してください。Power-on Password のみを設定して BIOS セットアップを起動できなくなった場合は、いったん Power-on Password を削除し(●▶ P.121)、ディップスイッチまたはジャンプスイッチの設定を元に戻してから、BIOS セットアップを起動して Setup Password を設定してください。
そのあと、Power-on Password を設定し直してください。

- 1 BIOS セットアップを起動します。
起動のしかたについては「BIOS セットアップを起動する」(●▶ P.83)をご覧ください。
- 2 を押して、System Management にカーソルを合わせ、**[Enter]** を押します。
- 3 を押して、「Setup Password」または「Power-on Password」にカーソルを合わせます。
初めてパスワードを設定するときは、必ず「Setup Password」を選んでください。
- 4 を押します。
パスワードを入力するウィンドウが表示されます。



```
Setup Password
Enter your Password twice. Password
may be up to 7 characters long.

Enter Password -----[ ]
Enter Password again -----[ ]

Set or Change Password
```

- 5 パスワードを入力します。
入力できる文字はアルファベットと数字です。最大7文字までなら何文字でもかまいません。
入力した文字は表示されず、かわりにブロックが表示されます。

重要



パスワードは忘れないでください

入力したパスワードは忘れないようにしてください。
パスワードを忘れてしまったときは、「パスワードを忘れてしまったら」(●▶ P.120)をご覧ください。

アドバイス

テンキーで入力するには

テンキーで数字を入力するには **[NumLock]** を押して、数字を入力できる (NumLock インジケータが点灯している) 状態にしてください。

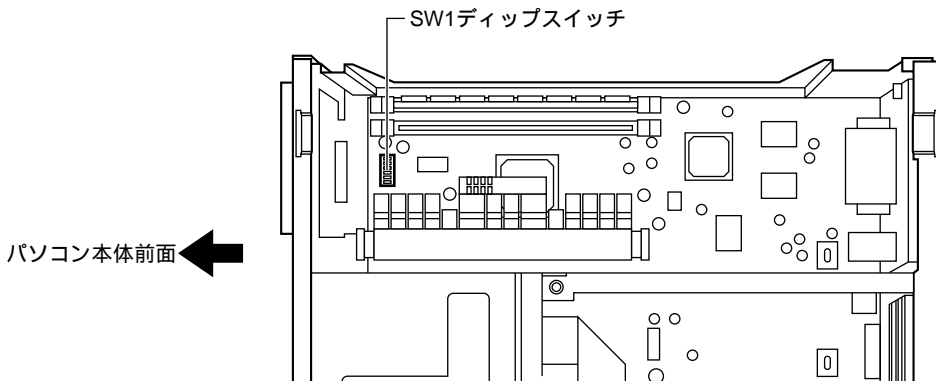
- 6 **[Enter]**を押します。
「Enter Password again」の項目に移ります。
パスワードの設定を中止するときは、**[Esc]**を押します。
- 7 手順 5 で入力したパスワードをもう一度入力し、**[Enter]**を押します。
「Set or Change Password」の項目に移ります。
- 8 **[Enter]**を押します。
設定値が「Present」になります。
再入力したパスワードが、手順 5 で入力したものと違っていた場合は、メッセージが表示されます。
[Enter]を押して、手順 5 から操作し直してください。
- 9 続いて Power-on Password を設定する場合は、手順 3 ~ 8 を繰り返します。
- 10 BIOS セットアップを終了します。
設定内容を保存して終了してください。終了のしかたについては「BIOS セットアップを終了する」(●▶P.86)をご覧ください。
- 11 パスワードの設定を有効にするために、ディップスイッチまたはジャンプスイッチを変更します。
 CIX 40L/CIX 40Lc/CIX 407c をお使いの方は
次の「ディップスイッチを設定する」をご覧ください。
 CIX 35L/CIX 357/CIX 355 をお使いの方は
「ジャンプスイッチを設定する」(●▶P.116)をご覧ください。

ディップスイッチを設定する

CIX 40L/CIX 40Lc/CIX 407c をお使いの方は、設定したパスワードを有効にするためにパソコン本体内部の SW1 ディップスイッチを変更する必要があります。
以下の手順に従って、SW1 ディップスイッチを変更してください。

■ ディップスイッチの位置 ■

SW1 ディップスイッチの位置は、次のとおりです。



■ ディップスイッチを変更する ■

電源を切った直後はパソコン本体内部の装置が熱くなっていますので、ディップスイッチを変更するときは、電源を切ったあと 10 分ほど待ってから作業を始めてください。

⚠ 警告



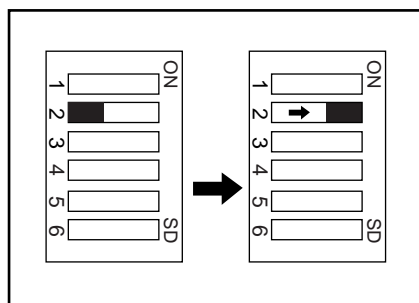
ディップスイッチを変更するときは、パソコン本体と接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。
感電の原因となります。

⚠ 注意



基板上の突起物には手を触れないでください。
けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

- 1 「本体カバーを取り外す」(●▶P.42) をご覧になり、本体カバーを取り外します。
- 2 SW1 ディップスイッチの 2 番を ON に変更します。
SW1 ディップスイッチの「2」と書かれたスイッチを、OFF (2 の数字側) から ON にスライドさせます。
ピンセットなどの先の細いものを使ってください。



- 3 「本体カバーを取り付ける」(●▶P.43) をご覧になり、本体カバーを取り付けます。

続いて、「パスワード設定後のパソコンの起動」(●▶P.119) をご覧ください。

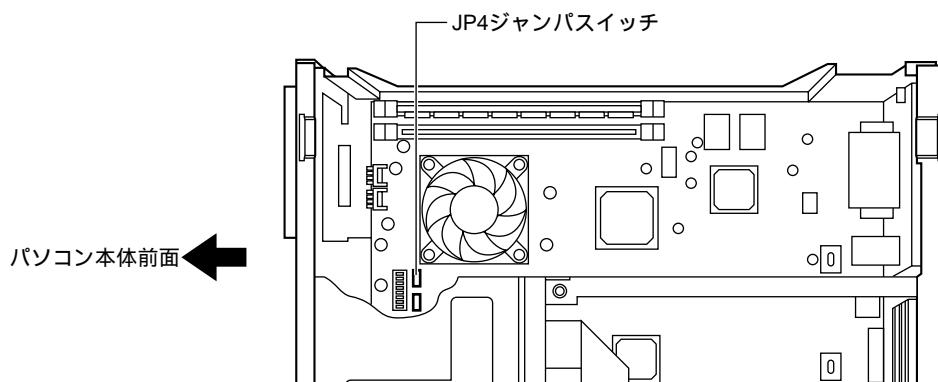
ジャンパスイッチを設定する

CX35L/CX357/CX355 をお使いの方は、設定したパスワードを有効にするためにパソコン本体内部の JP4 ジャンパスイッチを変更する必要があります。

以下の手順に従って、JP4 ジャンパスイッチを変更してください。

■ ジャンパスイッチの位置 ■

JP4 ジャンパスイッチの位置は、次のとおりです。



■ ジャンプスイッチを変更する ■

電源を切った直後はパソコン本体内部の装置が熱くなっていますので、ジャンプスイッチを変更するときは、電源を切ったあと 10 分ほど待ってから作業を始めてください。

また、マザーボードは人体にたまった静電気によって損傷を受ける場合があります。取り扱う前に、一度大きな金属質のものに手を触れて静電気を放電してください。

⚠ 警告



ジャンプスイッチを変更するときは、パソコン本体と接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。
感電の原因となります。



取り外したネジなどの小さな部品は、小さなお子様が悪く飲んで飲み込むと窒息の原因となります。保護者の方は、小さなお子様の手の届かないところに置くように注意してください。

万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。

⚠ 注意



ジャンプスイッチを変更するときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。

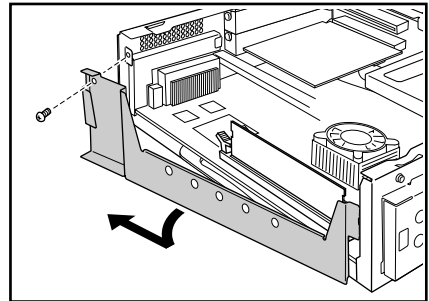
指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



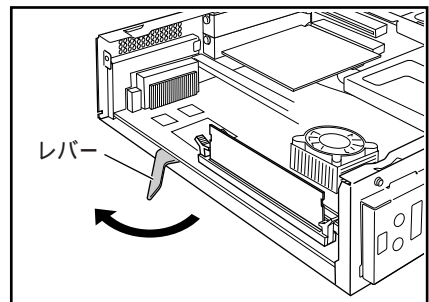
- 基板表面上の突起物には手を触れないでください。
けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。
- マザーボードのパソコン本体背面側の金具には手を触れないでください。
けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

1 「本体カバーを取り外す」(●▶ P.42) をご覧になり、本体カバーを取り外します。

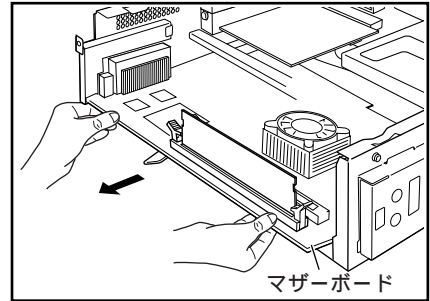
2 側面の金具を取り外します。
ネジ (1カ所) を外して、矢印の方向に取り外します。



3 マザーボードのレバーを引き出して、ロックを外します。



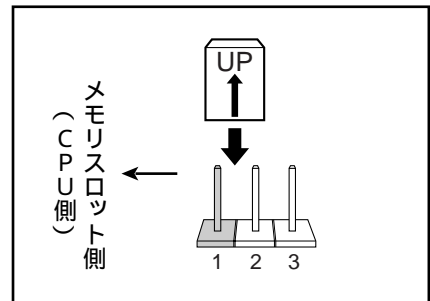
- 4 マザーボードを10cm程度引き抜きます。
マザーボードのふちを持って、JP4ジャンプスイッチが見える位置まで引き抜いてください。



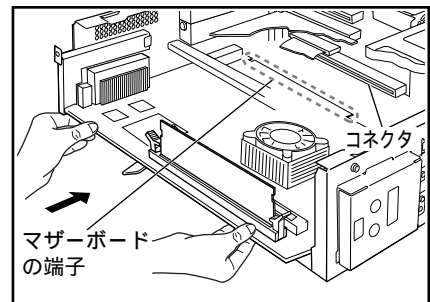
アドバイス

マザーボードは全部引き抜かないでください
マザーボードを全部引き抜いてしまうと、取り付けにくくなります。

- 5 JP4ジャンプスイッチを「2-3番」から「1-2番」に変更します。
本パソコンのご購入時は、「2-3番」に設定されています。



- 6 マザーボードをパソコン本体内部に差し込みます。
マザーボード下面のレールと、パソコン本体下部のレールをしっかりとかみ合っているか確認します。
マザーボードの端子が、パソコン本体のコネクタに合うように押し込んでください。



アドバイス

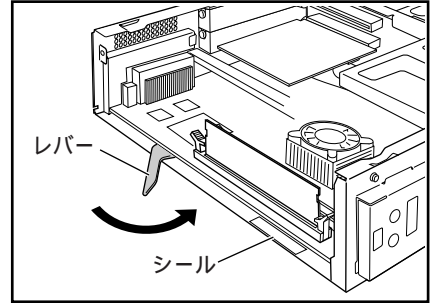
シールの線まで押し込んでください
マザーボードは、パソコン本体内部に貼ってあるシールの線の位置まで確実に押し込んでください。

この位置まで押し込んでください。→

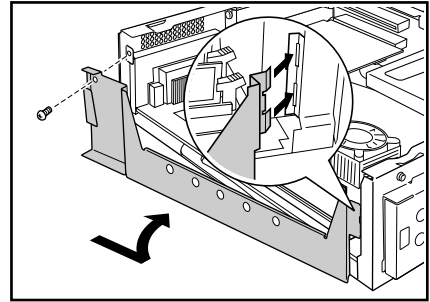
注意
マザーボードを装置に組み込む際は、マザーボードを、ガイドレールに沿ってまっすぐに挿入し中央のレバーでマザーボードの端面が、下の線の位置までくるように確実に押し込んで下さい。

▲マザーボードは線の位置まで確実に押し込んで下さい。

- 7 マザーボードのレバーを倒して、ロックします。マザーボードの端子が、パソコン本体のコネクタにしっかりと差し込まれたことを確認してください。



- 8 側面の金具を取り付けます。側面の金具のツメを、パソコン本体前面側の溝に差し込み、ネジ(1カ所)で固定します。



- 9 「本体カバーを取り付ける」(●▶ P.43) をご覧になり、本体カバーを取り付けます。

重要

マザーボードを取り付けたあと電源を入れても起動しないときは

マザーボードを取り付け、本体カバーを取り付けたあと、電源が入らなかったり、起動しなかったりした場合は、マザーボードの端子がパソコン本体のコネクタにしっかりと差し込まれていない可能性があります。その場合は、マザーボードを取り付け直してください。

続いて、次の「パスワード設定後のパソコンの起動」をご覧ください。

パスワード設定後のパソコンの起動

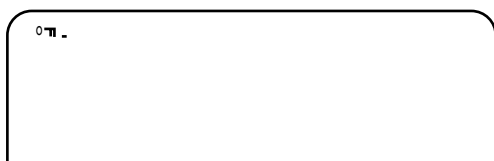
パスワードを設定すると、次に電源を入れたとき、または BIOS セットアップを起動するときに、パスワードの入力を要求されます。

- Setup Password を設定した場合
BIOS セットアップを起動するときに、次の画面が表示されます。



設定したパスワードを入力し、**[Enter]**を押すと、BIOS セットアップの画面が表示されます。

- Power-on Password を設定した場合
OS を読み込む直前に、次の画面が表示されます。



設定したパスワードを入力し、**[Enter]**を押すと、本パソコンが起動します。

重要

違うパスワードを入力すると

設定したパスワードと違うパスワードを3回入力すると、「Incorrect password specified. System disabled.」というメッセージが表示されて、パソコンが停止します。その場合は、電源スイッチを4秒以上押し続けてパソコンの電源を切ってから10秒ほど待って、もう一度電源を入れます。そのあと、正しいパスワードを入力してください。

パスワードを忘れてしまったら

設定したパスワードを忘れてしまい、BIOSセットアップや起動ができなくなったら、ディップスイッチまたはジャンプスイッチの設定を元に戻してください。C_X40L/C_X40Lc/C_X407cをお使いの方は、本体内部のSW1 ディップスイッチの2番をONからOFF(2の数字側)に変更してください。C_X35L/C_X357/C_X355をお使いの方は、本体内部のJP4ジャンプスイッチを「1-2番」から「2-3番」に変更してください。詳しくは、「ディップスイッチを設定する」(●▶P.115)または「ジャンプスイッチを設定する」(●▶P.116)をご覧ください。

パスワードチェックが解除され、BIOSセットアップや起動ができるようになります。

パスワードを変更 / 削除する

Setup Password を削除する

- 1 パソコン本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜きます。
- 2 ディップスイッチまたはジャンプスイッチの設定を元に戻します。
詳しくは、「ディップスイッチを設定する」(●▶P.115)、「ジャンプスイッチを設定する」(●▶P.116)をご覧ください。
- 3 BIOSセットアップを起動します。
- 4 System Management にカーソルを合わせ、**[Enter]**を押します。
- 5 を押して、Setup Password の設定値を「None」に戻します。
- 6 設定内容を保存してBIOSセットアップを終了します。

Setup Password を変更する

- 1 BIOS セットアップを起動します。
- 2 System Management にカーソルを合わせ、**[Enter]** を押します。
- 3 **[F5]** を押して、Setup Password の設定値を「None」に戻します。
- 4 **[F5]** を押して、パスワード入力用のウィンドウを表示させます。
- 5 新しいパスワードを入力します。
パスワードが新しくなります。
- 6 設定内容を保存して BIOS セットアップを終了します。

Power-on Password を削除する

- 1 パソコン本体の電源を入れます。
パスワードの入力画面が表示されます。
- 2 パスワードを入力します。
- 3 続けて **[F5]** を押して、**[Enter]** を押します。
パスワードが削除されます。

Power-on Password を変更する

- 1 パソコン本体の電源を入れます。
パスワードの入力画面が表示されます。
- 2 パスワードを入力します。
- 3 続けて **[F5]** を押して、新しいパスワードを入力します。
入力したパスワードは画面に表示されず、代わりにブロックが表示されます。
- 4 **[Enter]** を押します。
パスワードを確認するために「Retype new password」と表示されます。

重要

電源を切らないでください

パスワードの再入力を終える前にパソコン本体の電源を切らないでください。

- 5 手順 3 で入力した新しいパスワードを、もう一度入力します。
- 6 **[Enter]** を押します。
パスワードが新しくなります。

6

BIOS が表示するメッセージ一覧

ここでは、本パソコンが表示するメッセージ(BIOS メッセージ)について説明しています。必要に応じてお読みください。

メッセージが表示されたときは

「メッセージ一覧」をご覧になり、次のいずれかの方法でエラーを解消してください。

- BIOS セットアップの設定を変更する

BIOS セットアップに関するメッセージが表示されたときは、BIOS セットアップを起動して、エラー項目の設定が正しいかを確認してください。

また、「ご購入時の設定に戻す」(●▶P.88) をご覧になり、BIOS セットアップの設定をご購入時の状態(初期値)に戻してください。

- オプション機器の取り付けを確認する

オプション機器の拡張カードやメモリなどを取り付けているときは、それらが正しく取り付けられているかを確認してください。また、IRQ(割り込み要求)などが正しく設定されているかも確認してください。このとき、オプション機器のマニュアルもあわせてご覧ください。

上記の方法で対処してもメッセージが表示される場合、または次の「メッセージ一覧」に当てはまるメッセージがない場合は、本パソコンが故障している可能性があります。弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。

メッセージ一覧

1. "CMOS Battery Bad"

バッテリーの交換が必要です。弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。

2. "CMOS Checksum Error"

[F2]を押して、BIOS セットアップを起動し、「ご購入時の設定に戻す」(●▶P.88)の操作を行ってください。

3. "CPU Clock Mismatch"

[F2]を押して、BIOS セットアップを起動し、「ご購入時の設定に戻す」(●▶P.88)の操作を行ってください。

4. "Diskette Drive Controller Error or Not Installed"

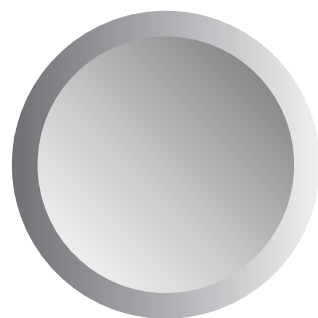
フロッピーディスクドライブのケーブル(電源ケーブル、フラットケーブル)が正しく接続されているかを確認してください。

5. "Diskette Drive A Error"

フロッピーディスクドライブが正しく接続されているかを確認してください。

正しく接続されているときは、BIOS セットアップを起動して、フロッピーディスクドライブの種類が正しく設定されているかを確認してください。

6. "Equipment Configuration Error"
[F2]を押して、BIOS セットアップを起動し、パソコン本体の環境 (システム構成) と BIOS セットアップの設定が正しいかを確認してください。
7. "IDE Drive Controller Error"
[F2]を押して、BIOS セットアップを起動し、パソコン本体の環境 (システム構成) と BIOS セットアップの IDE の設定が正しいかを確認してください。
8. "IDE Drive 0 Error", "IDE Drive 1 Error", "IDE Drive 2 Error"
[F2]を押して、BIOS セットアップを起動し、Disk Drives メニュー (●▶P.96) で IDE Drive の設定が正しく行われているかを確認してください。
9. "Invalid system disk Replace the disk, and then press any key"
フロッピーディスクドライブからフロッピーディスクを取り出して、[Enter]を押してください。
10. "Keyboard Error or No Keyboard Connected"
キーボードが正しく接続されているかを確認してください。
11. "Keyboard Interface Error"
弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
12. "Memory Error at:MMMM:SSSS:OOOO (W:XXXX,R:YYYY) where:M:MB,S: Segment, O:Offset,X/Y:write/read pattern"
メモリが正しく取り付けられているかを確認してください。正しく取り付けられているときは、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
13. "Non-System disk or disk error Replace and press any key when ready"
フロッピーディスクドライブからフロッピーディスクを取り出して、[Enter]を押してください。
14. "Onboard Serial Port 1 Conflict (s) "
拡張カードと本パソコンのシリアルポート 1 のリソースが重複しています。
拡張カードのリソースを変更するか、[F2]を押して BIOS セットアップを起動し、Peripherals メニュー (●▶P.101) で、Serial Port の Base Address を変更してください。
15. "Onboard Parallel Port Conflict (s) "
拡張カードと本パソコンの平行ポートのリソースが重複しています。
拡張カードのリソースを変更するか、[F2]を押して BIOS セットアップを起動し、Peripherals メニュー (●▶P.101) で、Parallel Port の Base Address を変更してください。
16. "Onboard Pointing Device IRQ Conflict (s) "
拡張カードと本パソコンのマウスコントローラのリソースが重複しています。
拡張カードのリソースを変更してください。
17. "Pointing Device Error"
マウスが正しく接続されているかを確認してください。
18. "Pointing Device Interface Error"
弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
19. "Press F2 key to enter SETUP or F1 key to Continue...."
[F1]を押して先に進めるか、または[F2]を押してパソコン本体の環境 (システム構成) と BIOS セットアップの設定が正しいかを確認してください。
20. "Real Time Clock Error"
[F2]を押して、BIOS セットアップを起動し、「ご購入時の設定に戻す」(●▶P.88) の操作を行ってください。
それでもエラーメッセージが表示される場合は、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。



仕様一覧

本パソコンの仕様や、リソースについて説明しています。

- 1. 仕様一覧 126
- 2. 本パソコンのリソースについて 129
- 3. コネクタのピン配列と信号名 133

1

仕様一覧

パソコン本体

製品名称	FMV-DESKPOWER CIX 40L	FMV-DESKPOWER CIX 40Lc/CIX 407c	FMV-DESKPOWER CIX 35L/CIX 357/CIX 355
CPU	Pentium® プロセッサ-400MHz	Celeron™ プロセッサ-400MHz	AMD-K6®-2/350MHz
キャッシュメモリ	L1 32KB + L2 512KB	L1 32KB + L2 128KB	L1 64KB + L2 512KB
BIOS ROM	256KB (フラッシュROM)		
システムRAM	標準 64MB (SDRAM) ECC なし 最大 256MB		
システムバスクロック	100MHz	66MHz	100MHz
フロッピーディスク	3.5 インチ × 1 (3 モード対応) スリムタイプ		
ハードディスク	6.4GB (C ドライブ 2.5GB、D ドライブ 3.9GB)		
CD-ROM	最大 24 倍速スリムタイプ		
グラフィック	ATI 社製 RAGE™ PRO TURBO AGP 2X (SGRAM : 4MB)		
ディスプレイ	CIX 40L/CIX 40Lc/CIX 35L : 15 インチ LCD (DDC 対応、USB ハブ / スピーカー内蔵) CIX 407c/CIX 357 : 17 インチフラット CRT (DDC 対応) CIX 355 : 15 インチ CRT (DDC 対応)		
オーディオ機能	Crystal 社製 CS4614 + CS4297 (AC97)		
I/F	ディスプレイ	VGA/SVGA D-SUB 15pin	
	キーボード	CIX 40L/CIX 40Lc/CIX 35L : USB タイプ (マウスコネクタ付き) CIX 407c/CIX 357/CIX 355 : PS/2 タイプ Mini-DIN 6pin	
	マウス	CIX 40L/CIX 40Lc/CIX 35L : PS/2 タイプ Mini-DIN 6pin (キーボードに接続) CIX 407c/CIX 357/CIX 355 : PS/2 タイプ Mini-DIN 6pin	
	シリアルポート	非同期 RS-232C × 1 D-SUB 9pin	
	パラレルポート	セントロニクス準拠 D-SUB 25pin	
	USB	USB コネクタ 4pin × 2 (前面 × 1、背面 × 1)	
	サウンド	マイク入力 (専用マイク用) × 1、LINE 入力 × 1、ヘッドホン端子 × 1、 LINE 出力 × 1、スピーカー出力 × 1、MIDI/JOYSTICK 端子 × 1	
	FAX/ボイス モデム	モジュラージャック × 2 (LINE × 1、PHONE × 1) DATA56Kbps (受信) 33.6Kbps (送信) / FAX 14.4Kbps	
拡張スロット数	PCI × 2 (ハーフ、うち 1 つに FAX/ボイスモデムカードを標準搭載)		
電源 / 周波数	AC100V 50/60Hz		
消費電力	約 34W (最大 70W)		
重量	約 7.5Kg (フット除く)		
外形寸法	88mm × 330mm × 310mm (W × D × H) (フット除く)		
使用環境	温度 10 ~ 35 湿度 20 ~ 80% (RH)		
省エネ法に基づく エネルギー消費効率	約 26W	約 25W	約 25W
対応 OS	Windows98、WindowsNT4.0 SP4		

CIX 35L/CIX 357/CIX 355 では、キャッシュが有効となるメモリ領域は 128MB までです。
本パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

FAX / ボイスモデムカード

品名	FAX / ボイスモデムカード -56000 (全二重)	
型名	FMV-FX53Z4	
通信方式	2線式 全二重 (FAXモードでは2線式 半二重)	
通信規格	K56flex™.ITU-T V.90/V.34/V.32bis/V.32/V.22bis/V.22/V.21/Bell212A,103 (データモード) ITU-T V.17/V.29/V.27ter (FAXモード)	
通信速度	データモード	300,1200,2400,4800,7200,9600,12000,14400,16800, 19200,21600,24000,26400,28800,31200,33600 28000,29333,30667,32000,33333,34000,34667,36000, 37333,38000,38667,40000,41333,42000,42667,44000, 45333,46000,46667,48000,49333,50000,50667,52000, 53333,54000,54667,56000bps
	FAXモード	300,2400,4800,7200,9600,12000,14400bps
	は、受信側のみ	
同期方式	調歩同期	
データ転送 プロトコル	MNP class 4/5 ITU-T V.42/V.42bis	
バスインターフェース	PCI	
FAXインターフェース	TIA/EIA578 (class1)	
音声蓄積機能	PCM	
寸法	長さ 135 mm × 幅 120 mm × 高さ 22 mm	
直流抵抗値	254	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自動速度検出 ・ 発信音、呼び出し音、話し中音、無音、ダイヤル音、音声などの回線接続の進行状況を示す応答音の検出 ・ スピーカーフォン機能は未対応 	

サウンド機能

チップセット	Crystal社製 CS4614 + CS4297 (AC97)
録音再生機能	サンプリング周波数 5kHz ~ 48kHz 16bit Stereo 最大 96 個同時再生可能 同時録音再生動作可能
MIDI 機能	Wavetable Synthesizer (最大 64 音) GM 音源
その他	サウンドアクセラレーション機能
ゲームポート	MPU-401 互換 MIDI I/F Game Port I/F
リソース	Audio codec IRQ : 1 つ使用 MPU-401 I/O ポートアドレス : 0300-0301h ~ 03FE-03FFh Game I/O ポートアドレス : 0200-0207h , 0208-020Fh

スピーカー (CIX407c/CIX357/CIX355 添付)

方式	開放平面型分布振動方式スピーカー
機能	VOLUME (音量調整)
スピーカーユニット	パネルスピーカーユニット
アンプ回路	1.2W/ch インピーダンス: 10k
再生周波数	150Hz ~ 20kHz
外形寸法	115 × 72.5 × 175 (mm)
重量	約 0.8Kg (AC アダプタを含む)

表示できる解像度と発色数

本パソコンと添付のディスプレイの組み合わせで設定できる解像度と発色数は次のとおりです。

下の表に書かれている以外の解像度ではお使いにならないください。

添付品以外のディスプレイをお使いのときは、解像度や発色数に制限のある場合があります。詳しくは、お使いのディスプレイのマニュアルをご覧ください。

解像度	設定可能な発色数	CIX40L/CIX40Lc/CIX35L	CIX407c/CIX357	CIX355
640 × 480ドット	16色			
	256色			
	HighColor (16ビット)			
	TrueColor (24ビット)			
800 × 600ドット	256色			
	HighColor (16ビット)			
	TrueColor (24ビット)			
	TrueColor (32ビット)			
1024 × 768ドット	256色			
	HighColor (16ビット)			
	TrueColor (24ビット)			
	TrueColor (32ビット)			
1280 × 1024ドット	256色	×		×
	HighColor (16ビット)	×		×
	TrueColor (24ビット)	×		×

- は表示可能、×は表示不可、はご購入時の設定です。
- HighColor (16ビット)は6万5千色、TrueColor (24ビット)とTrueColor (32ビット)は1677万色です。
- CIX357で解像度を1280 × 1024ドットに設定する場合は、「画面のプロパティ」ウィンドウで「リフレッシュレート」を「75Hz」に設定してください。

用語 解像度

縦横にどれだけの点(ドット)を表示できるかを示すものです。解像度が高い(数字が大きい)と、より鮮明な表現が可能になり、画面を広く使えるようになりますが、表示される文字などが小さくなります。

2

本パソコンのリソースについて

本パソコンのIRQ（割り込み要求）、DRQ（DMA要求）、I/Oポートアドレスを、どのハードウェアが使っているかの一覧と、リソース（IRQ、DRQ）の解放のしかたを説明しています。

リソース一覧

ご購入時の本パソコンのIRQ、DRQ、I/Oポートアドレスは、次のように設定されています。

IRQ（割り込み要求）

IRQ（割り込み要求）	使っているハードウェア
0	システムタイマ
1	キーボード
2	スレーブ割り込みコントローラ
3	空き
4	シリアルポート（COM1）
5	サウンド
6	フロッピーディスクドライブ
7	パラレルポート
8	リアルタイムクロック
9	空き
10	USB
11	内蔵FAX / ボイスモデム（COM2）
12	マウス
13	浮動小数点コプロセッサ
14	ハードディスク
15	CD-ROMドライブ

DRQ（DMA要求）

DRQ（DMA要求）	使っているハードウェア
0	空き
1	空き
2	フロッピーディスクコントローラ
3	空き
4	DMAコントローラ
5	空き
6	空き
7	空き

I/O ポートアドレス

I/O ポートアドレス	使っているハードウェア
200H ~ 207H	サウンド
2F8H ~ 2FFH	内蔵 FAX / ボイスモデム (COM2)
330H ~ 331H	サウンド
378H ~ 37FH	パラレルポート
3F8H ~ 3FFH	シリアルポート (COM1)


アドバイス

リソースの値は変更されることがあります

ここに記載しているリソースの値は、ご購入時のものです。拡張カードなどのオプション機器を増設すると、値が変更されることがあります。

現在のリソースを確認するには

拡張カードなどのオプション機器を増設すると、リソースの値が変更されることがあります。現在のリソースは、以下の手順で確認できます。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2  (システム) をクリックします。
- 3 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
- 4 「コンピュータ」が反転表示されていることを確認し、「プロパティ」をクリックします。
- 5 「リソースの表示」タブで、リソースの種類をクリックします。
リソースの値の一覧が表示されます。

コラム

リソース、IRQ、DRQ、I/O ポートアドレスとは

リソース

本パソコンの各周辺機器(キーボード、マウスなど)や、拡張カードなどに割り当てられているIRQ、DRQ、I/O ポートアドレスなどを総称して「リソース」と呼んでいます。
これらのリソースには識別のための番号が割り当てられます。

IRQ (割り込み要求 : Interrupt Request)

周辺装置が要求する処理はすべてCPUが行いますが、CPUはどの装置からいつ「こういう処理を行ってほしい」という要求が来るかを予想できません。CPUが常にすべての装置を監視していると、処理を行っている時間よりも、監視している時間のほうが長くなってしまい、非効率的です。そこで、各周辺装置や拡張カードのほうで、CPUに実行してほしいことが発生したときに、IRQの番号を使って現在CPUが行っている処理に「割り込み」、「自分のほうを優先してほしい」と要求します。
CPUは、どの装置から要求が来たのかをIRQから判断して、処理を行います。それが終われば、CPUはふたたび元の処理に戻ります。

DRQ (DMA 要求 : Direct Memory Access Request)

CPUがひんばんに使うデータやプログラムは、処理にかかる時間を短縮するためにメモリにおかれます。DMA (Direct Memory Access) とは、それらのデータやプログラムなどをハードディスクなどの装置から読み込み、メモリに書き込む作業をCPUが行うのではなく、かわりに専用のプロセッサ(制御回路)が行うというしくみのことです。その間、CPUは他の処理を行えるために、CPUの作業効率が上がります。その専用のプロセッサのことをDMA コントローラと呼びます。
DRQとはDMAコントローラが、どの周辺装置からDMA要求が出されたかを認識するための番号のことです。

I/O (Input/Output) ポートアドレス

CPUと個々の周辺機器との間には、それぞれ情報をやりとりする出入り口があります。その出入り口に割り当てられる番号が「I/O ポートアドレス」です。

リソースを解放する

オプション機器をお使いになる場合には、オプション機器を取り付ける前に以下の設定が必要になる場合があります。

取り付けるオプション機器が必要とするリソースが本パソコンですでに使われているときは、そのままではそのオプション機器を使えません。オプション機器を取り付ける前に、オプション機器が必要とするリソースを本パソコンで空ける必要があります。この作業を「リソースの解放」といいます。本パソコンのリソースの使用状況について詳しくは、「リソース一覧」(●▶P.129)をご覧ください。ここでは、シリアルポートまたはパラレルポートのIRQを解放する手順を例に、リソースを解放する方法を説明します。

重要

リソースを解放したデバイスは使えません

リソースを解放すると、それまでそのリソースを割り当てられていたデバイスは、使えなくなりますのでご注意ください。

再びお使いになるときは、リソースを再設定してください。

リソースは不用意に解放しないでください

リソースを不用意に解放すると、本パソコンが正常に動作しなくなることがあります。「リソース一覧」(●▶P.129)でよくご確認のうえ、リソースを解放してください。


アドバイス

PCI 拡張カードのリソースを解放するには

お客様が取り付けたPCI拡張カードが使っているリソースを解放したいときは、PCI拡張カードを取り外してください。そのあと、本パソコンの電源を入れると、自動的にリソースが解放されます。

用語 デバイス

パソコン本体内部の装置(メモリ、拡張カードなど)や、パソコンに接続する機器(マウス、キーボードなど)のことをデバイスと呼びます。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2  (システム)をクリックします。
- 3 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
本パソコンのハードウェアの一覧が表示されます。
- 4 解放したいリソースを使っているデバイスをクリックして選びます。
IRQ4を解放するにはポート(COM/LPT)内の「通信ポート(COM1)」を選びます。
IRQ7を解放するにはポート(COM/LPT)内の「プリンタポート(LPT1)」を選びます。

アドバイス

リソースを解放すると

それまでそのリソースを割り当てられていたデバイスは使えなくなります。

IRQ4を解放すると、パソコン本体背面のシリアルコネクタ(COM1)(●▶P.5)が使えなくなります。

IRQ7を解放すると、パラレルコネクタ(●▶P.5)が使えなくなります。

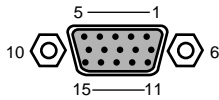
これらのコネクタにオプション機器を接続している場合は、そのオプション機器も使えなくなります。

- 5 「プロパティ」をクリックします。
- 6 「デバイスの使用」の「このハードウェアプロファイルで使用不可にする」のをクリックしてにし、「OK」をクリックします。
「デバイスマネージャ」タブに戻ります。
リソースを解放したデバイスに×印が付きます。
- 7 「閉じる」をクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウが閉じます。
デバイスによっては、「閉じる」をクリックしたあとに、再起動するメッセージが表示されるものがあります。この場合は「はい」をクリックし、本パソコンを再起動してください。再起動したら、操作は終了です。
- 8 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。
- 9 「再起動する」をクリックして、「OK」をクリックします。
本パソコンが再起動します。

3

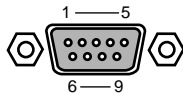
コネクタのピン配列と信号名

ディスプレイコネクタ



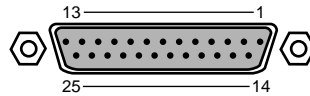
ピンNo.	信号名	方向	内容
1	RED	出力	赤出力
2	GREEN	出力	緑出力
3	BLUE	出力	青出力
4	NC	-	未接続
5~8	GND	-	グラウンド
9	+5V	-	電源
10	GND	-	グラウンド
11	NC	-	未接続
12	SDA	入出力	データ
13	HSYNC	出力	水平同期信号
14	VSYNC	出力	垂直同期信号
15	SCL	入出力	データクロック

シリアルコネクタ



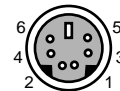
ピンNo.	信号名	方向	内容
1	CD	入力	キャリア検出
2	RD	入力	受信データ
3	TD	出力	送信データ
4	DTR	出力	データ端末レディ
5	GND	-	グラウンド
6	DSR	入力	データセットレディ
7	RTS	出力	送信要求
8	CTS	入力	送信可
9	RI	入力	リングインジケート

パラレルコネクタ



ピンNo.	信号名	方向	内容
1	STROBE	入出力	ストロブ
2	DATA0	入出力	データ0
3	DATA1	入出力	データ1
4	DATA2	入出力	データ2
5	DATA3	入出力	データ3
6	DATA4	入出力	データ4
7	DATA5	入出力	データ5
8	DATA6	入出力	データ6
9	DATA7	入出力	データ7
10	ACK	入力	アクノリッジ
11	BUSY	入力	ビジー
12	PE	入力	用紙切れ
13	SELECT	入力	セレクト
14	AUTOFD	出力	自動送り
15	ERROR	入力	エラー
16	INIT	出力	初期化
17	SLCTIN	出力	セレクト
18~25	GND	-	グラウンド

マウスコネクタ



ピンNo.	信号名	方向	内容
1	DATA	入出力	データ
2	NC	-	未接続
3	GND	-	グラウンド
4	VCC	-	電源
5	CLK	入出力	クロック
6	NC	-	未接続

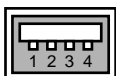
仕様一覧(コネクタのピン配列と信号名)

キーボードコネクタ



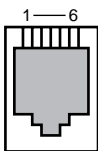
ピンNo.	信号名	方向	内容
1	DATA	入出力	データ
2	NC	-	未接続
3	GND	-	グラウンド
4	VCC	-	電源
5	CLK	入出力	クロック
6	NC	-	未接続

USB コネクタ



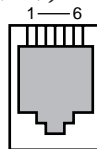
ピンNo.	信号名	方向	内容
1	VCC	-	ケーブル・電源
2	- DATA	入出力	- データ信号
3	+ DATA	入出力	+ データ信号
4	GND	-	ケーブル・グラウンド

LINE 端子 (モデム)



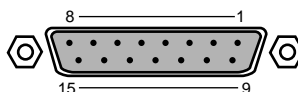
ピンNo.	信号名	方向	内容
1	NC	-	未接続
2	-	-	PHONE端子の5ピンと接続
3	LINE	入出力	公衆回線に接続
4	LINE	入出力	公衆回線に接続
5	-	-	PHONE端子の2ピンと接続
6	NC	-	未接続

PHONE 端子 (モデム)

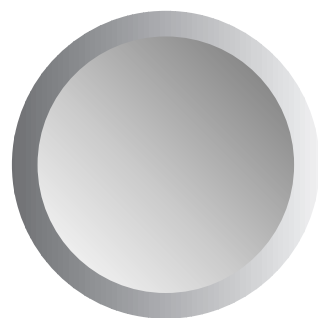


ピンNo.	信号名	方向	内容
1	NC	-	未接続
2	-	-	LINE端子の5ピンと接続
3	TEL	入出力	電話機に接続
4	TEL	入出力	電話機に接続
5	-	-	LINE端子の2ピンと接続
6	NC	-	未接続

MIDI/JOYSTICK 端子



ピンNo.	信号名	方向	内容
1	+ 5V	-	電源
2	JOYF0	入力	ジョイスティックAボタン1
3	JRC0	入力	ジョイスティックA X座標
4	GND	-	グラウンド
5	GND	-	グラウンド
6	JRC1	入力	ジョイスティックA Y座標
7	JOYF1	入力	ジョイスティックAボタン2
8	+ 5V	-	電源
9	+ 5V	-	電源
10	JOYF2	入力	ジョイスティックBボタン1
11	JRC2	入力	ジョイスティックB X座標
12	MIDIOUT	出力	MIDI出力
13	JRC3	入力	ジョイスティックB Y座標
14	JOYF3	入力	ジョイスティックBボタン2
15	MIDIIN	入力	MIDI入力



付録

その他の注意事項などについて説明しています。

- 1. ディスプレイドライバ/サウンドドライバのインストール... 136
- 2. その他の注意事項 144

1

ディスプレイドライバ/サウンドドライバのインストール

パソコンの調子が悪いとき、その原因がドライバにある場合があります。ゲームなどをインストールして、パソコンに合わないドライバに更新されてしまうと、パソコンは正しく動作しません。パソコンの状態に合わせて、ドライバを再インストールしてください。

画面が正しく表示されない場合はディスプレイドライバをインストールします。

音が正しく出ない場合はサウンドドライバをインストールします。

インストールのときに気を付けること

正常にインストールを行うために、注意していただくことがいくつかあります。

■ アクティブデスクトップの解除 ■

アクティブデスクトップに設定されたままインストールを行うと、正常にインストールを終了できない場合があります。インストールの前に、次の手順に従ってアクティブデスクトップの設定を解除します。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」、「アクティブデスクトップ」の順にマウスポインタを合わせ、「Web ページで表示」をクリックし、チェックマークを外します。

Windows98 の標準画面に切り替わります。

アドバイス

アクティブデスクトップを解除する別の方法

デスクトップの何も無いところで、マウスの右ボタンを1回押し、「アクティブデスクトップ」にマウスポインタを合わせ、「Web ページで表示」をクリックしても、アクティブデスクトップを解除できます。

インストール終了後、改めてアクティブデスクトップに設定してください。

■ アプリケーションやウィンドウの終了 ■

開いているウィンドウや、起動しているアプリケーションをすべて終了させてください。「AUV」や「VirusScan」など、タスクバーに常駐するタイプのアプリケーションも終了させてください。

また、操作中、何度もパソコンが再起動されるので、スタートアップに登録されているアプリケーションは、そのつど終了させる必要があります。

■ 「バージョンの競合」ウィンドウが表示された場合 ■

インストール中、「バージョンの競合」ウィンドウが表示されることがあります。

手順内で指示のない場合は、表示されたメッセージの内容をよくお読みになり、必ず \textcircled{A} 「アプリケーションCD」または \textcircled{B} 「デバイスドライバCD」に入っているファイルがインストールされるように、「はい」または「いいえ」を選んでください。



ディスプレイドライバをインストールする場合

次ページの「ディスプレイドライバをインストールする」をご覧ください。







サウンドドライバをインストールする場合

「サウンドドライバをインストールする」(**▶P.139)をご覧ください。

ディスプレイドライバをインストールする

インストールを始める前に、必ず前ページの「インストールのときに気を付けること」をご覧ください。
ディスプレイドライバのインストールは⑨「デバイスドライバCD」から行います。

- 1 それまで本パソコンで行っていた作業を終了します。
必要に応じて作業中のデータを保存し、アプリケーションを終了してください。
- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 3  (アプリケーションの追加と削除) をクリックします。
「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 4 一覧の中の「ATI mach64 ディスプレイドライバ」をクリックします。
- 5 「追加と削除」をクリックします。
「ATI アンインストール」ウィンドウが表示されます。
- 6 「はい」をクリックします。
本パソコンが再起動します。
- 7 ⑨「デバイスドライバCD」をCD-ROMドライブにセットします。
- 8 「コントロールパネル」ウィンドウの  (画面) をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 9 「設定」タブをクリックし、「詳細」をクリックします。
- 10 「アダプタ」タブをクリックし、「変更」をクリックします。
「デバイスドライバの更新ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 11 「次へ」をクリックします。
「検索方法を選択してください。」というメッセージが表示されます。
- 12 「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」の  をクリックし、 にします。
- 13 「次へ」をクリックします。
「モデル」の一覧が表示されます。
- 14 「ディスク使用」をクリックします。
「ディスクからインストール」ウィンドウが表示されます。
- 15 「配布ファイルのコピー元」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
`e:¥display¥ati¥98`
- e には、お客様がお使いのCD-ROMドライブ名を入力してください。
「デバイスの選択」ウィンドウの一覧が表示されます。
- 16 「モデル」一覧の中の「RAGE PRO TURBO AGP 2X (日本語)」をクリックします。
- 17 「OK」をクリックします。
「ドライバ更新の警告」ウィンドウが表示された場合は、「はい」をクリックしてください。
「次のデバイス用のドライバファイルを検索します。: RAGE PRO TURBO AGP 2X (日本語)」というメッセージが表示されます。

- 18 「次へ」をクリックします。
ファイルのコピーが始まります。
「バージョンの競合」ウィンドウが表示された場合は、「いいえ」をクリックしてください。

アドバイス

「ディスク ' Mach64 Windows9X driver,disk #X ' が必要です。」というメッセージが表示されたときは「OK」をクリックし、「ファイルのコピー元」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

e:¥display¥ati¥98

- e には、お客様がお使いの CD-ROM ドライブ名を入力してください。

- 19 「RAGE PRO TURBO AGP 2X (日本語) ハードウェアデバイス用に選択したドライバがインストールされました。」というメッセージが表示されたことを確認し、「完了」をクリックします。

「RAGE PRO TURBO AGP 2X (日本語) のプロパティ」ウィンドウに戻ります。

「再起動しますか?」というメッセージが表示されたら、「はい」をクリックしてください。

- 20 「アダプタ」タブの「リフレッシュレート」が「最適」になっていることを確認します。なっていない場合は、「リフレッシュレート」の▼をクリックし、「最適」をクリックして、「閉じる」をクリックします。メッセージが表示されたら、「OK」または「はい」をクリックしてください。

- 21  「デバイスドライバ CD」を CD-ROM ドライブから取り出します。

- 22 「閉じる」をクリックします。

「画面のプロパティ」ウィンドウに戻ります。

- 23 「閉じる」をクリックします。

「システム設定の変更」ウィンドウが表示されます。

- 24 「はい」をクリックします。


本パソコンが再起動します。

- 25 「コントロールパネル」ウィンドウの右上の  (閉じるボタン) をクリックします。


「コントロールパネル」ウィンドウが閉じます。

アドバイス

画面の設定を変更するには

解像度や発色数などの画面の設定を変更するには、 『困ったときの Q & A』の「画面の解像度や発色数を変えたい」をご覧ください。本パソコンのご購入時には、解像度は 1024 x 768 ドット (CIX355 は 800 x 600 ドット) に、発色数は TrueColor (32 ビット) に設定されています。

「モニターを設定してください」というメッセージが表示されたときは

「はい」をクリックします。モニターの設定について詳しくは、 『困ったときの Q & A』の「画面が乱れる」をご覧ください。

アクティブデスクトップに設定してください

ご購入時の状態に戻すには、このあと、次の手順に従ってアクティブデスクトップに設定してください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」, 「アクティブデスクトップ」の順にマウスポインタを合わせ、「Web ページで表示」をクリックし、チェックマークを付けます。
アクティブデスクトップに切り替わります。

サウンドドライバをインストールする




インストールを始める前に、必ず「インストールのときに気を付けること」(●▶P.136)をご覧ください。

サウンドドライバのインストールは、「アプリケーション CD」から行います。

アドバイス

メッセージが表示されたら

インストールの途中で「vscvol88」というメッセージが表示されたら、「OK」をクリックしてください。

- 1 それまで本パソコンで行っていた作業を終了します。
必要に応じて作業中のデータを保存し、アプリケーションを終了してください。
- 2 「アプリケーション CD」を CD-ROM ドライブにセットします。
- 3 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 4  (アプリケーションの追加と削除) をクリックします。
「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 5 「インストール」をクリックします。
「フロッピーディスクまたは CD-ROM からのインストール」ウィンドウが表示されます。
- 6 「次へ」をクリックします。
しばらくすると、「インストールプログラムの実行」ウィンドウが表示されます。
- 7 「インストールプログラムのコマンドライン」に次のファイル名を入力し、「完了」をクリックします。
`e:¥crystal¥win9x¥setup.exe`
- e には、お客様がお使いの CD-ROM ドライブ名を入力してください。
「Crystal Audio Setup」ウィンドウが表示されます。
- 8 「Install Driver」をクリックします。
しばらくすると、「If audio hardware needs to be installed :」というメッセージが表示されます。
- 9 「Restart」をクリックします。
本パソコンが再起動されます。
「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示され、「次の新しいドライバを検索しています : PCI Multimedia Audio Device」というメッセージが表示されます。
- 10 「次へ」をクリックします。
「検索方法を選択してください。」というメッセージが表示されます。
- 11 「使用中のデバイスに最適なドライバを検索する (推奨)」が  になっていることを確認し、「次へ」をクリックします。
- 12 「検索場所の指定」の をクリックして にし、次のフォルダ名を入力します。
`e:¥crystal¥win9x`
- e には、お客様がお使いの CD-ROM ドライブ名を入力してください。
- 13 「検索場所の指定」以外の項目に があるときは、 をクリックして にします。

- 14 「次へ」をクリックします。
「次のデバイス用のドライバファイルを検索します。 : Crystal SoundFusion(tm)PCI オーディオアクセラレータ」というメッセージが表示されます。
- 15 「次へ」をクリックします。
ファイルがコピーされ、「Crystal SoundFusion(tm)PCIオーディオアクセラレータ 新しいハードウェアデバイスに必要なソフトウェアがインストールされました。」というメッセージが表示されます。
- 16 「完了」をクリックします。
しばらくすると、「Crystal SoundFusion(tm)ジョイスティック」、および「Crystal SoundFusion(tm)仮想 MPU-401」がインストールされます。

アドバイス

Windows98 の CD-ROM を要求するメッセージが表示されたときは

「OK」をクリックします。

表示されたウィンドウの「ファイルのコピー元」に `c:\windows\options\cabs` と入力し、「OK」をクリックしてください。

「再起動しますか?」と表示された場合は、「はい」をクリックし、本パソコンを再起動してください。

Crystal Sound Fusion™ ディスクを要求するメッセージが表示されたときは

「OK」をクリックします。



表示されたウィンドウの「ファイルのコピー元」に次のフォルダ名を入力し、「OK」をクリックしてください。

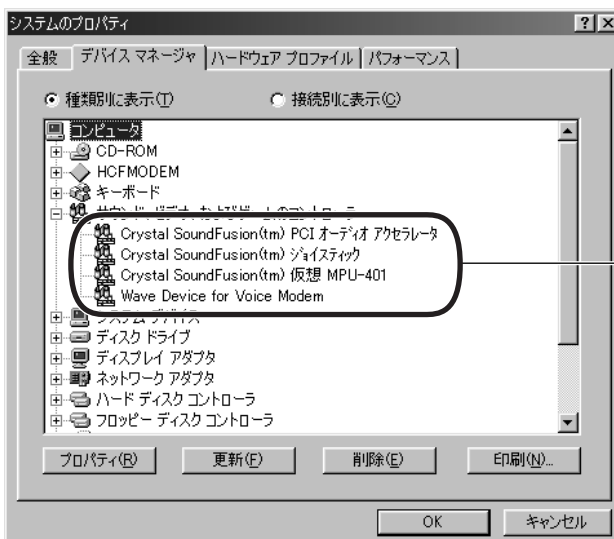
`e:\crystal\win9x`

- e には、お客様がお使いの CD-ROM ドライブ名を入力してください。

「ファイルが見つかりません。」というメッセージが表示された場合は、次のいずれかのフォルダ名を入力し、「OK」をクリックしてください。

`c:\windows\options\cabs` または `c:\windows\system`

- 17 「コントロールパネル」ウィンドウの  (システム) をクリックします。
- 18 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
- 19 「サウンド、ビデオ、およびゲームのコントローラ」の  をクリックします。
一覧が表示されます。




このように表示されることを確認します。

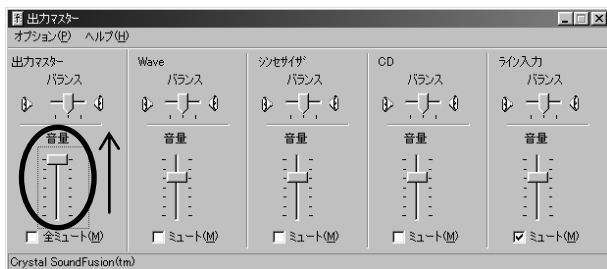
(お客様のお使いの状況により、表示される画面が異なる場合があります。)


アドバイス

「!」や「x」が表示されていたり、前ページの画面のように表示されていない場合

「!」や「x」が表示されていたり、前ページの画面のように表示されていない場合は、手順4(▶▶P.139)からやり直してください。それでも「!」や「x」が表示されている場合は、弊社パーソナルエコーセンターにご相談ください。

- 20 「OK」をクリックします。
- 21 タスクバーの (音量) をダブルクリックします。
「出力マスター」ウィンドウが表示されます。
- 22 「出力マスター」の音量つまみを上にドラッグして、音量を最大にします。

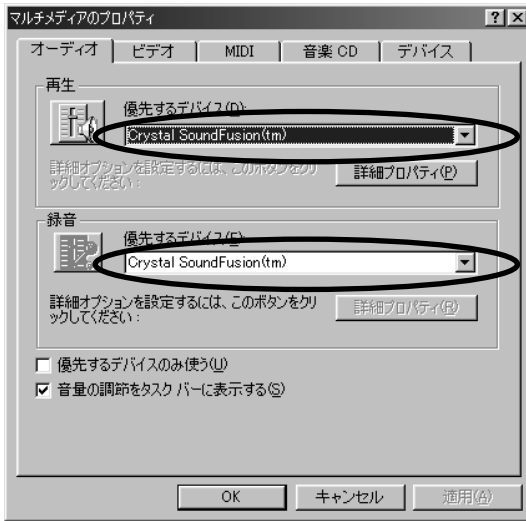


- 23 「オプション」メニューの「プロパティ」をクリックします。
- 24 「表示するコントロール」にある「マイクroフォン」のをクリックしてにし、「OK」をクリックします。
「出力マスター」ウィンドウに「マイクroフォン」が表示されます。
- 25 「オプション」メニューの「トーン調整」をクリックします。
「出力マスター」ウィンドウの「マイクroフォン」のところに「トーン」が表示されます。
- 26 「マイクroフォン」の「トーン」をクリックします。
「マイクroフォンの詳細設定」ウィンドウが表示されます。
- 27 「そのほかの調整」の「マイクroフォンブースト」のをクリックしてにし、「閉じる」をクリックします。
- 28 「出力マスター」ウィンドウの右上にある (閉じるボタン) をクリックします。
「出力マスター」ウィンドウが閉じます。

次に、MIDI の設定を行います。


- 29 「コントロールパネル」ウィンドウの (マルチメディア) をクリックします。
「マルチメディアのプロパティ」ウィンドウが表示され、「オーディオ」タブが前面に表示されます。

- 30 「再生」、「録音」の「優先するデバイス」が「Crystal SoundFusion(tm)」になっていることを確認します。
なっていない場合は、右側の▼をクリックし、「Crystal SoundFusion(tm)」をクリックします。



- 31 「MIDI」タブをクリックします。
- 32 「単一の機器」が「Crystal SoundFusion(tm)」になっていることを確認し、「OK」をクリックします。
なっていない場合は、一覧から「Crystal SoundFusion(tm)」をクリックします。



- 33 「コントロールパネル」ウィンドウの右上にある **X** (閉じるボタン) をクリックします。
- 34  「アプリケーション CD」を CD-ROM ドライブから取り出します。
- 35 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。

- 36 「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。
本パソコンが再起動します。

アドバイス

アクティブデスクトップに設定してください

ご購入時の状態に戻すには、このあと、次の手順に従ってアクティブデスクトップに設定してください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」、「アクティブデスクトップ」の順にマウスポインタを合わせ、「Web ページで表示」をクリックし、チェックマークを付けます。
アクティブデスクトップに切り替わります。

マイクをお使いになるときは

「マイクを使う」の「アドバイス」(●▶ P.22) をご覧になり、設定してください。


2

その他の注意事項

グラフィックスカードをお使いになるうえでの注意

PCI規格のグラフィックスカードを取り付ける場合、取り付ける前に「ATI mach64 ディスプレイドライバ」の削除を行ってください。削除の手順は以下のとおりです。

ただし、マルチモニタ機能を使う場合は、「マルチモニタ機能を使う」(●▶P.79)をご覧ください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2  (アプリケーションの追加と削除) をクリックします。
「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3 一覧の中の「ATI mach64 ディスプレイドライバ」をクリックします。
- 4 「追加と削除」をクリックします。
「ATI アンインストール」ウィンドウが表示されます。
- 5 「はい」をクリックします。
本パソコンが再起動します。
- 6 本パソコンの電源を切り、グラフィックスカードを取り付けます。
拡張カードの取り付けかたについて詳しくは、「拡張カードを取り付ける」(●▶P.55)をご覧ください。

液晶ディスプレイの特性 (CIX 40L/CIX 40Lc/CIX 35L をお使いの方)

- 液晶ディスプレイは、高精度な技術を駆使して作られていますが、画面上に常時点灯あるいは点灯しないドットが存在する場合があります。また、表示する色により画面が点滅するように見える場合があります。
- 液晶ディスプレイは、特性上、液晶変化で明るさや色合いに多少むらが発生することがあります。

液晶ディスプレイの廃棄 (CIX 40L/CIX 40Lc/CIX 35L をお使いの方)

液晶ディスプレイ内の蛍光管の中には水銀が含まれています。本パソコンの廃棄にあたっては、地方自治体の条例または規則に従ってください。

PS/2 互換マウスの表示 (CIX 40L/CIX 40Lc/CIX 35L をお使いの方)

CIX40L/CIX40Lc/CIX35Lでは本体背面のマウスコネクタ(PS/2互換マウスポート)にマウスが接続されないため、次の2カ所でエラーのメッセージが表示されます。故障ではありませんので、お使いになる上で問題はありません。

- 「システムのプロパティ」ウィンドウの「デバイスマネージャ」タブで、「PS/2 互換マウスポート」に「！」マークが表示されます。
- システム情報の「問題のあるデバイス」に「PS/2 互換マウスポート」と表示されます。

スタンバイ時の注意 (CIX 40L/CIX 40Lc/CIX 35L をお使いの方)

スタンバイ操作を行った際に、USB キーボードやUSB キーボードに接続したマウスでは、スタンバイから復帰できない場合があります。その場合は、電源スイッチを押して、スタンバイから復帰させてください。

市販の MIDI 機器を接続するには

本パソコンには、背面に MIDI 機器を接続するための端子 (MIDI/JOYSTICK 端子**▶P.5) があります。この端子と MIDI 機器とをケーブルで接続します。

接続には MIDI/JOYSTICK 変換ケーブルが必要です。別途ご購入ください。

MIDI 機器との接続について詳しくは、MIDI 機器のマニュアルをご覧ください。

ACPI について

本パソコンでは、省電力機能として、ACPI (Advanced Configuration and Power Interface) 機能と APM (Advanced Power Management) 機能のどちらかを選んでお使いになれます。ただし、ACPI 機能に設定した場合には、下記のような注意事項があります。本パソコンのご購入時の設定は APM 機能となっており、そのままお使いいただくことを強くお勧めします。

ACPI 機能をお使いになる場合は、下記の注意事項を十分ご確認ください。ACPI 機能へ設定を変更する場合は、設定を正しく行わないと Windows98 が起動しなくなる場合がありますので、十分ご注意ください。


重要

ハードディスクをご購入時の状態に戻してください

Windows98 の ACPI 機能に設定を変更するには、パソコンをご購入時の状態に戻す必要があります。ハードディスク (C ドライブ) 内のファイルはすべて消えることになるため、お客様が作成したデータなどの大切なファイルは、事前にフロッピーディスクなどにコピーして保存してください。

また、ご購入後にインストールされたアプリケーションは、もう一度インストールし直す必要があります。

APM 機能に戻すためには、再びハードディスクをご購入時の状態に戻す必要があります

ハードディスク内の Windows98 を残したまま、APM 機能へ設定を戻すことはできません。APM 機能へ設定を戻すには、『パソコンをふりだしにもどす本』をご覧になり、パソコンをご購入時の状態に戻してから設定を変更してください。


拡張カードなどのオプション機器は ACPI に対応している必要があります

ACPI 機能は Windows98 がパソコン全体の電力を管理する機能であるため、パソコンに接続されているすべての拡張カードなどのオプション機器は、ACPI 機能に対応している必要があります。ACPI 機能に対応していないオプション機器を接続して使用する場合には、APM 機能のままお使いください。ACPI 機能に設定して、ACPI 機能に対応していない拡張カードなどのオプション機器を接続すると、接続したオプション機器が使用できない、省電力モードから復帰しない、などの不具合が発生する場合があります。

なお、お使いになるオプション機器によっては、デバイスドライバで ACPI 機能に対応できるものもあります。詳しくは、オプション機器のマニュアルをご覧ください。

ACPI に切り替えた直後は電源スイッチを押すと電源が切れます

電源スイッチでスタンバイへの切り替えを行う場合は、以下の手順で設定を変更してください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2  (電源の管理) をクリックし、「詳細」タブの「電源ボタン」の「コンピュータの電源ボタンを押したとき」の設定を「スタンバイ」にします。

キーボードやマウスの操作では、スタンバイから復帰しません

ACPI 機能の設定では、電源スイッチによるスタンバイからの復帰は可能ですが、キーボードやマウスからは復帰できません。ただし、CIX 40L/CIX 40Lc/CIX 35L をお使いの方は、キーボードやマウスからも復帰が可能です。

IRQ9 は ACPI 機能で使われます

リソースの「IRQ9」を「ACPIバスで使用されている SCI IRQ」が使用しますので、拡張カードなどをお使いの場合は、IRQ（割り込み要求）（**▶P.129、130）の重複にご注意ください。

最新情報を入手するには

ACPI 機能に関する最新の注意事項については、富士通インターネット情報ページ「FM WORLD」（<http://www.fmworld.ne.jp>）に掲載していますので、あわせてご確認ください。

Windows 98 の ACPI 機能を設定する

■ 必要なものを用意する ■

ACPI の設定には、本書のほかに以下のものがが必要です。

- ⑥ 『パソコンをふりだしにもどす本』
- 📄 『取扱説明書』
- 📀 『リカバリ CD-ROM 起動ディスク』
- 📀 『リカバリ CD-ROM』（1/2）（2/2）
- 📀 『アプリケーション CD』



■ ACPI 切り替えプログラムを使う ■

いったん ACPI 機能に切り替えると、APM 機能に戻すには、増設したオプション機器（拡張カードやプリンタ、スキャナなど）を取り外し、作成したデータを保存して、再びハードディスク（Cドライブ）をご購入時の状態に戻す必要があります。前述の注意事項をご確認の上、内容にご同意いただける場合のみ、以下の操作を行ってください。

- 1 ⑥ 『パソコンをふりだしにもどす本』、📄 『取扱説明書』 をご覧になり、本パソコンをご購入時の状態に戻します。
ご購入後に増設されたオプション機器（拡張カード類やプリンタ、スキャナなど）は全て取り外してください。これらのオプション機器は、すべての作業が終了するまで取り付けないでください。
また、ご購入後に作成したデータ、インストールしたアプリケーションなどは、すべて削除されます。必要なデータは、あらかじめフロッピーディスクなどに保存しておいてください。
- 2 本パソコンの電源を入れます。
- 3 📀 『アプリケーション CD』 を CD-ROM ドライブにセットします。
- 4 「スタート」 ボタンをクリックし、「ファイル名を指定して実行」 をクリックします。
- 5 「名前」 に次のように入力し、「OK」 をクリックします。
`e:¥chgacpi¥chgacpi.exe`
- e には、お使いの CD-ROM ドライブ名を入力してください。
「FUJITSU ChgACPI」 ウィンドウが表示されます。内容をよくお読みください。
- 6 「次へ」 をクリックします。
- 7 「ACPI モードに設定する」 の をクリックし、 にします。
- 8 「次へ」 をクリックします。
- 9 「完了」 をクリックします。
「新しいハードウェアの追加ウィザード」 ウィンドウが表示されます。
- 10 「次へ」 をクリックします。
「システムにあるプラグアンドプレイ機器を検索します。」 というメッセージが表示されます。

- 11 「次へ」をクリックします。

アドバイス

「インストールするデバイスは一覧にありますか?」というメッセージが表示されたときは「デバイスは一覧にない」の  をクリックして  にし、「次へ」をクリックしてください。

- 12 「新しいハードウェアを自動的に検出しますか?」というメッセージが表示されたら、「はい」をクリックし、「次へ」をクリックします。
「プラグアンドプレイで検出されなかった新しいデバイスを検索します。」というメッセージが表示されます。

- 13 「次へ」をクリックします。
新しいデバイスの検索が始まります。検索には数分かかります。
「ハードウェアの検出が完了し、インストールの準備ができました。」というメッセージが表示されます。

- 14 「完了」をクリックします。


- 15 「今すぐ再起動しますか?」というメッセージが表示されたら、フロッピーディスクがセットされていないことを確認し、「はい」をクリックします。
本パソコンが再起動し、新しいハードウェアの検出が実行されます。

アドバイス

メッセージが表示されたら

- 「マウスが接続されていません」というメッセージが表示された場合は、**[Enter]**を押してください。
- 「ドライバ更新の警告」ウィンドウが表示された場合は、「はい」をクリックしてください。
- 「Windows 98 の CD-ROM」を要求するメッセージが表示された場合は、**c:\¥windows¥options¥cabs** と入力し、「OK」をクリックしてください。
- 「ディスプレイ設定に問題があります」というメッセージが表示された場合は、「OK」をクリックし、続いて表示される「画面のプロパティ」ウィンドウで「キャンセル」をクリックしてください。

- 16 「今すぐ再起動しますか?」というメッセージが表示されたら、「はい」をクリックします。



- 17 本パソコンが再起動したら、CD-ROM ドライブから  「アプリケーション CD」を取り出します。


- 18 ACPI 機能に設定されたことを確認するため、電源スイッチを押します。
自動的に電源切断処理が行われ、Windows 98 が終了すれば、ACPI 機能が正常に働いています。

- 19 電源が切れたら、10 秒ほど待って、もう一度本パソコンの電源を入れます。

- 20 画面の設定をします。
ご購入時の状態に戻すには、解像度や発色数などの画面の設定を変更する必要があります。変更のしかたについて詳しくは、**[4]**『困ったときのQ&A』の「画面の解像度や発色数を変えたい」をご覧ください。



■ 3 モードフロッピードライバを再インストールする ■

- 1 「コントロールパネル」ウィンドウの  (システム) をクリックします。
- 2 「デバイスマネージャ」タブをクリックし、「フロッピーディスクコントローラ」の  をクリックします。
- 3 「Fujitsu 3-mode Floppy (FMV Series)」をクリックし、「削除」をクリックします。
「デバイス削除の確認」ウィンドウが表示されます。

- 4 「OK」をクリックします。
- 5 「閉じる」をクリックします。
- 6 「コントロールパネル」ウィンドウの  (ハードウェアの追加) をクリックします。
「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 7 「次へ」をクリックします。
- 8 「システムにあるプラグアンドプレイ機器を検索します。」というメッセージが表示されたら、「次へ」をクリックします。

アドバイス

「インストールするデバイスは一覧にありますか？」というメッセージが表示されたときは「デバイスは一覧にない」の をクリックして にし、「次へ」をクリックしてください。

- 9 「新しいハードウェアを自動的に検出しますか？」というメッセージが表示されたら、「いいえ」の をクリックして にし、「次へ」をクリックします。
- 10 「ハードウェアの種類」で「フロッピーディスクコントローラ」をクリックし、「次へ」をクリックします。
- 11 「ディスク使用」をクリックします。
- 12  「アプリケーションCD」をCD-ROMドライブにセットします。
- 13 「配布ファイルのコピー元」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
`e:¥3mode`
- eには、お使いのCD-ROMドライブ名を入力してください。
- 14 「次へ」をクリックします。
- 15 「完了」をクリックします。
- 16 「今すぐ再起動しますか？」というメッセージが表示されたら、「はい」をクリックします。
本パソコンが再起動します。
- 17 本パソコンが再起動したら、CD-ROMドライブから  「アプリケーションCD」を取り出します。

これでACPI機能の設定は終了です。このあとにオプション機器の接続、アプリケーションのインストールを行ってください。

アドバイス

BIOS セットアップの設定を変更してください

必要に応じて、BIOS セットアップの Boot Options メニューの Fast Boot (●▶ P.94) を「Auto」に変更してください。

索引

記号

109 キーボード	8
2DD フロッピーディスク	23
2HD フロッピーディスク	23
3 モードドライブ	23

A

ACPI	145
Alt キー	8
Application キー	8
ATAPI	7

B

Back space キー	8
BIOS セットアップ	82
- の設定時に使う各キーの役割	85
- の設定を変更する	84
- の操作のしかた	83
- の変更内容を取り消す	85
- メニューの詳細	90
- を起動する	83
- をご購入時の設定に戻す	88
- を終了する	86
BIOS メッセージ	122
Boot Options	94
BUSY ランプ	3

C

Caps Lock 英数キー	8
CD-ROM	26
- が取り出せないとき	28
- をセットする	27
- を取り出す	28
CD-ROM ドライブ	3, 7
- のお手入れ	32
CMOS RAM	82
Ctrl キー	8

D

Date and Time	93
Delete キー	9
DIMM	45
Disk Drives	96
DRQ (DMA 要求)	129, 130

E

ECC	45
EJECT ボタン	3
End キー	9
Enter キー	9
ESCD	106
Esc キー	8
Exit Setup Utility	111

F

FAX / ボイスモデムカード	52
- 仕様	127
F キー	8

H

Home キー	9
---------------	---

I

I/O ポートアドレス	130
IDE	7, 60
Insert キー	8
IRQ (割り込み要求)	129, 130

L

LAN カード	52
LINE IN 端子	5
LINE OUT 端子	5
LINE 端子	5, 134

M

MB	23
MIDI/JOYSTICK 端子	5, 134
MIDI 機器	145
MO	75
MO ドライブ	75

N

Num Lock キー	9
-------------------	---

P

Page Down キー	9
Page Up キー	9
Pause キー	9
PC/AT 互換機	35
PCI	53
PCI 拡張カード	54
Peripherals	101
PHONE 端子	5, 134
Plug&Play	53
PnP	53
PnP/PCI	105
Power Management	107
Power-on Password	113
- を削除する	121
- を変更する	121
Print Screen キー	8
Product Information	92
PS/2 互換マウス	144

S

Scroll Lock キー	8
SCSI	60, 75
SCSI カード	52, 61
SCSI ケーブル	61
SDRAM	45
Setup Password	113
- を削除する	120
- を変更する	121
Shift キー	8
SPD	45
SPK OUT 端子	5
System Information	91
System Management	110

T

TA	77
TWAIN	76

U

USB	3
USB 機器	77
USB コネクタ	3, 5, 134

V

Video	104
-------------	-----

W

Windows キー	8
------------------	---

ア

アウトレット	5
--------------	---

イ

インジケータ	9
インストール	35
インレット	5

エ

液晶ディスプレイの特性	144
液晶ディスプレイの廃棄	144

オ

お手入れ	29
オプション機器	34, 75
音量つまみ	18
音量ボリューム	3, 17
音量を調節する	17

カ

カーソルキー	9
解像度	128
書き込み禁止タブ	25
拡張カード	51
- を増設する	51
- を取り付ける	55
拡張スロット	5, 6, 53, 55
各部の名称と働き	2

キ

キーボード	8
- のお手入れ	29
キーボードコネクタ	5, 134
強制終了できないとき	14

ク

空白キー	8
グラフィックスカード	144

ケ

ケーブル	35
------------	----

コ

コア	20
工具	36
コネクタのピン配列と信号名	133

サ

- サウンド機能仕様 127
- サウンドドライバをインストールする 139

シ

- システムバスクロック 45
- ジャンプスイッチ 116
- 終端抵抗 61
- 終了 12
- 仕様一覧 126
- シリアルコネクタ 5, 133

ス

- スキャナ 76
- スタンバイ 14, 145
- スピーカー 16
 - から音が聞こえないとき 19
 - 仕様 128
 - のお手入れ 29
 - の音量を調節する 17
- スペースキー 8
- スロットカバー 57

セ

- セットする
 - CD-ROM 27
 - フロッピーディスク 25
- 接続する
 - プリンタ 39

ソ

- 増設する
 - 拡張カード 51
 - ハードディスク 59
 - メモリ 44
- 外付けハードディスク 61
 - を取り付ける 62

タ

- ターミナルアダプタ 77
- ターミネータ 61
- 縦置き用フット 3

チ

- チルトフット 9

ツ

- 通風孔 5

テ

- ディスプレイコネクタ 5, 133
- ディスプレイドライバをインストールする 137
- ディスプレイのお手入れ 29
- ディップスイッチ 115
- デバイス 131
- テンキー 9
- 電源 10
 - を入れる 10
 - を切る 12
- 電源スイッチ 3, 14
- 電源ユニット 7
- 電源ランプ 3

ト

- ドライバ 35
- 取り出す
 - CD-ROM 28
 - フロッピーディスク 25
- 取り付ける
 - 拡張カード 55
 - 外付けハードディスク 62
 - 本体カバー 43
 - メモリ 47
- 取り外す
 - 本体カバー 42

ナ

- 内蔵ハードディスク 7

ハ

- ハードディスク 59
 - 増設時のドライブ名の割り当て 70
 - の領域を削除する 69
 - の領域を設定する 64
 - を増設する 59
 - をフォーマットする 71
- ハードディスクアクセス表示ランプ 3
- ハーフサイズ 53
- パスワード 113
 - 設定後のパソコンの起動 119
 - の種類 113
 - を削除する 120
 - を設定する 114
 - を使う 113
 - を変更する 120
 - を忘れてしまったら 120

パソコン本体	2
- 仕様	126
- のお手入れ	29
発色数	128
パラレルコネクタ	5, 133

ヒ

光磁気ディスクドライブ	75
ビデオキャプチャカード	52

フ

フォトレタッチソフト	76
プラグアンドプレイ	53
プラスのドライバー	36
プリンタ	37
- を接続する	39
プリンタケーブル	38
ブロック転送	98
フロッピーディスク	23
- のデータを守る	25
- をセットする	25
- を取り出す	25
フロッピーディスクアクセス表示ランプ	3
フロッピーディスクドライブ	3, 7
- のお手入れ	31
フロッピーディスク取り出しボタン	3

へ

ヘッドホン	20
- から音が聞こえないとき	21
ヘッドホン端子	3

ホ

本体カバー	42
- を取り付ける	43
- を取り外す	42

マ

マイク	22
マイク端子	3
マウスコネクタ	5, 133
マウスのお手入れ	30
マルチモニタ機能	79

ミ

ミュート	18
------------	----

メ

メモリ	44
- の組み合わせ	46
- の取り付け場所	46
- の持ちかた	48
- 容量の数値が増えていないとき	49
- 容量を確認する	49
- を交換する	49
- を取り付ける	47
- を増やす	44
メモリスロット	7, 46

モ

モデムカード	52
--------------	----

リ

リソース	129, 130
- 一覧	129
- を解放する	131
領域	
- を削除する	69
- を設定する	64

Microsoft、Windows、MS、MS-DOS、WindowsNTは、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Pentium、MMX は、米国インテル社の登録商標です。

AMD-K6 は、Advanced Micro Devices, Inc. の登録商標です。

Celeron は、米国インテル社の商標です。

RAGE は ATI Technologies Inc の商標です。

K56flex は Lucent Technologies 社、Rockwell International 社の商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright© 富士通株式会社 1999

画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

FMV 本体 & オプションガイド

B3FH-4931-01-00

発行日 1999年1月

発行責任 富士通株式会社

Printed in Japan

本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。

本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。

無断転載を禁じます。

落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。

④ 9901-1

ここでは、マニュアルの主な内容を紹介しています。

初めてのの方は...

『かるがるパソコン入門』

- ・基本の操作を覚える
- ・文字を打つ

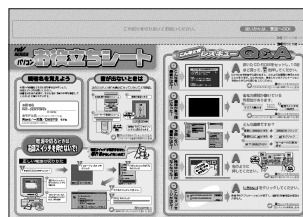


CD-ROMが
付いています



『お役立ちシート』

- ・お手元に置いてお使いください。



FMVを使いこなそう!

『まるごとEnjoy FMV』

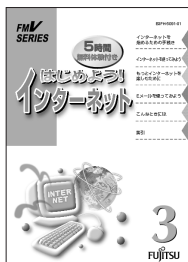
- ・FMVでできること
- ・地図で調べる
- ・電車の経路を調べる
- ・はがきを作る



『はじめよう! インターネット』

- ・インターネットをはじめる
- ・ホームページを見る
- ・Eメールで手紙を出す

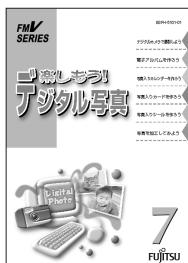
5時間
無料体験付き



『楽しもう! デジタル写真』

- ・デジタルカメラで写真を撮る
- ・写真でカレンダーを作る
- ・電子アルバムを作る

次の機種には添付されません。
FMV-DESKPOWER MIX36L / MIX367 / MIX365
FMV-BIBLO NEIX26 / NSIX26X / MFIX26



パソコンの取り扱いは

『FMV 本体&オプションガイド』

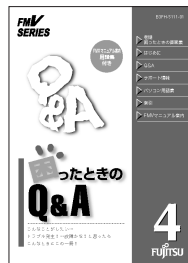
- ・各部の名前を知る
- ・プリンタをつなぐ
- ・メモリを増やす
- ・ハードディスクを増やす



トラブル解決!

『困ったときのQ & A』

- ・困ったときの画面集
- ・画面の設定を変える
- ・サポート情報
- ・パソコン用語集



『パソコンをふりだしにもどす本』

- ・買ってきた状態にもどす



パソコンのしくみを知る

『パソコンがおもしろくなる本』

- ・パソコンのしくみを知る
- ・使いかたのコツをつかむ



T4988618872034